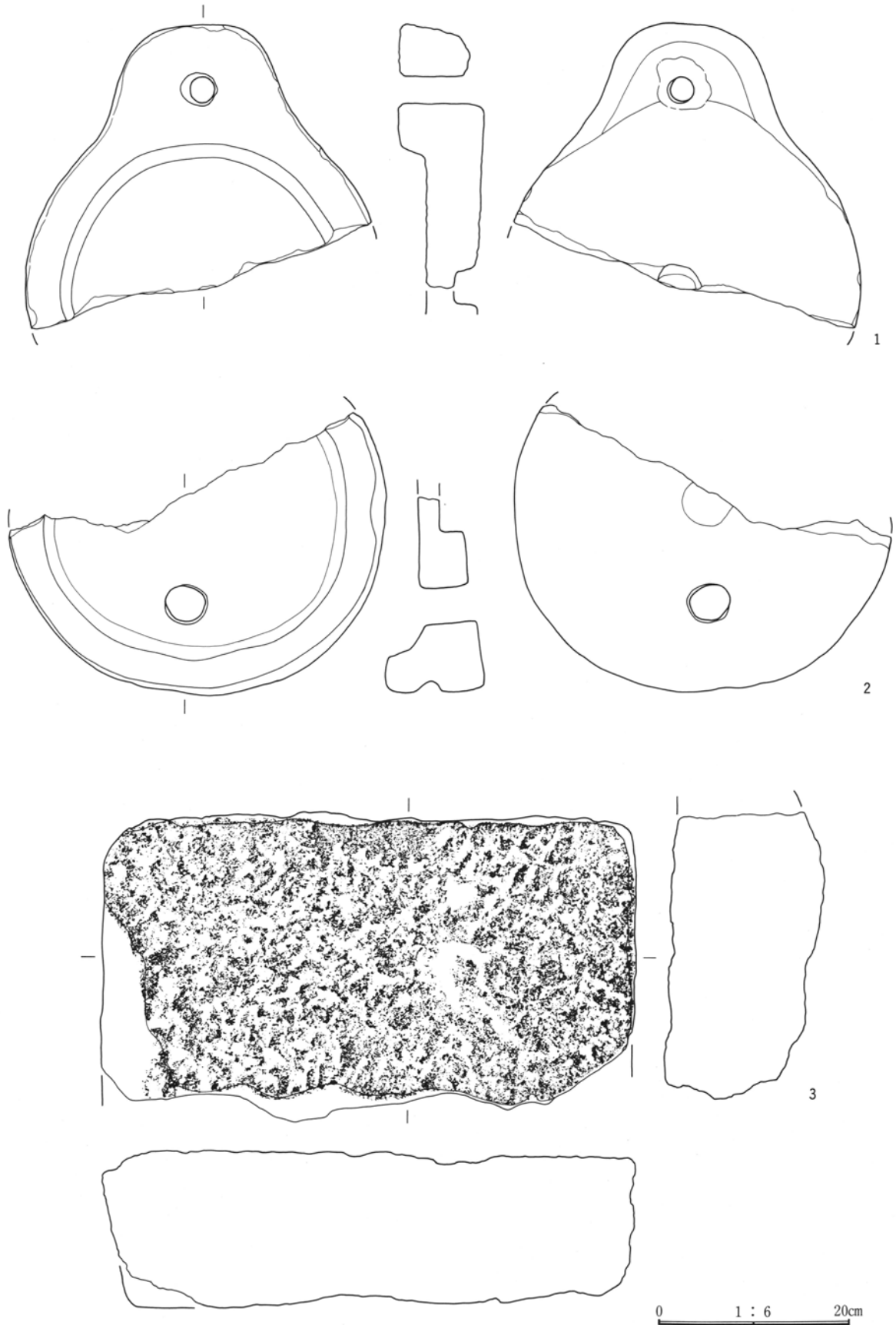


IV 発掘調査の成果



第173図 VII区近世井戸出土遺物(2)  
(1~3は9号井戸出土)

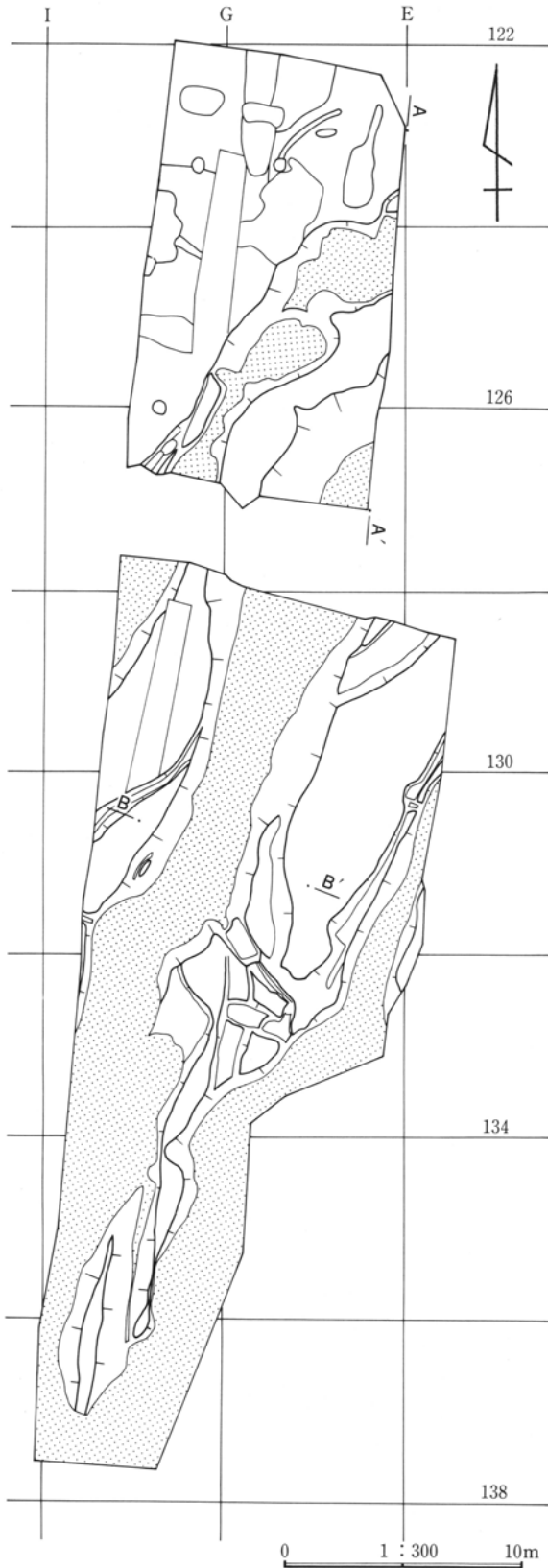


第174図 VII区近世井戸出土遺物(3)

(1~6は10号・11号井戸出土)



IV 発掘調査の成果



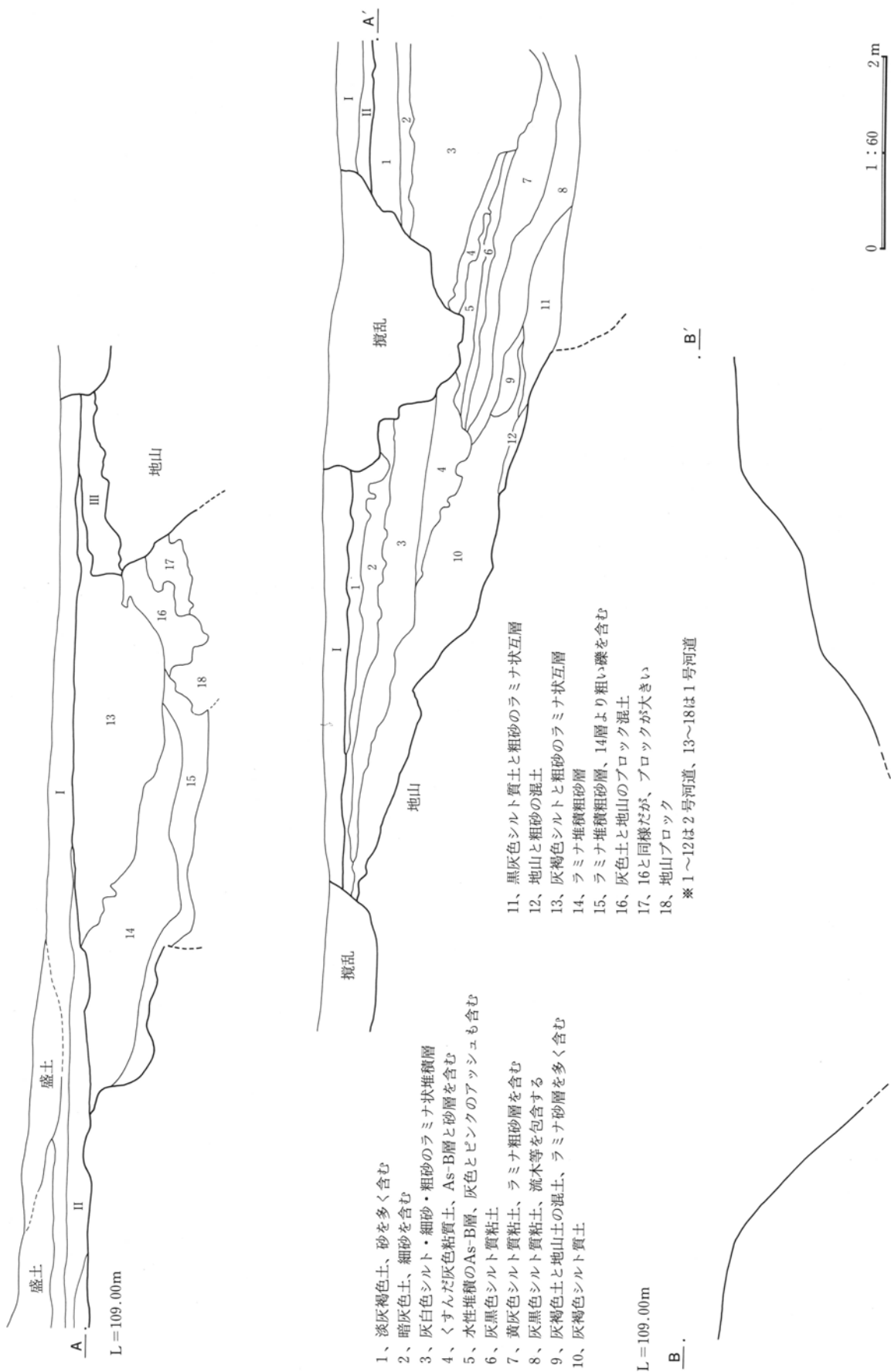
第175図 VII区南半近世以降の河道跡

河道跡 (第175図～第178図)

VII区南側で牛池川の河道跡3本を確認。いずれも北東から南西方向に流路をとり、広いところでは河幅7mを測る。覆土は砂質土が主体で、底面までの調査を試みたが、崩落の危険性から断念せざるを得なかった。各河道の切り合い関係は確認できないが、台地寄りの北西から南東へ漸次移動し、現代の流路に至ったものと考えられる。

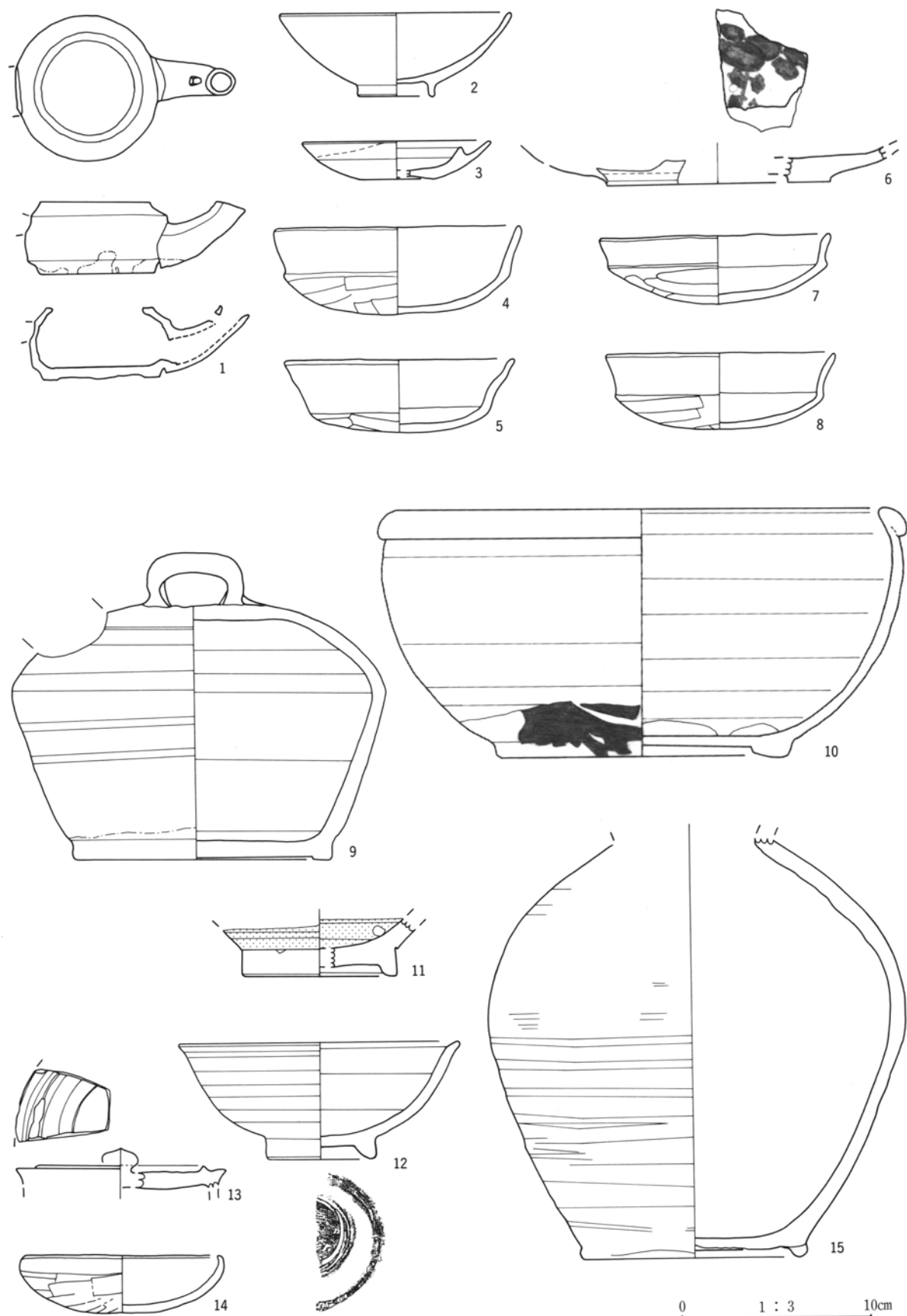
出土遺物は、河道から中古代～近代の土器類の他に、石製の敷居や礎石の一部と見られる石製品、杭や板などの木製品などがあり、土器類では江戸時代後期の陶磁器類が主体を占めている。いずれの河道からも江戸時代後期以降の土器類が出土していることから、この地区の河道は近世以前に遡るものはないと考えられる。

なお、地元の話では、昭和30年代までこの地区は、湿地としての痕跡をとどめていたと言う。

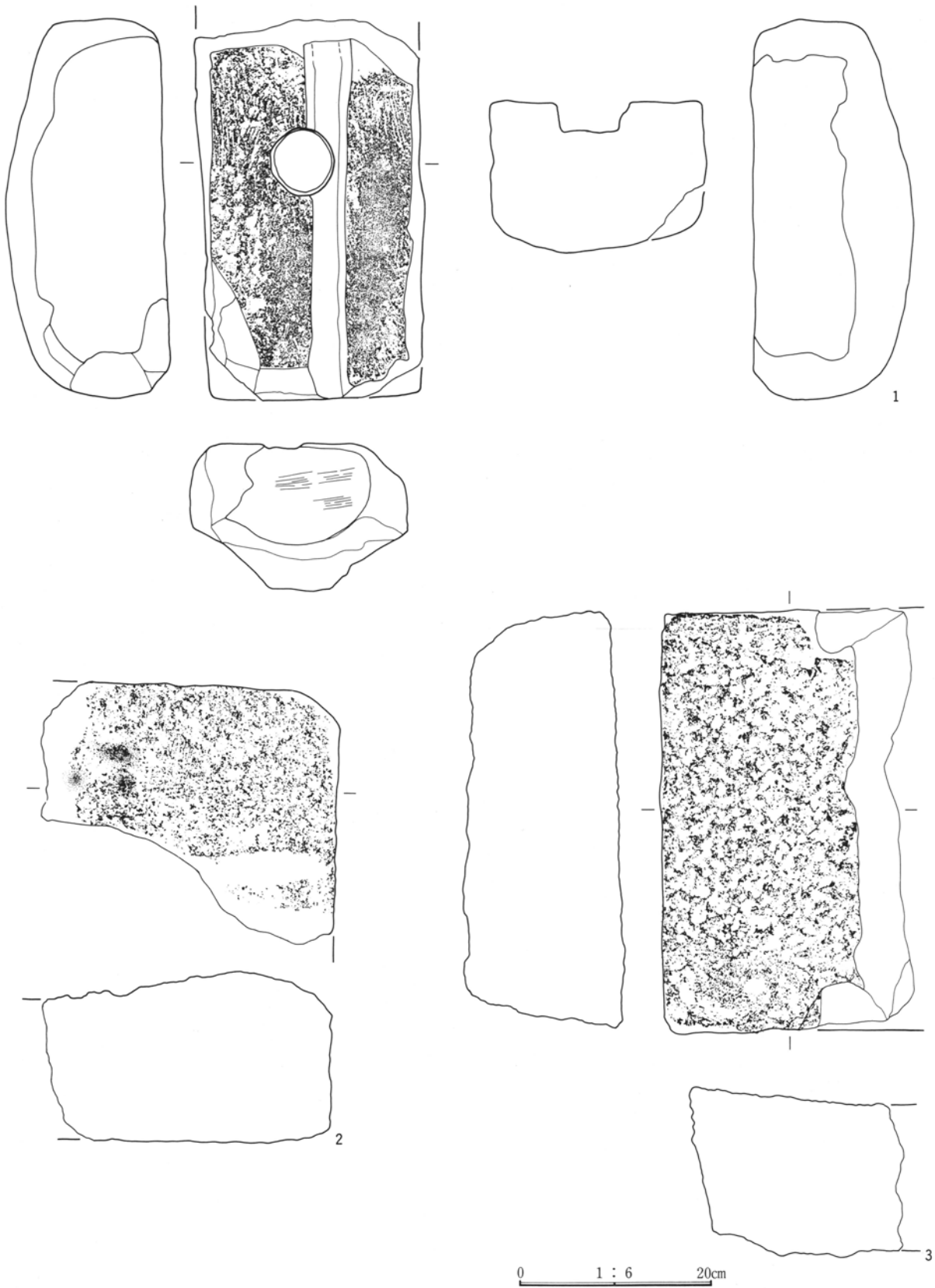


第176図 VII区南近世以降の河道跡断面図

IV 発掘調査の成果



第177図 VII区南半近世以降の河道跡出土遺物(1)



第178図 VII区南半近世以降の河道跡出土遺物(2)

## V 調査成果のまとめ

### 1. 低地出土の奈良～

#### 平安時代の遺物

今回報告したVI・VII区の調査では、旧石器時代から近世にわたって多くの成果が得られた。

旧石器時代の確認調査では、残念ながら遺構・遺物は確認できなかったが、As-YP降灰直前の前橋台地の環境が明確になり、遺跡存在の可能性に期待がもてるようになった。

縄文時代の調査では、中期後半および晩期終末期の遺構・遺物が発見され、元総社ラハール堆積後の前橋台地での活動状況の一端を追加するとともに、農耕社会への移行を考える上でも重要な地域の一つであることを確認することができた。

弥生時代の調査では、中期後半の遺物と後期の住居3軒等を確認し、本地区が弥生時代の初期段階から開発がはじまる、農耕伝統地域の一面であることが判明した。

古墳時代の調査では、台地上で4世紀代の住居3軒と溝2条、低地ではAs-C層下水田と4～5世紀代の木器を中心とする遺物包含層を確認した。特に注目される遺物として、農耕祭祀に伴うと考えられる4世紀代の船形木製品がある。同形態の例が東海地方にあり、両地域の関係に新たな資料を加えることができた。

奈良・平安時代の調査では、VI・VII区台地上で住居15軒、井戸2基、土坑7基、溝6条の遺構を、また低地で河道跡と多量の遺物を確認した。低地出土の遺物のなかには「国厨」、「国」、「厨」、「□曹司」を含む墨書土器、漆壺を主体とする多量の漆付着土器、都の土器を模倣した土師器高坏、人形5点をはじめとする形代木製品、斎串2点、黒漆塗りの椀・皿12点などが含まれており、本地区が上野国府域にあたることは、ほぼ確実となった。遺構のうち、VI区台地縁辺で確認した石敷きの造作を伴う3号土坑と、VII区台地上で確認した4号溝は、国府に関連

する施設の可能性が高い。

中世の調査では、VIB区からVII区にかけて、蒼海城の外堀と考えられる堀の一部、およびその延長上にのびる堀を確認し、蒼海城の構造の一端を明らかにした。

近世の調査では、江戸時代後期以後、VII区台地上が居住域化し、ムロが盛んに利用されていたこと等が判明した。

以上の成果のうち、ここでは低地出土の奈良・平安時代の遺物について、調査成果の補足をしておきたい。

本遺跡では奈良・平安時代の低地の調査が進むにつれて、様々な遺物が含まれていることがしだいに判明し、従来から言われてきたように本地区が国府域であることを確信するに至った。しかし、政庁をはじめとする遺構の存在は今後の調査にゆだねられており、当面はこれら遺物が上野国府を検討する際の考古学的材料となる。今回の調査で得られた国府関連の遺物は、いくつかの要素が複数で確認された点に意義があり、単品での出土では確信するには至らなかったであろう。その点をさらに補強する意味で、低地出土の遺物のうち、年代を持つ土器について集計を試みた。

集計の対象としたのは、VI区低地のFPF-1（6世紀初頭）とAs-B（1108年）の間に包含されていた土器である。集計結果を14表に示す。上表は器種別出土量、下表は須恵器・土師器の場所別出土量である。VI区低地の調査は2年次にわたっており、北半部では層位毎の調査を試み、土層のAs-B下第一粘土層からFPF-1上面までを5層に区分し、各層位毎に遺物を取り上げている。しかし、水流を伴う自然堆積土は判読が難しく、思ったような成果は出ていない。また、「VI区河道上面」としたものは、VI区南半部の調査で1～5号河道を認定する時点までの遺物を一括している。なお、1号河道からも少量の遺物が出土しているが、手違いでもれてしまった。

出土土器の総数は12,006点である。大半が破片で、時期が判定できたのは約半数である。器種分類や時

1. 低地出土の奈良～平安時代の遺物

表14 VI区低地III層中出土土器一覧

	4~6C	7C	前	後	8C	前	後	9C	前	後	10C	前	後	11C	不明	合計
<須 惠 器>		5		14	276	535	1,392	172	952	207	216	286	154	52	3,651	7,910
杯		2		4		264	1,010	22	782	120	76	118	46	52	603	3,099
高台付杯					23	44	116	9	65	45	44	34	1		83	464
碗								73	33	20	58	134	105			423
高台付碗							1	37	25	17	34				7	121
蓋				7	242	196	257	1	8	5					217	933
皿								30	37						3	70
盤				1	2	22			1						6	32
高 盤				2	3		1								6	12
壺					1										45	46
長頸壺					4	3	6		1						30	44
短頸壺															11	11
広口壺															3	3
甕					1		1								2	4
高 杯		3				6									2,629	2,629
鉢											4				6	15
																4
<土 師 器>	207	387		6	94	216	210	13	44	8	4				2,036	3,225
杯	205	387		6	69	189	202	12	33						224	1,327
高 杯	2					1									14	16
皿						25	26	8	11	8	4				1,798	1,881
甕																
<灰 釉 陶 器>									1	28		99	39	16	364	547
碗・皿類									1	28		99	39	16	247	430
瓶															117	117
<緑 釉 陶 器>															11	11
<白 磁>															6	6
<黒 色 土 器>					2		1	2			2	6			19	32
<羽 釜>															236	236
<土 釜>														16	21	37
總 計	207	392		20	372	751	1,603	187	997	243	222	391	193	84	6,344	12,006

	4~6C	7C	前	後	8C	前	後	9C	前	後	10C	前	後	11C	不明	合計
<須 惠 器>																
2号河道		2		3	1	47	124	5	42	19		35	17		592	887
3 〃				9	87	66	271	10	269	28	11	71	72		438	1,332
4 〃						20	217	4	16	8	2				46	313
5 〃					45	34	80		40	8	21				421	649
VI A区河道上面						105	215		277	58		108	15	9	403	1,190
VI区As-B下第1粘土		1			27	35	53	4	44	24	24	10	7	14	192	435
VI区南As-B下砂					28	51	101		62	29	11	34	25	7	119	467
VI区第1砂				1	68	72	148	59	160	17	103	28	16	13	736	1,421
VI区As-B下第2砂		2			4	22		4	42	16	10				151	251
VI区FA上面				1	16	83	183	86			34			9	557	969
小 計		5		14	276	535	1,392	172	952	207	216	286	152	52	3,655	7,914
<土 師 器>																
2号河道		5		14	5			1			2				137	145
3 〃	114					21	48	7	4		1				305	500
4 〃						128	53		19	8	1					209
5 〃	5	94				13	40	5							210	367
VI A区河道上面	19	150				22	43		20						655	909
VI区As-B下第1粘土															73	73
VI区南As-B下砂	4	8				5	5		1							23
VI区第1砂	38	107		6	23	19	21								287	501
VI区As-B下第2砂		4			58	8									185	255
VI区FA上面	27	24			8										184	243
小 計	207	387		6	94	216	210	13	44	8	4				2,036	3,225
總 計	207	392		20	370	751	1,602	185	996	215	220	286	152	52	5,691	11,139

## V 調査成果のまとめ

期区分は心許なく、概数としてみていただきたい。

4～5世紀代の土器が含まれているのは、当時の河道がFPF-1層を下刻したり、河道縁辺の崩落・流入によるものであろう。これらも含めて、磨耗の著しい破片もわずかながら含まれるが、大半は割れ口がシャープであり、本地区周囲からの流入・投棄等によるものと考えている。

時期が判定できた約半数の土器をもとに時期別の量比を見ると、4～6世紀代は別として、7世紀代が412点、8世紀代2726点、9世紀代1427点、10世紀代806点、11世紀代84点で、8世紀後半をピーク8世紀前半から9世紀前半を中心としており、この間に全体の7割が含まれている。器種別量比では須恵器が全体の66%を占めており、蓋・盤を含めた食器類がそのうちの65%を占めている。壺・甕類が1個体の破片数が多いことを考えると、さらにパーセントは増加するであろう。土師器は全体の27%を占め、やはり7～8世紀代が主体となっている。

細かな器種構成には言及できないが、8世紀代に須恵器食器類が突出している点は本遺跡の大きな特色であり、須恵器壺G類や8世紀代の黒色土器を含んでいる点は注目してよいだろう。個別の例としては、脚部に陵をもつ土師器高坏（第84図7、第88図9）や7世紀代の畿内産暗文土師器坏（第60図12、第84図5）、須恵器坏（第60図13）なども、県内では特殊な土器の部類である。

また、表には示さなかったが、漆附着土器が154点出土している。内訳は須恵器が148点で、そのうち壺・甕類が106点、坏類が41点、蓋1点、土師器が6点で、そのうち甕2点、坏4点である。県内でも漆附着土器や漆紙の確認例はいくつか認められるが、これだけ大量に保有している遺跡は例がない。先述した漆器の他に黒漆塗りの弓なども出土しており、ここで製作・修繕が行われていたと考えてよいだろう。

なお、土器以外の遺物としては、先述した木製品の他に、硯5点（円面硯3、凡字硯1、転用硯2）、羽口4点、鉄滓13点、布目瓦672点、馬を主体とする多量の獣骨・人骨、麦を主とする炭化穀類、種実な

どが出土している。

以上の遺物は牛池川沿いの低地から出土したもので、基本資料とは言い難い性格のものである。しかし、そのうちのいくつかの要素は明らかに国府の存在を示していると言ってよいだろう。今回の調査で出土した土器のなかには、周辺の竪穴住居から投棄されたものも当然含まれるが、この地点に国府の中核に関連する遺物が多いことは、政庁に近いことを示しているとも言えよう。

今回は不十分ながら基礎的な資料の提示にとどめ、今後の周辺部調査に期待したい。

## 2. 元総社寺田遺跡VI区・VII区出土の墨書土器・墨書木製品

### (1) はじめに

本遺跡VI区・VII区の調査において、32点の墨書土器と、3点の墨書のある木製品が出土した。それらの中には、これまでの本県における文字資料の出土例<sup>(1)</sup>では見られなかったような特筆すべき内容の資料が含まれているので、若干の検討を試みることにしたい。なお、文字資料全点の釈読は筆者の責任において行ったが、一部については平川南氏（国立歴史民俗博物館）よりご教示をいただいた。

### (2) 墨書土器の概要

前述したようにVI区・VII区からは32点の墨書土器が出土した。なお、既刊『元総社寺田遺跡』I所収で未釈読であったV区1面6号溝出土の墨書土器<sup>(2)</sup>が、今回報告する資料と密接な関連を有すると考えられるので、改めて紹介を兼ねてとりあげることとし、併せて33点について報告する。

まず、本報告書所収の墨書土器32点の出土遺構、出土状況であるが、全32点のうち31点がVI区からの出土で、VII区出土のものはわずか1点のみである。VI区出土の資料の内訳は、9号土坑跡より1点(31)、浅間山火山灰As-B層（天仁元年・1108年降下）下の第1砂層中より7点（23～29）、同粘土層中より1点（30）、旧河道上面より5点（18～22）、2号河道跡より2点（1～2）、3号河道跡より5点（3～7）、4号河道跡より4点（8～11）、5号河道跡より6点（12～17）となり、特に各出土地点・出土状況ごとの墨書土器の特徴は見出せない。土坑跡出土の1点以外は、隣接する施設・建物群からの流れ込みと考えられ、墨書土器を解釈する上で手掛りとなるようなデータを出土状況の検討から得ることはできなかった。また、いずれも旧流路中や水性堆積層中からの出土であるため、破片ばかりであり、中には磨耗の甚しいものもある。

各墨書土器の記載内容、器種、墨書の部位・方向、土器の年代等は表1の通りである。土器の年代は8世紀後半から10世紀にわたっているが、殆んどものが9世紀代である。器種は、2点以外すべて須恵器であるが、今回報告する調査区内出土の土器類の大半は須恵器であるので、これは墨書土器のみに見られる特色というわけではない。土器に文字が記された位置・方向をみると、<sup>(3)</sup>坏・埴類の底部外面が圧倒的に多く、21点にもものぼり、次いで体部外面正位が4点、底部内面が3点、蓋内面2点、蓋外面1点、底部内外面二箇所、体部外面横位・底部内面二箇所が各1点である。墨書土器に記された文字の位置についての全般的な傾向として、集落遺跡出土のものには体部に記されたものが多く官衙跡もしくは官衙関連遺跡出土のものには底部外面に記されたものが多いと言われている。<sup>(4)</sup>後述するように、本遺跡は官衙、それも上野国府の一角にあたる遺跡と考えられるが、その点からみると、まさに本遺跡出土の墨書土器は官衙的な特徴を示していると言える。

文字の記し方という点においてもいくつか特色がある。本遺跡出土の墨書土器の文字には、端正なもの、あるいは達筆なものが多いが、これは字形が崩れ稚拙な書体のものが多い集落遺跡出土の墨書土器とは明らかに異なる特色の一つである。<sup>(5)</sup>また、端正な上、文字が小振りに記されたものも散見できる。例えば、「大」(12・26)、「黒山」(14)、「内」(15)、「御」(24)などであるが、文字が小振りで端正に記されたものが多いのも官衙遺跡出土の墨書土器にみられる顕著な特色である。このように、書式・書風という点から点からみても、本遺出土のものには、官衙遺跡出土の墨書土器の有する特徴を明確に見出すことができる。

記載内容からみて最も注目できるのは、「国厨」(10)、「厨」(3)、「邑厨」(33)、「□曹司」(17)の4点である。



V 調査成果のまとめ

表15 元総社寺田遺跡 VI区・VII区出土墨書土器

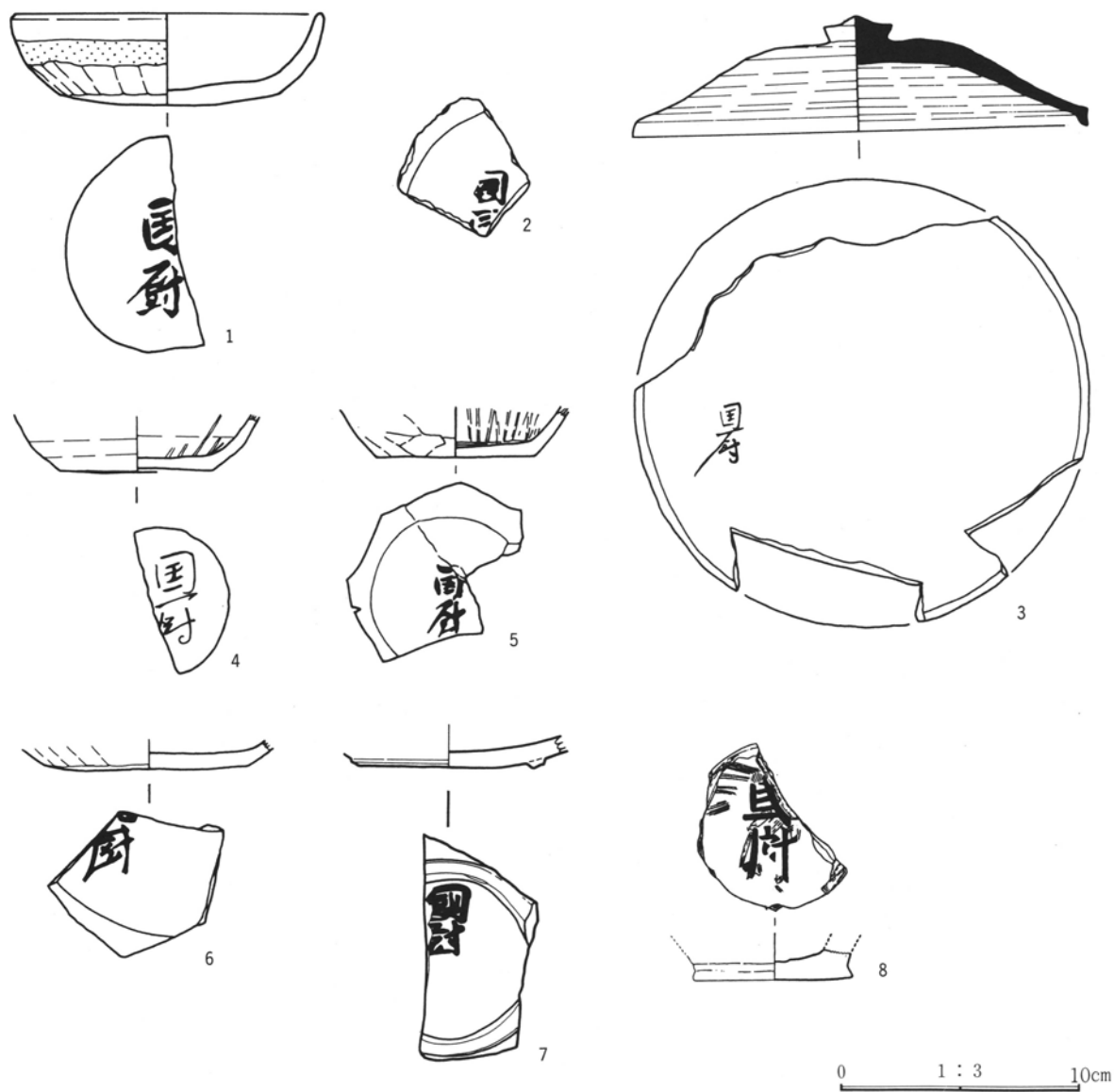
番号	遺物番号	出土位置	器種	墨書部位・方向	積文	時期
1	第85図33	VI区2号河道	土師器 椀	底部外面	成	9 C後半
2	84-21	VI区2号河道	須恵器 坏	底部内面	□	9 C
3	88-11	VI区3号河道	須恵器 坏	底部外面	厨	8 C末~9 C前半
4	91-69	VI区3号河道	須恵器 坏	底部外面正位	国	9~10 C
5	90-58	VI区3号河道	須恵器 坏	底部外面	□	9 C
6	91-67	VI区3号河道	須恵器 椀	底部外面	盛	9 C前半
7	88-12	VI区3号河道	須恵器 坏	底部外面	殿カ	9 C
8	96-22	VI区4号河道	須恵器 坏	底部外面	□	9 C初頭
9	96-24	VI区4号河道	須恵器 坏	底部外面	御	9 C
10	96-25	VI区4号河道	須恵器 椀	底部外面	国厨	9 C
11	96-23	VI区4号河道	須恵器 坏	底部内外面二箇所	人カ	9 C後半
12	98-40	VI区5号河道	須恵器 椀	底部外面	大	9 C
13	98-33	VI区5号河道	須恵器 坏	底部外面	伊カ	8 C後半
14	98-38	VI区5号河道	須恵器 椀	底部外面	黒山	9 C
15	98-39	VI区5号河道	須恵器 椀	底部外面正位	内	9 C
16	98-34	VI区5号河道	須恵器 蓋	底部外面	□	9 C
17	98-32	VI区5号河道	須恵器 坏	底部外面	□曹司	8 C後半~末
18		VI区河道上面	須恵器 椀	体部外面正位	□	9~10 C
19	106-4	VI区河道上面	須恵器 椀	底部外面	御カ	9 C
20	106-5	VI区河道上面	須恵器 椀	底部外面	御	9 C前半
21	106-8	VI区河道上面	須恵器 椀	体部外面横位・底部内面二箇所	午	9 C
22	105-27	VI区河道上面	須恵器 坏	体部外面正位	佐	9 C後半
23	106-6	VI区III層D-87	灰釉陶器 椀	底部外面	□	10 C
24	65-11	VI区III層D-86	須恵器 蓋	内面中央	御	9 C前半
25	65-14	VI区III層D-86	須恵器 坏	底部外面	浄	9 C前半
26	65-10	VI区III層E-88	須恵器 蓋	内面	大	10 C
27	65-13	VI区III層B-89	須恵器 坏	底部外面	御	9 C前半
28	65-12	VI区III層C-91	須恵器 椀	底部内面	葉	9 C末
29	65-15	VI区III層D-88	須恵器 椀	底部外面	上四	9 C
30	106-2	VI区III層	須恵器 坏	底部内面	□	9 C
31	75-8	VI区9号土坑	須恵器 椀	底部外面	當	9 C前半
32	130-12	VII区5号土坑	須恵器 坏	底部外面	□	9 C
33		V区1面6号溝	須恵器 坏	底部外面	邑厨	9 C

表16 元総社寺田遺跡 VI区・VII区出土墨書木製品

番号	遺物番号	出土位置	器種	墨書部位	積文	法量
1	第7図68	VI区2号河道	人形	体部表面	檜女	133×17×3 ミリ
2	7-69	VI区2号河道	人形	体部表面	檜女	133×17×2 ミリ
3	9-83	VI区5号河道	曲物底板	底部外面	泉吉	径63×厚さ11 ミリ

表17 「国厨」銘墨書土器一覧表

番号	遺跡名	所在地	器種	墨書部位・方向	積文	遺跡の種類
1	茨城廃寺	茨城県石岡市大字小目代	須恵器 坏	底部外面	国厨	寺院跡
2	田村・沖宿遺跡群	茨城県土浦市田村・沖宿	土師器 皿	底部外面	国厨	集落跡
3	下野国府跡	栃木県栃木市田村町	須恵器 坏	底部外面	国厨(2点)、国厨水	官衙跡
4	坂花遺跡	千葉県松戸市紙敷坂花・関台	土師器 高坏	脚部外面逆位	国厨	火葬墓
5	中鹿子第2遺跡	千葉県千葉市小山町中鹿子	須恵器 坏	底部外面	国厨	集落跡
6	稻荷前A遺跡	神奈川県平塚市四之宮稻荷前	土師器 坏	底部外面	国厨(6点)	官衙跡
7	土橋遺跡	静岡県袋井市土橋	須恵器 坏	底部外面	国厨	集落跡
8	周防国府跡	山口県防府市東佐波令	須恵器 坏	底部外面	国厨	官衙跡
9	三重二ツ寺遺跡	佐賀県諸富町三重	須恵器 坏	底部外面	国厨	集落跡
10	薩摩国府跡	鹿児島県川内市御陵下町	須恵器 坏	底部外面	国厨	官衙跡



第179図 各地出土「国厨」墨書土器 (1～6 稻荷前A、7 土橋、8 薩摩国府)

(3) 「国厨」、「厨」の墨書土器

まず「国厨」(10) からみていく。「国厨」とは文字通り国府に所属する厨の意味で、国府内における食事の調理・供給や食料・食器の調達・管理を主たる職務とした部署である。<sup>(6)</sup>周知のように儀制令元日国司条には、

凡元日。国司皆率二僚属郡司等一、向レ庁朝拜。訖長官受レ賀、設レ宴者聴。(其食以ニ当処官物及正倉一充。所レ須多少従ニ別式一)。

とあり、同集解に引く古記に、

古記云。受レ賀設レ宴者聴。謂、饌具用ニ官物一。兼受ニ郡司等相餉ニ食物一也。

とあるように、元日朝賀の饗宴に際しては、国司が国府の財政から経費を支出して郡司等に酒食を供することになっていた。<sup>(7)</sup>なお、この元日朝賀の

饗宴は国庁で行なわれたようである。<sup>(8)</sup>国府内においては、この元日朝賀の儀を筆頭に、<sup>(9)</sup>恒例行事及び臨時行事に際して様々な饗宴の場が設定されたわけであるから、国厨の職掌の第一はこうした国府内で行なわれる儀礼に伴う公的な饗宴に際して食膳供給を行なうことにあったと言えよう。

また、国司館における饗宴にも国厨が弁備した酒食が供されるケースも存在した。『万葉集』巻19所収4250番歌は、大伴家持が越中守離任時に詠んだ歌であるが、その詞書に、

便ち大帳使に附きて、八月五日を以ちて京師に入らむとす。此に因りて、四日を以ちて、国厨の饌を介内蔵伊美吉繩磨の館に設けて、饌す。(後略)

とあることから、介の館で行なわれた国守家持の送別宴に、国厨で調製した酒食が供されたことが知られるのである。<sup>(10)</sup>

さらに国府外における饗宴に際しても「国厨の饌」が弁備される場合が想定されている。例えば平安時代後期の因幡守平時範の日記である『時範記』には、国守が任国へ赴任する際の状況が詳細に記されているが、その承徳3年(1099)2月条には、

十日、癸未 辰剋進発、申剋宿ニ摂州武庫郡河面御牧司宅一。摂津守送ニ馬、酒肴等一。(後略)  
 十一日、甲申 辰剋進発、申剋着ニ播磨明石駅家一。国司被レ儲ニ饗饌、菓子、葦秣等一。(後略)  
 十四日、丁亥 辰剋進発、未剋着ニ美作国境根仮屋一。国司被レ儲レ之、亦有ニ饗饌、葦秣等一。(後略)

などの記述があり、新任国守の赴任に際して、通行途上の各国の国司が、立寄先の牧司宅・駅家・仮屋等で饗応した様子を知ることができる。<sup>(11)</sup>こうした場合では当然「国厨の饌」が供せられたであろうし、<sup>(12)</sup>国司の部内巡行に際して、出張先に「国厨の饌」が届けられるケースも想定されよう。

国厨の構造を具体的に物語るような史料はないが、郡家の厨に関しては長元3年(1030)の『上野国交替実録帳』(上野国不与解由状案)の記載によって、「竈家」「酒家」「納屋」「備屋」等の施設で構成されていたことが判明している。<sup>(13)</sup>おそらく国厨はこれと同等もしくはやや上回る規模を有する施設によって構成されていたと考えてよからう。また、国府で消費する食料を調達するために、国内に国厨の出先機関が設置されていた可能性も指摘されている。<sup>(14)</sup>

以上、国厨の機能と構造について簡単にみてきたが、「国厨」の墨書土器の意味するところは平川南氏が指摘しておられるように、そこに盛られた酒食類が「国厨の饌」であることを表示したものと見える。<sup>(15)</sup>諸官衙における厨房の食器は膨大な数にのぼると考えられるが、それにもかかわらず出土土器全体の中で「厨」と



0 1 : 3 10cm

第180図 新潟県八幡林遺跡出土「郡佐」墨書土器

表記された土器があまりにも少数すぎることや、後述するように「国厨」の土器が官衙遺跡からかけ離れた場所から出土するケースも少なくないことから考えるならば、「厨」墨書の意味を、従来より言われてきたように「厨施設がその食器を保管・管理する上で食器の所有・所属を明示するために記銘した<sup>(16)</sup>」という点にのみ集約しきれものではないと言えるだろう。また、先述したように、国厨からは国府の内外に酒食が供給されたわけであるから、「国厨」と記された墨書土器の出土のみを根拠に、その場所がすなわち厨施設そのものであると速断することはできないのである。当然のことながら国厨から供給された酒食が消費された場＝饗宴の場である可能性もあろうし、また国厨の出先機関や下部組織が置かれた場所であるとの想定も成り立つ。管見の限り、これまでの「国厨」銘墨書土器の類例は表3に掲げたように10件にのぼるが、国府跡からかけ離れた遺跡から出土した例も少なからず存在している。例えば、千葉県千葉市中鹿子第2遺跡<sup>(18)</sup>は、上総国府推定地から約14kmも離れた場所であり、静岡県袋井市土橋遺跡は遠江国府推定地から約6km離れており、茨城県土浦市田村・沖宿遺跡群<sup>(19)</sup>や佐賀県諸富町三重二ツ寺遺跡もそれぞれ当該国の国府跡から離れた場所である<sup>(21)</sup>。これらのケースではそれぞれの出土遺跡の性格として、国厨の出先機関や下部組織の存在、もしくは国司等の移動先における饗宴の場などが考えられよう<sup>(22)</sup>。(図3「各地出土の『国厨』墨書土器」参照)。

「国厨」の墨書土器は、その用途に伴って移動するものであり、それが出土する場所が必ずしも国厨そのものもしくは国府内とは限らないという前提に立って、改めて本遺跡から出土した「国厨」墨書土器(10)の意味するところを考えてみたい。周知の通り、本遺跡一帯には早くから上野国府の所在が想定されており<sup>(23)</sup>、論者によって想定する位置は微妙に異なるものの、この周辺のいずれかに国府が存在していたことはまず相違あるまい<sup>(24)</sup>。故に、本遺跡出土の「国厨」墨書土器(10)は、国厨施設、もしくは「国厨の饌」が供給された国府内の某所から流路に流れ出したかあるいは廃棄されたものとみるのが妥当であろう。

なお、「国」の字の一部のみの墨書が残る土器片(4)も、元来「国厨」と記されていたものとみられる。また、底部外面に「厨」の一文字のみが記された(3)の意味するところも、この場合では「国厨」の意であり、同じく「国厨の饌」であることを示したものと考えられる。

#### (4) 「邑厨」の墨書土器

以上の「国厨」(10)・「厨」(3)墨書土器の検討を踏まえた上で、既報告のV区1面6号溝出土の墨書土器(33)について検討してみたい。本資料は須恵器坏の底部の破片で、二文字記されているが、上の文字の一部は欠失している。下の文字が「厨」であることは間違いない。現状では「巴厨」と読めるが、これは「邑厨」と積読すべきであり、上野国邑楽郡の郡家に付属する厨を意味するものと考えらるべきであろう。

邑楽郡の郡家に付属する厨であることを記銘した墨書土器が、上野国府跡たる本遺跡から出土したことは、一見、奇異に思われるかもしれない。しかしながら、近年の各地における官衙遺跡の調査事例では、某国府遺跡から管轄下某郡の厨の墨書土器が出土したり、某郡家遺跡から隣郡もしくは周辺郡の厨の墨書土器が出土するケースがしばしば報じられている。例えば、下野国府跡(栃木県栃木市)からは、「国厨」の墨書土器とともに管下寒川郡厨を意味する「寒川厨」(2点)「寒×「<sup>[寒]</sup>川厨」等の墨書土器が出土している<sup>(25)</sup>。近年の発掘調査の進展により相模国府跡の一角にあたる可能性が非常に高まった神奈川県平塚市の四之宮遺跡群からは「国厨」とともに「郡厨」「大住厨」(大住郡厨、大住郡は国府所在郡)「大厨」の墨書土器が出土している<sup>(26)</sup>。また、駿河国志太郡家跡(静岡県藤枝市御子ヶ谷遺跡)からは「志太厨」「志厨」「志厨上」の多数の墨書土器に混って、隣郡である益頭郡の郡家の厨を意味する「益厨」の墨書土器が出土している<sup>(27)</sup>。その益頭郡家の遺跡(静岡県藤枝市郡遺跡)からも多数の「益厨」墨書土器とともに隣郡の安倍郡の郡家の厨を意味す

## V 調査成果のまとめ

る「安厨」の墨書土器が出土している。<sup>(28)</sup>さらに、遠江国敷智郡家関連遺跡である静岡県浜松市伊場遺跡から数点の「布知厨」の墨書土器とともに出土した「下厨南」の墨書土器が、<sup>(29)</sup>敷智郡の隣郡である長下郡の郡厨を意味したものである可能性が平川南氏によって指摘されているが、<sup>(30)</sup>そう考えてよいとすれば、これも敷智郡家関連施設から隣郡の郡厨の墨書土器が出土した事例の一つということになる。<sup>(31)</sup>千葉県市原市の坊作遺跡のケースは、以上の諸例とは若干趣を異にするが、厨墨書土器の移動のいま一つのパターンを示している。同遺跡は竪穴住居跡114棟、堀立柱建物跡21棟が検出された集落遺跡であるが、そこから上総国海上郡の郡厨であることを示す「海上厨」の墨書土器が出土した。<sup>(32)</sup>同遺跡は上総国市原郡内にあたるので上記例と同じく隣郡の郡厨墨書土器の出土事例ということになるが、上記の諸例と異なるのは、坊作遺跡が官衙跡ではなく、上総国分尼寺の造営に関わる集落ないし施設ということである。<sup>(33)</sup>

以上のように、国府の遺跡から当該国管下の郡厨を示すものや、ある郡家の遺跡から隣郡ないし周辺郡の郡厨を示す墨書土器が出土する事例が往々にしてあり、「厨」墨書土器が郡境を越えて移動する場合があるということが明らかになったが、その理由としては次のようないくつかのケースが考えられよう。

まず、国府ないし郡家における恒例・臨時の行事の際の饗宴にあたって、当該の国府・郡家の厨にとどまらず、国府においては管轄下の某郡、郡家にあつては近隣郡の厨が動員された場合である。例えば、前掲の儀制令元日国司条集解に引く古記に「兼受三郡司等相餉二食物一也」とあるように、元日朝賀の儀に際しては、国司が国費を用いて郡司らに供食すると同時に、郡司らから国司らに対しても食物の供献が行なわれていたわけである。国司への食物供献の儀式に各郡の厨が動員され、食料や食器など供膳に関わる物資を調達・運搬したり、調理などの労役を提供させられたものと考えられる。<sup>(34)</sup>国府跡から「国厨」の墨書土器とともに出土する「郡厨」の墨書土器は、国府における饗宴に際して「国厨の饌」とともに「某郡厨の饌」が供進されたことの証左と言えよう。また、いま一つの推測として、国府に上番あるいは徴発された徭丁等に対して、各出身郡の厨が食料を供給したか、あるいは徭丁等が出身郡単位に編成されていて、これに関わる厨が「某郡厨」という形で設置されていたことによる可能性も考えられないではない。<sup>(35)</sup>

一方、郡家遺跡において、当該郡の厨の土器とともに近隣郡の厨の墨書土器が出土するケースでは、国司の部内巡行の際の接待など郡家における饗宴にあたって他の郡家の厨から職員と食器が臨時に動員された場合や、他の郡家の厨から食膳や食器そのものが運び込まれた場合、<sup>(37)</sup>などが想定できる。また、郡家が伝馬を利用した国司や公的使臣の宿泊施設としての機能を果していたことからみれば、<sup>(38)</sup>国司や伝使の移動、あるいは郡司間の通交に伴って、<sup>(39)</sup>他郡の厨で調達した食事や食器が携行され、持ち込まれた場合も考えられる。

最後に掲げた千葉県市原市の坊作遺跡から隣郡である「海上厨」の墨書土器が出土した事例については、国分尼寺の造営という国レベルの事業に際して、食膳供給等の面で隣郡の郡厨が動員される場合があったことを物語っていると言えよう。<sup>(40)</sup>

以上の諸点から考えるならば、本遺跡出土の「邑厨」の墨書土器は、国府における饗宴に邑楽郡厨が何らかの形で使役されたことによるか、もしくは国司の部内巡行・公的使臣の往来・郡司等の出頭など人の移動に伴って国府に持ち込まれたものと考えられる。また、逆説的には、本遺跡から国府の厨を意味する「国厨」の墨書土器とともに上野国管下の邑楽郡の郡厨を意味する「邑厨」の墨書土器が出土したことによって、本遺跡を国府・国府関連施設とみる上での有力な証左の一つが得られたとも言えるだろう。

### (5) 「□曹司」の墨書土器

国府との関連という点で、いま一つ注目できるのが「□曹司」の墨書土器(17)である。曹司とは官衙を

構成する各種の官舎・施設の総称であるが、通常、宮都の朝堂院や国府・郡家の政庁以外の実務を担当する場所を意味する場合が多い。「曹司」の墨書土器は各地の官衙・官衙関連遺跡で出土している。

宮内における大政官の曹司を「官曹司」、中宮職の曹司を「職曹司」と称するように具体的な曹司の名称を示すような語句であったかもしれないし、また『上野国交替実録帳』諸郡官舎項に、各郡家に所属する館を「一館」から「四館」と記すように数詞が付けられていた可能性もある。また同史料中の郡家正倉に関する記述に、

新田郡

正倉

東第二土倉壹字 中第一土倉壹字 東第一土倉壹字

北第二土倉壹字 西第一土倉壹字 西第二土倉壹字 (後略)

とみられる「東第二」「中第一」などのような建物そのものの位置・場所を示すような語句が付されていたとも推測できよう。

## (6) その他の墨書土器

同様に国府との関連という視点から本遺跡出土の墨書土器をみていくと、他にもいくつか注意をひかれる資料がある。

例えば、「殿ヵ」(7)などは、国府内の何らかの殿舎、もしくは国司以下特定の官人等を示す意味で記されたものの可能性がある<sup>(41)</sup>。また、「御」の字を記したものが5点(9・19・20・24・27)と割合まとまっている点も国府内上級官人の使用、もしくは彼らへの供膳を示唆するものとして注目できよう。

また、「佐」(22)の墨書土器も解釈によっては重要な問題を提起するものと言える。

「佐」と記された墨書土器は各地における出土例も多く、それ自体それほど稀有なものではない。しかしながら国府との視点に立ってみると、一案として「スケ」と釈読できないではない。周知の通り、「佐」を「スケ」と訓む場合には、令文上にみえる正式の用字法では衛門府・左右の衛士府・左右の兵衛府(のちに左右の兵衛府と左右の衛門府)の次官を指す語であり、国府の次官は「介」、郡家の次官は「少領」と表記される。なお、上野国の場合、天長3年(826)9月6日付太政官符によって国守には親王が任じられることになり、それ以降は介が事実上の長官であった<sup>(42)</sup>。ともあれ「佐」の墨書土器を仮に「スケ」と訓むにせよ、国の次官である「介」と結びつけるのはあまりに単絡的かもしれない。しかしながら最近、越後国古志郡に関わる官衙の遺跡として注目されている新潟県三島郡和島村の八幡林遺跡から、郡の長官を意味する「大領」の墨書土器21点とともに「郡佐」と記された墨書土器が2点出土しており、これを「コオリノスケ」と訓んで郡の次官たる少領を意味するものと解釈している点は注目できよう<sup>(43)</sup>(図4)。同遺跡からは他の墨書土器や木簡に郡の行政や郡司に関わる資料が多いので、この場合では「郡佐」二郡少領と解釈することはまず妥当であろう<sup>(44)</sup>。

この点から考えるならば、本遺跡出土の「佐」の墨書土器(22)を「スケ」と訓み、国司の次官である「介」を意味するとみることも、一案として考え得るであろう。事実、国府・郡家などの官衙遺跡では、官職名が記された墨書土器が出土するケースが多い。例えば、下野国府跡(栃木県栃木市)では「介」が<sup>(45)</sup>、美作国府跡(岡山県津山市)からは「少目」<sup>(46)</sup>、駿河国志太郡家跡(静岡県藤枝市御子ヶ谷遺跡)からは「志大領」「少領」等が多数、遠江国敷智郡家との関連が考えられる伊場遺跡(静岡県浜松市)・城山遺跡からは「郡鑑取」<sup>(47)</sup>「少毅殿」<sup>(48)</sup>、先述したように越後国古志郡家もしくは郡家と関連する官衙跡と考えられる新潟県和島村八幡

## V 調査成果のまとめ

林遺跡からは「大領」<sup>(49)</sup>、などが出土している。国府の一角に当ると考えられる本遺跡から、国司の官職名が記された墨書土器が出土したとしても何ら不都合はないのである。故に本遺跡出土の墨書土器「佐」が、国司次官の「介」を意味するものであることも可能性の一つとして指摘しておきたい。なお県内では、勢多郡内の寺院遺跡である前橋市の上西原遺跡から「守」「大予」(大掾か)「目」など国司官職名と思われる墨書土器が出土しているが、<sup>(50)</sup>何故その遺跡から国司官職名を記した土器が出土したのかという点については未だに明らかにしがたい。

### (7) 墨書木製品

3点の墨書木製品の内訳は、人形2点(1~2)、曲物の底板に墨書されたもの1点(3)である。このうち曲物の底板に記されたものは文字は明瞭ではあるものの意味については良くわからない。

人形は5点出土しているが、文字が判読できたのは2点のみである。他については墨痕すら確認できなかった。文字が記された人形2点は、丁寧に整形されており髪・眉・鼻・口等顔の表現も明瞭である。文字は2点もと胸のあたりに「檜女」と記されている。1は肉眼でもはっきりと判読できるが、2は赤外線テレビを用いても辛うじて判読できる程度である。

人形は、人間の形代として、呪咀・病気治療・祓などに用いられ、万能の働きをした。<sup>(51)</sup>例えば、病気のもとを人形に移して流すことによって平癒を祈ったり、呪咀する相手を人形にみたくて胸や眼に釘を打ちつけて呪ったり、あるいは罪や穢れを人形に託して流したり、といった使われ方は今日でも生きているが、こうした用途で用いられた人形は、藤原・平城・長岡・平安の各京跡をはじめ各地から数多く出土しており、わが国では7、8世紀まで遡るものであった。元来は中国に起源するものと考えられており、墓に副葬された俑<sup>(52)</sup>以外でも呪咀に使われた人形の例がすでに『漢書』にみえている。

わが国の古代における人形の最も一般的な用法は、身中に溜った罪穢や悪気を祓うことにあった。その祓いの代表的なものが6月と12月の晦日に行われる恒例の大祓であり、<sup>(53)</sup>この恒例の大祓以外にも臨時の大祓もたびたび行なわれた。『延喜式』四時祭式には、この大祓の際に金属製・木製の各種人形が使われていたことが記されている。<sup>(54)</sup>また、毎年6月と12月に行われる恒例大祓は、京ばかりではなく諸国においても行われることが規定されている。<sup>(55)</sup>

本遺跡からは人形の他にも、斎串、刀子形、馬形、琴柱形などの木製祭祀具が出土しているが、これらは律令的国家祭祀にみられる類型であり、都城・官衙等とその周辺の遺跡に限ってのみ検出できる典型的な祭祀遺物である。<sup>(56)</sup>逆の意味では、こうした祭祀遺物が出土していることが官衙遺跡であることの一つの指標であるとも言える。故に本遺跡出土の人形は国府における大祓の際に用いられたものとみてまず間違いないだろう。記された「檜女」の文字は女性名と解されるが、顔の表現も髻や髭がなく振り分け髪風であるから女性であり、罪障を祓うべき当人の名と考えられる。人形に文字を記したものは概して少ないが、<sup>(57)</sup>平城京左京五条五坊七、十坪出土の人形に、同じく罪障を祓うべき人名と思われる「山下倉人豆主」と記された例がある。<sup>(58)</sup>『延喜式』四時祭式等の記載では、祓に用いる人形は2枚1組を最低単位として複数用いられていた様子が判明しているが、本遺跡で同一人物名を記した人形が2枚出土している点は、まさにこれらが祓の際に使用されたものであることを示している。<sup>(59)</sup>

なお、金子裕之氏によれば、人形の肩と腰のつくり年代の違いが表われているということである。<sup>(60)</sup>肩はいわゆる撫で肩と怒り肩の2タイプがあり、7~8世紀には撫で肩タイプが、8世紀以降は怒り肩タイプが一般的であるという。また、腰のつくりには、腋から脚まで滑らかに作るものと腰の両側を大きく切り欠く



型とがあり、前者は古く、後者は八世紀以降に現われるという。本遺跡出土の人形は、いずれも「怒り肩」・「腰の両側を切り欠く」タイプであり、金子氏の指摘に従うならば、新しい類型に属するものと言えるだろう。出土した層位からみても、先述した墨書土器がほぼ9世紀代のものとみられるのに対して、人形等はそれよりも新しい時期のものと考えられているので、矛盾しない。

なお、県内における他の人形の出土例としては、群馬町三ツ寺II遺跡で人形の頭部の破片と考えられるものが1点出土しているのみである。<sup>(61)</sup>

## (8) おわりに

先に述べたように、本遺跡一帯は、古くから上野国府の推定地とされてきた場所であるが、これまでの周辺部における各種の調査では国府の存在を直接的に示すような遺構・遺物は発見されていなかった。本遺跡の調査でも、国府を構成する官衙の建物跡など具体的な国府に関する遺構が検出されたわけではない。しかしながら今回の調査において、「国厨」「国」「厨」「口曹司」「邑厨」などの墨書土器と、人形・斎串・刀子形・馬形などの律令的祭祀に特有な木製祭祀具がまとまって出土したことによって、本遺跡およびその周辺に上野国府が存在していたことの蓋然性は、ますます高くなったと言えるだろう。

### 〔註〕

- (1) これまでの県内における墨書土器については、群馬県史編纂室編『群馬県出土の墨書・刻書土器集成』1・2 (1989・1992) にまとめられている。
- (2) (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『元総社寺田遺跡』I 1993、74頁。
- (3) 墨書土器の全般的傾向として、より高価なものや特別な作りの土器を意識的に選択したということはなく、日常什器として最も一般的な食器を用いる場合が多いということが、松村恵司氏によって指摘されている。(松村恵司「古代集落と墨書土器」〔シンポジウム律令国家の成立と東国〕 駿台史学会 1993)。
- (4) 山口英男「墨書土器と官衙遺跡」〔藤沢市史研究〕24 1991。
- (5) 松村恵司氏註(3) 前掲論文。
- (6) 山中敏史「国府の構造と機能」(同氏著『古代地方官衙遺跡の研究』 塙書房 1994)。
- (7) 山中敏史氏註(6) 前掲論文。
- (8) 『万葉集』巻18、4136番歌(大伴家持)に、「天平勝宝二年正月二日於二国府一給二饗諸郡司等一宴歌一首」とあり、また同巻20、4516番歌(大伴家持)に、「三年(天平宝字)春正月一日於二因幡国府一賜二饗国郡司等一之宴歌一首」とあり、朝賀の饗宴が国府で行なわれていたことがわかる。(山中敏史氏註(6) 前掲論文)。
- (9) 国府で行なわれる主要な儀式としては、郡司告朔の儀、吉祥悔過法会などがある。
- (10) 平川南「『厨』墨書土器論」〔山梨県史研究〕1 1993。
- (11) 早川庄八「資料紹介『時範記』」〔書陵部紀要〕14 1962。
- (12) 平川南氏註(10) 前掲論文。
- (13) 前沢和之「『上野国交替実録帳』についての基礎的研究」〔群馬県史研究〕4 1975)、同「『上野国交替実録帳』郡衙項についての覚書」〔群馬県史研究〕7 1978)、同「九条家本延喜式紙背上野国交替実録帳」〔群馬県史〕資料編4 原始古代4〈文献〉1985)。
- (14) 山中敏史氏註(6) 前掲論文。
- (15) 平川南氏註(10) 前掲論文。
- (16) 津野仁「地方官衙遺跡出土の墨書土器」〔古代〕89 1990) など。
- (17) 例えば、出雲国府北側や伯耆国府跡などから「厨」墨書土器を含む多量の食器類が出土したことは、国府において饗宴が行なわれたことを端的に物語るものと考えられている。(山中敏史氏註(6) 前掲論文)。
- (18) (財)千葉市文化財調査協会『千葉中央ゴルフ場遺跡群発掘調査報告書』1992。
- (19) 袋井市教育委員会『土橋遺跡』1985。
- (20) 土浦市立博物館『第13回企画展・開かれた古代への扉-田村・沖宿遺跡群の調査-』1993。
- (21) 諸富町教育委員会『三重二ツ寺遺跡』1988。
- (22) 山中敏史氏註(6) 前掲論文、平川南氏註(10) 前掲論文。
- (23) 近藤義雄「上野国府の所在地について」〔群師男子部史学会報〕1 1947)、同「上野国府について」〔上毛史学〕5 1954)、同「上野国府」〔元総社村誌〕1955)、同「上野国府をめぐる古代交通路」〔信濃〕33-2 1981)、同「上野国府付近交通路の推移」〔信濃〕33-3 1981)、藤岡謙二郎「両毛の国府」(同氏著『国府』 吉川弘文館 1969)、松島栄治「群馬県前橋市推定上野国府遺跡」(日本考古学協会『日本考古学年報』18 1970)、同「上野国府」〔歴史公論〕11-2-10 1976)、金坂清則「上野国」(藤岡謙二郎編『古代日本の交通路』II 大明堂 1978)、など。
- (24) 上野国府跡に関する研究史、研究の現状と課題については、近年、木下良「上野国府研究概況」〔国立歴史民俗博物館研究報告〕20-共同研究・古代の国府の研究(統)1989)、石川克博「上野国府と郡衙」(群馬県史編纂室『群馬県史』通史編2 原始古代2 1991)にまとめられている。
- (25) (財)栃木県文化振興事業団『下野国府跡』IV 1987。



## V 調査成果のまとめ

- (26) 平塚市遺跡調査会『山王B・稲荷前A遺跡』1993。なお、「国厨」6点、破片であり全容は不明であるが「国厨」と推察できる「国」「厨」など3点、「大住厨」「大厨」各1点は稲荷前A遺跡から出土しており、「郡厨」は隣接する天神前遺跡からの出土である。ただし、この場合では、大住郡が国府所在郡であることから、国府に大住郡厨の墨書土器が持ち込まれた可能性ばかりでなく、国府と大住郡家もしくは国厨と大住郡厨が併存していた可能性も想定できるだろう。
- (27) 藤枝市教育委員会『日本住宅公団藤枝地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ-奈良・平安時代編-』1981。
- (28) 藤枝市教育委員会『静岡県藤枝市郡遺跡発掘調査概報』Ⅲ 1986。
- (29) 浜松市教育委員会『伊場遺跡 遺物編』2 1980。
- (30) 平川南氏註 (10) 前掲論文。
- (31) 山中敏史氏によれば、上記の他、肥前国神埼郡家跡と考えられる佐賀県神埼町吉野ケ里遺跡から「養父」の墨書土器が出土している点についても、同様に近隣の養父郡の厨から持ち込まれた可能性を指摘しておられるが、「養父」は郡名であると同時に氏族名や人名である可能性も捨てきれないので、現時点でそのように判断してしまうのは無理であろう。また同様に福岡県久留米市ヘボノキ遺跡(寺院跡)から出土した「三原」「三井」の墨書土器を、それぞれ筑後国御原郡、同御井郡の郡厨から寺院への供膳によるものと考えておられる点についても、勿論その可能性はあろうが断定はできない。(同氏「郡衙の構造と機能」同氏著註(6)前掲書)。
- (32) 市原市教育委員会『上総国分寺台発掘調査概要』Ⅳ 1977。
- (33) 宮本敬一「上総国分尼寺跡の調査」(市原市教育委員会『上総国分寺台発掘調査概報』1980)。
- (34) 山中敏史氏註(6)前掲論文。
- (35) 平川南氏註(10)前掲論文。
- (36) 栃木県教育委員会『下野国府跡資料集Ⅱ-墨書土器・硯』1986。
- (37) 山中敏史氏註(31)前掲論文。
- (38) 吉田晶「評制の成立過程」(同氏著『日本古代国家成立史論』東京大学出版会 1973)。
- (39) 山中敏史氏註(31)前掲論文。
- (40) 宮本敬一氏註(33)前掲論文。
- (41) 例えば、常陸国鹿島郡家跡(茨城県鹿島町神野向遺跡)から「東殿」、下野国府跡から「池殿」、新潟県と島村八幡林遺跡(越後国古志郡家関連から「郡殿」「南殿」「石屋殿」「北殿」、駿河国志太郡家跡(静岡県藤枝市御子ヶ谷遺跡)から「志太小領殿」静岡県可美村城山遺跡(遠江国敷智郡家関連)から「少穀殿」などの墨書土器が出土している。
- (42) 安田政彦「親王任国の成立」(『続日本紀研究』23, 1980)。湯本俊明「親王任国制成立の意義」(『群馬県史研究』29 1990)。佐藤宗淳「親王任国制の成立と国衙」(群馬県史編纂室『群馬県史通史編』2 原始古代2 1991)。
- (43) 和島村教育委員会『和志村埋蔵文化財報告書第3集 八幡林遺跡』1994。
- (44) 常陸国鹿島郡家跡(茨城県鹿島町神野向遺跡)から出土した「介」の墨書土器を、国司の部内巡行の際に特定して用いるためのものとみる考え方があがる(津野仁氏註(16)前掲論文)、その可能性とともに郡の次官=少領を意味する可能性も考えておく必要がある。なお、山中敏史氏が註(31)前掲論文中において、千葉県東金市山田水呑遺跡出土の「山佐」の墨書土器を山辺郡少領と解釈しておられる点については、若干疑問の余地があろう。同遺跡では「佐」の墨書土器が「佐倉」を含めて27点出土しているが、これは「井」の墨書土器36点とともに同遺跡を代表する文字である。このような場合、「佐」「井」はそれぞれにこの集落の中に居住したある単位集団の標識的の文字と考えられ、「山佐」についても集団の標識的の文字である「佐」に、同遺跡の所在地である山辺郡もしくは山口郷の「山」が接頭語的に付された可能性が高いものと思われる。
- (45) (財)栃木県文化振興事業団註(25)前掲書。
- (46) 津山市教育委員会『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第40集 美作国府跡発掘調査概報』1991。
- (47) 藤枝市教育委員会註(27)前掲書、なお「主政」の墨書土器も出土している。
- (48) 浜松市教育委員会註(29)前掲書、可美村教育委員会『城山遺跡』1981。
- (49) 和志村教育委員会註(43)前掲書。
- (50) 群馬県教育委員会『上西原・向原・谷津』1986。
- (51) 金子裕之「平城京と祭場」(『国立歴史民俗博物館研究報告』7 1985)、同「日本における人形の起源」(福永光司編『道教と東アジア』人文書院 1989)、同「律令期祭祀遺物集成」(菊地康明編『律令制祭祀論考』塙書房 1991)、同「都城と祭祀」(小田富士雄編『古代を考える 沖ノ島と古代祭祀』吉川弘文館 1988)。
- (52) 金子裕之氏註(51)前掲論文。『漢書』卷45江充伝に、「(前略)於是上、以充為使者治巫蠱、充將胡巫掘地求偶人。捕蠱及夜祠視鬼染汗令有處。(中略)宮中有蠱氣、先治後宮希幸夫人以次及皇后隊掘蠱於太子宮、得桐木人。(後略)」とある。
- (53) 神祇令大祓条に、  
凡六月十二月晦日大祓者、中臣上ニ御麻一、東西文部、上ニ祓刀一、詠ニ祓詞一。訖、百官男女、聚一集祓所一、中臣宜ニ祓詞一、ト部為ニ解除一。  
とあるように天皇の禍災を除き、天皇の身体を清めることで国家の力を高めるとともに、親王以下百官の諸々の罪障を祓い清め、新しい季節に備える一種の再生儀式である。『貞観儀式』大祓條条によれば、天皇・中宮は内裏において修祓し、その後、文武百官が朱雀門前に集合した。
- (54) 例えば『廷喜式』四時祭式大祓条には、  
六月晦日大祓十二月准レ此  
五色薄純各二尺、緋帛一丈五尺、絹二疋、金装横刀二口、金銀塗人像各二枚、(後略)。  
同式御贖条に「鉄人像二枚」、同式中宮御贖条にも「鉄人像二枚」、同式中宮御麻条に「鉄人像四枚」、同式晦日御贖條には、人像各三十二枚、東宮各八枚、などの記載がある。式の次第は記された『貞観儀式』二季晦日御贖條条には、  
神祇官領前受ニ備其料物一。鉄偶人三十六枚(金銀粧各十六枚、無レ飾四枚)、木偶人二十四枚、御輿形四具(後略)。  
とみえる。
- (55) 神祇令諸国条  
凡諸国須ニ大祓者一者、毎レ郡、出ニ刀一口、皮一張、鉄一口、及雑物等一。戸別、麻一条、其国造出ニ馬一疋。
- (56) 律令的国家祭祀とは、八世紀初頭に公布された神祇令によって規定され、実施された国家祭祀のことである(井上光貞「沖の島と

## 2. VI区・VII区出土の墨書土器・墨書木製品

- 律令祭祀) (同氏著『日本古代の王権と祭祀』塙書房 1984)。金子裕之氏は前掲(51)論文において、人形・斎串・馬形・土馬・人面墨書土器・模型竈・鏡・鈴などの祭祀遺物に7世紀後半の天武・持統期を境に質的な変化が見出されること、またこれらが『廷喜式』等の記録上みられる祭祀具との同一・類似性が顕著なことから律令的祭祀政策に沿って成立、展開した祭具という概念を提示された。他に泉武「律令祭祀論の一視点」(福永光司氏編註(51)前掲書)も参照。
- (57) 病氣治癒を願って使われた人形に「左目病作今日」と記されたものが平城宮跡東大溝から出土している。また、呪咀の人形で呪う相手の名を記したものが平城宮大膳職内の井戸跡から出土している。山形県酒田市俵田遺跡から出土した人形6点に「石鬼坐」と記されているのは祓うべき悪神の名であろうか。
- (58) 奈良市教育委員会『平城京左京(外京)五条五坊七・十坪発掘調査概要報告』1982。なお、本例には釘が打たれているわけではないが呪咀の人形との見方もある(金子裕之氏註(51)前掲論文)。
- (59) 前掲註(54)参照。なお金子裕之氏註(51)前掲論文によれば、平城・長岡両京跡などから出土した人形の実例から数枚一組で用いられたことが判明するということである。
- (60) 金子氏註(51)前掲論文。
- (61) (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告第13集 三ツ寺II遺跡』1991。

## 付載 理科学分析

### 1. 元総社寺田遺跡Ⅵ区・Ⅶ区 出土人骨・獣骨の分析

宮崎重雄

#### 1. はじめに

本遺跡は群馬県前橋市元総社町字寺田地内に所在する。Ⅵ・Ⅶ区の発掘調査では、奈良・平安時代のものを主体とする獣骨・人骨類が多数出土しており、ここではその観察記録と所見を中心に報告する。

#### 2. 古代（奈良・平安時代）

##### A. ウマ (*Equus caballus*)

###### a. 出土部位

- (1) 臼歯；遊離歯として上顎臼歯60本、下顎臼歯45本が出土している。この他に左右の臼歯すべての植立した下顎骨が1体分あり、下顎臼歯の合計は57本である。このなかには、下顎第3乳臼歯1本が含まれている。
- (2) 切歯；上顎切歯17本、下顎切歯12本が検出されている。下顎切歯には右下顎第1乳切歯が含まれている。
- (3) 犬歯；3本検出されている。
- (4) 頭蓋骨；頭蓋片3片が出土している。
- (5) 体幹・体肢骨；環椎・軸椎・胸椎・仙骨など幾つかの椎骨と肩甲骨8、上腕骨4、橈骨3、尺骨2、手根骨5、中手骨7、寛骨片4、大腿骨片6、脛骨7、距骨3、踵骨3、その他の足根骨3、中足骨5、中手骨または中足骨片5、基節骨7、中節骨6個の出土を見る。

###### b. 個体数

馬の臼歯は形態が互いに酷似しているため、遊離した臼歯の歯種判定には第2前臼歯、第3後臼歯を別として相当な困難が伴う。そこで、第2前臼歯、第3前臼歯を基にして求められた最小個体数が最も信頼度が高いということになり、得られた個体数は

8である。この8個体の年齢は5歳から14歳までに渡っている。ところが、第2前臼歯、第3後臼歯以外の歯には、この範囲の年齢層から大きくはずれたものがある。20歳以上の老齢馬1頭(Na84)、生後10ヶ月程の幼令馬1頭(Na102)、3歳程度の幼令馬2頭(Na7とNa504)、4～5歳程度の幼令馬2頭(Na56、93、133)の計6頭である。先の8個体とその6個体を加えた14個体が本遺跡の古代馬の最少個体数ということになる。体幹・体肢骨を基にして算出した個体数はこれよりはるかに少ない。

###### c. 性別

遺跡から出土する馬歯・馬骨で、性差が有意な差としてあらわれるのは、犬歯と寛骨である。遺跡出土の馬骨では寛骨は保存度が特に悪い部類に入り、本遺跡においても例外ではなく、性別を判断できるような保存良好なものは皆無である。ただし、犬歯は2個体分に相当する3本が検出されており、少なくとも2個体(うち1個体はNa117)はオスであることが確認できる。それにしても、14個体のうちの2個体のみがオスというのは少なすぎる嫌いがある。犬歯はエナメル質におおわれている部分が少なく、他の歯よりも保存度が悪くて、風化・腐食しやすいためであろう。

###### d. 年齢

14個体のうち、最年少は生後10ヶ月の幼令馬であり、最年長は20歳以上と推定される老令馬である。その他は、3～5歳の幼令馬4頭と7～11歳の壮令馬8頭である。したがって天寿を全うするまでの年齢にいたっているのは1頭だけであり、他は事故・病死・屠殺などにより死亡したものと考えられる。

###### e. 体高

林田・山内(1957)は馬骨の各部位の最大長から体高を推定する計算式を提唱し、西中川・松元(1989)はある程度の部分骨でも体高推定が可能な計算式を提唱している。しかし、古代馬の部位骨の形態には変異の幅が大きく、部分骨で体高を推定すると誤差が大きくなり過ぎる恐れがあり、ここでは林田・山内(1957)の方法のみを採用して体高推定を行う。

## 1. 元総社寺田遺跡VI区・VII区出土人骨・獣骨の分析

体高推定の可能な最大長を計測できる部位は中手骨が1本、脛骨が3本、中足骨が2本である。それぞれから得られる推定体高は、それぞれ159.4cm、131.6cm、142.8cm、133.3cm、130.7cm、128.7cmである。また、No.117の下顎全臼歯列長(165.0mm)は西中川・松元(1989)のデータに照らすと木曾馬相当である。この下顎骨が上記体肢骨のいずれかと同一個体であるか否かは不明である。ここでは体肢骨についてはそれぞれが別個体の体高を表していると考えて差し支えない。

最大高を示すのは中手骨全長から算出された159.4cmである。この中手骨は西中川・松元(1989)の示すデータと比較してみると、最大長だけが異常に大きく、日本在来馬は言うにおよばず、サラブレッドより大きい。しかし、幅や前後径は中型在来馬の御崎馬並みであり、細っそりしている。古代馬にこのような細っそりした肢をもった体高の極めて高い個体があったことは注目に値する。一方の最小体高は中足骨から得られた128.7cmであり、それでも御崎馬並みである。また、6頭の平均体高は137.8cmであり、古代馬としては相当に大きく、木曾馬の最大級のものに匹敵している。

本遺跡の古代馬はこのように概して大きかったといえる。

### B. ウシ (*Bos taurus*)

#### a. 出土部位

- (1) 臼歯；上顎臼歯3本、下顎臼歯5本の出土をみる。
- (2) 体肢骨；肩甲骨片1、中手骨1、寛骨臼片1、大腿骨骨幹部片1、中足骨1、踵骨1である。

#### b. 個体数

下顎臼歯は2個体に由来していると推定され、上顎臼歯3本もこのいずれかに属する可能性が高い。

#### c. 年齢

Ducos(1968)は歯冠高に対する歯冠最大幅の割合によって、年齢を推定する方法を提唱している。この方法によって、得られた年齢は2号河道出土が個体の9~10歳ほどで、No.392が8歳ほどである。

#### d. 体高

西中川・松元(1989)の体高推定式に中手骨の最大長を代入して得られた値は112.7cmで、日本在来牛の見島牛のメス相当であり、小さい。

なお、いずれの個体も性別は不明である。

### C. シカ (*Cervus nippon*)

#### a. 出土部位

- (1) 歯；左下顎第2後臼歯が1本検出されている。
- (2) 体肢骨；左肩甲骨2、左上腕骨1、左寛骨臼1、左大腿骨1、右橈骨1、脛骨左2右1、右距骨1の出土をみる。

#### b. 個体数

左肩甲骨が2個あるので、最小個体数は2である。

#### c. 性別

シカの性別は角の有無や寛骨の形態で判断するのが最良であるが、本資料ではその部位の発見をみない。各部位骨の相対的大きさも雌雄によって違いがあると思われるが、現段階では判別するデータを欠いている。

#### d. 大きさ

No.304の肩甲骨が現生足尾産ニホンジカのオスとほぼ同じ大きさであるほかは、それより1割方大きい。

### C. イノシシ (*Sus scrofa*)

#### a. 出土部位・大きさ

左上腕骨で、現生岐阜県産オスのそれより1~2割方大きい。

### D. イヌ (*Canis familiaris*)

#### a. 出土部位・大きさ

下顎骨、左尺骨、右脛骨である。下顎骨には裂肉歯(第1後臼歯)のみが残存し、その他の歯は脱落して歯槽のみ残る。ただし、第4前臼歯は歯槽もなく、早い時期に脱落して歯槽が閉鎖したものと思われる。下顎骨および裂肉歯の大きさは現生関東芝犬のオス(醍醐、1957)のそれと同じか、ごくわずかに上回る程度である。脛骨は芝犬のメスの大きさに匹敵している。両者が同一個体であるか否かは不明である。いずれも成獣である。

## E. ヒト (*Homo sapiens*)

### a. 出土部位

脳頭蓋1、脳頭蓋片3、下顎骨2、右下顎第2または第3大臼歯、上腕骨4、橈骨1、尺骨1、大腿骨8、脛骨2、腓骨2である。

### b. 個体数

最多の出土部位は大腿骨で、9本である。小片の1片を除き、すべて別個体に由来していると考えられ、最小個体数は8である。

### c. 年齢

脳頭蓋 (No.528) は、内板の縫合線が、冠状縫合部で消失し、矢状縫合、ラムダ縫合で消失しかかっている、癒着度の基準の3~4である。このことから老年期にいたった個体といえよう。

下顎骨 (No.384) は、第3大臼歯が左右とも萌出してない。これは年齢的に未萌出であるのではなく、先天的に欠いているものである。いずれの大臼歯も咬耗面半分以上に象牙質が露出し、その他の歯にも咬耗面に面状の象牙質をみる。この咬耗度から熟年期にいたっている個体と考えられる。上肢骨、下肢骨については骨端部を欠き、骨端の癒合状況を観察できず、年齢推定は困難である。No.298の上腕骨骨幹部やNo.187の大腿骨骨幹部は極端に小さく、未成年者のものであることも考えられる。また、No.14の下顎第2または第3大臼歯はエナメル質のみが咬耗を受け、壮年期のものと思われる。

### d. 性別

脳頭蓋 (No.528) は、1) 頭蓋長や頭蓋幅が大きい、2) 頭頂部が高い、3) 眉弓の隆起がやや目立つ、などの特徴により男性と思われる。

下顎骨 (No.384) は、1) 全体的に頑丈な感がある、2) 高齢でありながら直角に近い下顎枝角を有している、3) 下顎枝の幅が広い、などの特徴により男性の可能性が高い。

体肢骨は比較的多く出土しているが、性別判定は困難である。

### e. 身長

体肢骨のサイズからすると、極端に小さい。No.298

の上腕骨やNo.187の大腿骨を除き1m40cm~55cm程度の身長に属すると思われる。

### f. その他

No.384の下顎骨の左第2後臼歯は齶蝕により分離した2根のみが残存している。

No.61とNo.534のヒトの脛骨の骨表面にはイヌと思われる肉食動物に咬まれた痕がある。

## 3. 中世以降

### A. ウマ

上顎臼歯が6本、切歯は2本、中手骨2本が出土している。これらの歯は4~5個体に由来し、年齢は5~12歳の範囲である。中手骨から求められる推定体高127.3cm、119.2cmで、それぞれが小めの中型在来馬、大きめの小型在来馬相当である。

## 4. 近世以降

### A. ウマ

上顎臼歯が4本、下顎臼歯が11本出土している。これらの歯は最少で、4個体に由来し、年齢は2.5歳を1個体含む5~12歳の範囲に入る。

### B. ウシ

上顎臼歯が5本、下顎臼歯が7本出土している。このうち1号土坑から出土した個体は、推定年齢2~3歳、2号土坑の個体は3.5歳である。No.176の全臼歯列長 (54.5mm) は西中川・松元 (1989) の示すデータの見島牛相当である。

## 引用文献

- 馬場悠男 (1991) 人骨計測法-「人体計測法」、『人類学講座-別館1』、雄山閣、東京 359P
- 醍醐正之 (1957) 犬の骨格に関する比較解剖学的考察 2. 下顎骨について、日本獣医畜産大学紀要、6号、70-79
- Ducos, P., (1968) L'origine des animaux domestiques en Plaestine. Quoted from Gigson, C., (1982) Sex and age determination of some bones and teeth of domestic cattle: a review of the literature. In Wilson, B., Grigson, C. And Pane, S., eds., Ageing and sexing animal bones from archaeological sites. BAR British Series. 109, 7-23.
- Duerst, J. U., (1926) Vergleichende Untersuchungsmethoden am Skelett bei Saugern. In Handbuch der biologischen Arbeitsmethoden, Abt. 7: Meth-

1. 元総社寺田遺跡VI区・VII区出土人骨・獣骨の分析

oden der vergleichenden morphologischen Forschung, Heft 2,125-533. Berlin & Wien.  
 上条雅彦 (1996) 日本人 永久歯の解剖学的研究. アナトーム社、東京、272 P.  
 Levine, M. A., (1982) The use of crown height measurements and eruption-wear sequences to age horses teeth. In Wilson, B., Grigson, C. And Pane, S., eds., Ageing and sexing animal bones from archaeological sites. BAR British Series. 109, 223-250.  
 西中川駿・松元光春 (1989) 日本在来牛および現代和牛 (黒毛和種) の骨に関する形態計測学的研究、「古代

遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の起源、系統に関する研究-特に日本在来種との比較-」。昭和63年度文部省科学研究費補助金 (一般研究B) 研究成果報告書、3-14。  
 西中川駿・松元光春 (1989) 日本在来馬の骨に関する形態計測学的研究、「古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の起源、系統に関する研究-特に日本在来種との比較-」。昭和63年度文部省科学研究費補助金 (一般研究B) 研究成果報告書、15-26  
 林田重幸・山内忠平 (1957) 馬における骨長より体高の推定法。鹿児島大学農学部学術報告書、6、146-156  
 斎藤弘吉 (1963) 犬科動物骨格計測法。私家版、138 P.

表18 元総社寺田遺跡ウマ臼歯計測値(1)

上顎臼歯

標本番号	240	275	484 a	155	517	165	405	170 b	21	55	407	
発掘区	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	
発掘区画	D-88	D-89	D-89	一括	2河	3河	D-88	D-89	E-89	D-88	D-88	
層位	B下1砂	B下1粘	B下1砂	III層	III層	III層	B下1砂	B下2砂覆	B下1粘	B下1砂	B下1砂	
時代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	
歯種	P2	P2	P2	P2	P2	P2	P2	P2	P2	P3	P3	
左右	右	左	右	右	右	左	右	左	左	左	右	
歯冠長	咬合面	36.5	34.9	32.3	35.8	35.2	36.2	35.0	34.4	35.0	28.0	26.6
〃	中央	36.5	34.9	30.5	35.8	35.2		34.7	34.4	35.0		25.8
歯冠幅	咬合面	22.3	23.8	23.4	23.2	22.9	23.0	23.3	22.9	21.6	25.0	24.8
〃	中央	22.3	23.8	21.7	23.2	22.9			22.9	21.6		24.7
原錐幅	咬合面	9.1	8.3	8.0	8.6	8.2	9.1	8.4	9.2	9.5	11.0	9.2
〃	中央		5.3	7.0	8.6	8.2			9.2	9.5		8.9
歯冠高	頰側	29.2	23.6	44.5	33.0	34.7	32.0	40.5	32.7	37.0	42.0	42.0
〃	舌側	32.2	24.1	44.1	36.6		31.3	38.0	35.4	36.0	40.0	41.7
咬合面の傾斜		102°	100°	103°	105°	108°	112°	100°	110°	103°	82°	82°
中附錐幅	咬合面	6.1	5.2	4.7		5.3	6.1	5.2	6.3	5.3	4.0	3.7
〃	中央		5.2	3.9		5.3		5.5	6.3			3.8

標本番号	485 a	209	213	5	171 b	115	51	236	438	494 a	
発掘区	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	
発掘区画	D-89	1河	河一括	D-88	D-89	D-90	D-88	D-88	D-88	D-89	
層位	B下1砂	III層	III層	B下1砂	B下2砂覆	B下1砂	B下1砂	B下1砂	B下1砂	B下1砂	
時代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	
歯種	P3	P3	P3	P3	P3	P3	P4	P4	P4	P4	
左右	右	右	右	右	左	左	左	右	右	右	
歯冠長	咬合面	28.8	30.8	27.4	29.2	27.5	26.8	28.5	25.4	27.3	28.7
〃	中央	24.6	29.3	26.2	27.2	25.7	26.3	26.2	24.0	25.9	25.2
歯冠幅	咬合面	25.6	26.1	26.8	26.5	25.1	26.0	24.1	25.4	26.4	25.7
〃	中央	26.7	26.7	25.2	26.3	25.1	25.1	26.8	25.4	27.5	25.0
原錐幅	咬合面	9.6	12.6	9.3	10.4	9.3	10.2	12.2	9.8	12.3	9.8
〃	中央	8.7	12.2	9.8	10.4	9.3	10.0	12.1	9.8	12.7	9.8
歯冠高	頰側	56.0	80.7+	45.8	56.6+	47.0	55.2+	75.0+	50.5	55.7	64.0
〃	舌側	56.0	42.7+	45.2	48.2	47.6	49.3+	68.7	42.4	49.2	61.7
咬合面の傾斜		82°	90°	90°	88°	90°	90°	85°	82°	85°	82°
中附錐幅	咬合面	4.4	3.8	5.8	5.5	5.8	4.6	3.4		4.8	4.4
〃	中央	4.5	5.0	5.5	5.2		4.7	5.1		5.9	4.7

表19 元総社寺田遺跡ウマ臼歯計測値(2)

	標本番号	494	146	512	519	196	57	6	339	242	173 c	489 a	426
	発掘区	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI
	発掘区画	E-89		河一括	1河	1河	D-90	D-87	D-87	D-88	D-89	D-89	E-86
	層位	B下1砂	B下1砂	Ⅲ層	Ⅲ層	Ⅲ層	B下1砂	B下1砂	B下1砂	B下1砂	B下2砂覆	B下1砂	B下1砂覆
	時代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代
	歯種	P4	P4	P4	P4	P4	P4	M1	M1	M1	M1	M1	M1
	左右	右	左	左	右	左	左	左	左	右	左	右	左
歯冠長	咬合面	28.7	26.5	27.3	27.1	26.8	29.7	22.8	21.9+	24.0	23.6	23.9	28.4
〃	中央	25.0	25.0	25.0	25.6	25.0	26.1	22.4		23.0		22.4	23.5
歯冠幅	咬合面	26.1	24.4		22.5	23.7	25.3	24.3	23.8	25.7		23.3	23.6
〃	中央	25.2	25.3		24.6	24.8	26.0	23.6		26.4		24.4	24.7
原錐幅	咬合面	9.8	11.3		12.7	12.7	12.8	11.4	10.8	11.3		11.6	11.6
〃	中央	10.0	12.0		12.4	12.6	11.3	11.1		11.5		11.7	11.3
歯冠高	頬側	64.3	52.5	67.3	58.2+	57.2+	73.0+	45.3	34.6	45.1		57.2	76.5
〃	舌側	62.8	50.0	56.2	53.5+	53.5+	64.1+	40.3	31.6	41.5		48.0	64.6
咬合面の傾斜		80°	88°	85°	85°	82°		85°	80°	90°		80°	90°
中附錐幅	咬合面	4.4	4.3	4.3	3.4			4.0	3.8	3.7		3.3	2.7
〃	中央		5.2	5.1	5.3	7.7		4.1		4.0		3.4	4.0

	標本番号	180	218	315	119	172 c	244	487 a	483	513	532	166	201
	発掘区	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI
	発掘区画	3河	4河	C-90	D-90	D-89	D-88	D-89	E-89	1河	1河	1河	4河
	層位	Ⅲ層	Ⅲ層	B下1砂	B下1粘	B下2砂覆	B下1砂	B下1砂	B下1砂	Ⅲ層	Ⅲ層	Ⅲ層	Ⅲ層
	時代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代
	歯種	M1	M1	M1	M1?	M2	M2	M2	M2	M2	M2	M2	M2
	左右	左	左	右	左	左	右	右	右	左	右	右	左
歯冠長	咬合面	27.7	26.1	23.2	23.0	23.4	23.8	24.2	25.2	26.3	26.6	26.3	23.4
〃	中央	23.3	23.0	21.8		22.6	22.9	24.2	23.0	23.2	22.7	22.8	
歯冠幅	咬合面	23.8		23.1	18.7+	23.7	24.6	21.6	25.0	24.0	24.5	20.5	23.0
〃	中央	24.5		23.1		23.9	23.4	22.9	25.4	23.7	25.0	22.9	
原錐幅	咬合面	12.7		13.2		12.1	11.4	11.6	12.5	13.6	13.3	12.1	11.1
〃	中央	11.8	10.7	13.1		12.0	11.8	11.4	12.2	13.1	12.6	13.0	
歯冠高	頬側	76.0		68.2	30.2+	55.8	53.4	68.2	50.2+	71.2	73.0	74.6+	50.4
〃	舌側	70.5	68.6	64.7	36.0+	54.4	49.5	63.3	65.0 e	61.1	67.5	69.3+	47.0
咬合面の傾斜		85°	82°	88°	83°	85°	78°	80°	85°	80°	87°	78°	72°
中附錐幅	咬合面	3.1		4.3		3.7	3.8	3.4	4.6	3.8	3.9	2.7	3.4
〃	中央	3.8		4.5	3.6		4.4	4.1	4.8	4.7	5.1	4.4	

1. 元総社寺田遺跡VI区・VII区出土人骨・獣骨の分析

表20 元総社寺田遺跡ウマ臼歯計測値(3)

標本番号	169 b	153	393	533	524	134	149	239	488 a	220	536	
発掘区	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	
発掘区画	D-89	E-89	F-90	D-86	D-89	D-91	D-86	D-88	D-89	1河	D-88	
層位	B下2砂覆	FA直上	B下1粘	B下1砂	B下2砂覆	B下1砂	III層	B下1砂	B下1砂	III層	B下1砂	
時代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	
歯種	M2	M2	M2	M3	M3	M3	M3	M3	M3	M3	M3	
左右	左	左	右	左	左	左	右	右	右	右	左	
歯冠長	咬合面	26.6	23.3	23.4+	26.4	27.5	23.4	21.7	26.8	23.9	24.0	24.0
〃	中央	26.5	22.4	23.4+	28.7	27.8	25.4	22.6	26.2	26.1	22.5	24.0
歯冠幅	咬合面	21.6	23.8	20.9+	22.7	24.5	18.7	18.4	22.0	21.4	15.5+	18.4
〃	中央	22.0	22.7	20.9+	23.5	24.9	20.8	19.4	22.2	21.4	15.5+	21.1
原錐幅	咬合面	13.5	13.6	13.0	14.5	25.8	12.4	10.8	13.3	12.8		12.0
〃	中央	13.2	13.4	13.0	14.3		12.9	10.5	13.1	13.6		12.2
歯冠高	頬側	52.0	54.3		50.1	41.2	64.7+	44.7	80.0	70.0	37.0+	47.0+
〃	舌側	52.0	51.2	24.5	49.0	41.0	55.9+	42.2	42.4	59.4	32.0	40.0+
咬合面の傾斜		52°	72°	90°	72°	72°	60°	62°	55°	62°	52°	65°
中附錐幅	咬合面		3.6		3.6	3.7	2.9	3.0	4.5	2.6	2.0	2.0
〃	中央		4.3		4.8		4.4	4.2	4.9	4.4	4.3	3.0

標本番号	215	156 d	163	158 d	223	510	411	399	402	293	26	
発掘区	VI B	VI B	VI B	VI B	VI B	VI B	VI	VI	VI	VI	VI	
発掘区画	西傾下砂	西傾下砂	東側下砂	西傾下砂	西傾下砂	東側下砂	G-79	G-79	G-79		一括	
層位							4溝	4溝	4溝	2溝		
時代	中世	中世	中世	中世	中世	中世	近世	近世	近世	近世	?	
歯種	P3	M1	M1	M3	M3	M3	P3	P3	M1	M3	P3	
左右	右	右	左	右	左	左	右	左	右	右	右	
歯冠長	咬合面	28.1	22.8	22.7	24.9	22.1	24.1	28.1		23.0		29.2
〃	中央	25.3	21.7	22.7	26.1	24.3	28.1	26.2	21.7+	23.0	29.0	27.0
歯冠幅	咬合面	25.5	23.0	23.7	21.0	18.5	21.0	23.5		25.0		24.6
〃	中央	24.9	22.4	23.7	21.5	20.8	22.1	24.8	23.6	25.8	22.0	24.1
原錐幅	咬合面	10.6	11.5	11.1	12.7	9.9	13.2	12.6		10.5		9.8
〃	中央	10.4	11.3	11.1	13.2	10.7	13.3	10.6	10.8	10.5	12.7	9.9
歯冠高	頬側	63.6	64.0	41.0	61.9	55.1	69.6	71.0	35.2	38.0	43.7	64.4
〃	舌側	63.0	59.7	36.3	59.0	52.6		65.2	32.4	34.6	38.7	58.3
咬合面の傾斜		85°	86°	82°	68°	50°	60°	93°	80°	90°	65°	83°
中附錐幅	咬合面	5.8	3.6	2.6	3.4	2.8	2.6	4.0		3.6		4.6
〃	中央	5.7	4.2	3.3	4.6	3.1	3.9	4.9	3.8	3.9	4.5	4.7



表21 元総社寺田遺跡ウマ臼歯計測値(4)

下顎臼歯		105	117 e	276	505	427 e	157	509	76	117 e	11	425
標本番号		VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI
発掘区		D-87	D-87	D-87	D-87	F-84	一括	3河	D-86	D-87	D-87	E-86
発掘区画		B下1砂	B下1砂	B下1砂	B下1砂	3坑	一括	一括	B下1砂	B下1砂	B下1砂	B下1砂
層位		古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代
時代		P2	P2	P2	P2	P2	P2	P2	P3	P3	P3	P3
歯種		左	右	右		左	右	左	右	左	右	左
歯冠長	咬合面	32.8	33.3	30.6	27.5+	30.8	33.2	30.7	30.1	29.1	29.8	28.1
〃	中央	32.8		30.6	27.5+		33.2	32.5	27.9		28.2	28.1
歯冠幅・前葉	咬合面	12.7	12.4	10.5	11.6	10.5	10.7	10.6	15.8	15.6	16.4	14.7
〃	中央	12.4		10.5	11.6		10.7	11.3	16.1		16.0	14.7
歯冠幅・後葉	咬合面	47.9	13.7	13.6	13.6	13.5	13.0	13.7	14.8	16.1	15.2	15.7
〃	中央	47.9		13.6	13.6		13.0	14.3	14.6		15.1	15.7
歯冠高	頰側	32.6		23.4	35.0	48.1	26.3	49.7	67.5	49.0	62.4+	36.6
〃	舌側	32.4		20.5	36.6	43.2	23.7	48.6	66.5	50.0	57.0	36.5
下後錐谷長		6.4	6.4	7.0	36.6	8.2	7.6	5.3	13.9	9.2	9.7	9.2
下内錐谷長		15.8	15.2	16.7	18.8	13.4	16.3	14.8	10.2	9.3	16.2	17.8
double knot長	咬合面	17.1	16.3	14.0	15.2	15.5	14.8	14.0	15.3	18.2	17.8	16.0
〃	中央	17.1		14.0	15.2		14.8	13.8	15.7		17.6	16.0
咬合面の傾斜		90°		105°	95°	100°	100°	103°			89°	88°
下内錐幅		6.1	5.9	5.9	6.1	5.6	5.5	6.4	6.0	6.3	6.6	6.2

標本番号	433 f	160	200	255	117 e	124	302	432 f	161	210	234	
発掘区	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	
発掘区画	F-84	一括	2河	2河	D-87	D-87	D-89	F-84	一括	4河	5河	
層位	3坑	Ⅲ層	Ⅲ層	Ⅲ層	B下1砂	B下粘	B下1砂	3坑	Ⅲ層	Ⅲ層	Ⅲ層	
時代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	
歯種	P3	P3	P3	P3	P4	P4	P4	P4	P4	P4	P4	
左右	左	右	右	左	左	右	左	左	右	右	左	
歯冠長	咬合面	27.7	27.8	25.4	27.4	25.8	27.2	26.3	27.2	26.8	26.5	26.5
〃	中央	25.7	27.3		27.0		25.5	25.0	24.9	25.6	25.0	26.3
歯冠幅・前葉	咬合面	14.3	15.4	15.0		15.7	14.1		13.0	15.0	13.7	13.5
〃	中央	14.7	15.4				14.5		14.6	15.5	14.3	13.0
歯冠幅・後葉	咬合面	14.6	15.9	15.9	14.4	15.6	12.8		13.6	14.7	13.3	13.0
〃	中央	14.7	15.9		14.5		13.0	14.0	14.8	15.3	14.3	13.1
歯冠高	頰側	65.5	39.8	38.0	47.0		59.3	54.4+	75.7	47.4	56.4+	74.0+
〃	舌側	65.2	36.7	36.3	51.3		57.0	56.5+	74.2	46.5	60.4+	76.0+
下後錐谷長		6.0	9.0	7.8	9.5	8.7	8.2	8.5	8.9	8.5	9.9	9.4
下内錐谷長		13.7	13.6	11.4	13.8	11.4	9.7	12.4	9.8	12.7	12.0	9.6
double knot長	咬合面	16.0	17.1	15.5	15.6	16.6	13.6		14.6	15.8	16.3	
〃	中央	16.7	17.1		15.4		13.5		15.4	15.7	16.8	
咬合面の傾斜		80°	85°	90°	90°		73°		78°	85°	80°	
下内錐幅		5.8	6.3	6.4	5.7	6.0	5.7	5.5	5.4	5.9	4.7	4.7

1. 元総社寺田遺跡VI区・VII区出土人骨・獣骨の分析

表22 元総社寺田遺跡ウマ臼歯計測値(5)

下顎臼歯		標本番号	521	92	58	117 e	386	430 f	162	235	531	508	100	78	117 e
		発掘区	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI
		発掘区画	河一括	一括	一括	D-87	E-89	F-84	一括	一括	2河	5河	D-90	D-86	D87
		層位	Ⅲ層	B下1砂	B下1砂	B下1砂	B下1砂	3坑	Ⅲ層	Ⅲ層	Ⅲ層	Ⅲ層	B下1粘	B下1砂	B下1砂
		時代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代
		歯種	P4	P4	P4	M1	M1	M1	M1	M1	M1	M1	M1	M2	M2
		左右	右	左	右	左	左	左	右	右	右	右	左	右	左
歯冠長	咬合面			27.3		25.6	23.4	24.1	24.0	25.7	27.6	26.4		26.2	25.2
〃	中央			27.3	25.5		23.4	23.0	24.0	23.5	26.2	25.2	24.7	23.2	
歯冠幅・前葉	咬合面			13.0	15.0	15.3	14.6	12.2	14.0	12.2	12.6	13.6		13.4	14.2
〃	中央			14.8			14.6	12.4	14.0	13.2	13.7	13.7	14.3	13.9	
歯冠幅・後葉	咬合面			12.8	14.0	13.5	14.0	11.5	14.0	11.6	12.6	12.2		11.6	13.6
〃	中央			14.2			14.0	11.8	14.0	12.9	12.8	13.0		12.7	
歯冠高	頬側			47.4+	28.0+		22.2	69.8	36.2	45.0	74.0	45.9	25.1	45.4	
〃	舌側			44.3	49.5+	29.4+		19.5	66.2	34.0	42.0	78.0	47.3	47.0	
下後錐谷長						7.6	6.2	8.5	8.6	8.1	8.6	8.4	7.5	9.5	8.3
下内錐谷長						8.2	6.4	8.9	9.0	9.7	10.7	10.2		8.1	8.2
double knot長	咬合面			11.9		14.8	14.7	11.6	9.3	13.6	13.1	12.8		12.8	12.9
〃	中央			14.9	14.6		14.7	11.9	9.3	12.4	13.0	11.8		12.0	
咬合面の傾斜				86°			90°	82°	82°	71°	73°	70°		80°	
下内錐幅				5.8	3.5	5.7	4.9	6.1	4.8	5.3	4.9	4.7	4.8	4.5	4.5

		標本番号	12	431 f	519	516	530	204	387	97	151	147	117 e	120	52
		発掘区	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI
		発掘区画	D-87	F-84	1河	4河	4河	5河	E-90	9溝	一括	C-91	D-87	D-87	D-88
		層位	B下1砂	3坑	Ⅲ層	Ⅲ層	Ⅲ層	Ⅲ層	FA直上	Ⅲ層	B下1砂	B下1砂	B下1砂	B下1砂	B下1砂
		時代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代
		歯種	M2	M2	M2	M2	M2	M2	M2	M2	M2	M2	M3	M3	M3
		左右	右	左	右	右	右	左	左	右	右	左	左	右	左
歯冠長	咬合面		24.0	25.0	24.4	25.8	25.1	25.7	26.1	21.6+	21.5+	17.4+	30.0	30.7	26.3+
〃	中央		22.2	23.2	24.4	26.2	23.8	25.7	24.1	20.3+	21.5+			31.2	26.5+
歯冠幅・前葉	咬合面		14.6	13.1	12.7	13.0	12.0	14.2		11.6	12.5	11.8	13.2	12.3	10.6
〃	中央		14.0	13.2	12.9	12.9	12.5	13.1	12.4	11.8	12.5	11.2		12.8	11.9
歯冠幅・後葉	咬合面		13.0	12.7	11.8	12.0	11.3	12.6	11.5	11.6	11.9	10.3	11.7	11.5	10.0
〃	中央		12.1	12.9	12.7	12.5	11.8	12.0	11.8	11.2	11.9	9.4		11.9	11.1
歯冠高	頬側		46.0	62.4	50.0	65.7	54.9	57.6	72.6	64.6	34.5	41.7+		40.6	43.4+
〃	舌側		48.2	61.2	49.2	61.0	51.4	54.0	67.2	63.2	31.2	44.2+		43.0	50.2+
下後錐谷長			8.5	7.8	7.6	8.0	7.6	8.3		8.3	6.8	8.0	8.2	8.0	8.7
下内錐谷長			8.1	8.2	8.2	10.6	8.0	9.8	10.7		7.6		9.1	9.8	11.2
double knot長	咬合面		12.6	13.7	12.6	13.2	12.4	15.4		12.4	12.5	12.0	11.9	12.0	12.3
〃	中央		11.6	12.7	12.0	13.7	11.4	15.0	12.0	12.0	12.5	12.6		12.3	12.1
咬合面の傾斜			76°	80°	70°	72°	72°	72°	78°	75°	83°			65°	63°
下内錐幅			4.6	4.3	4.6	4.3	4.2	4.3	4.4		4.4		4.4	4.2	4.4

表23 元総社寺田遺跡ウマ臼歯計測値(6)

下顎臼歯

	標本番号	159	515	407	443	411	412	24	g	g	506g	g	g
	発掘区	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI
	発掘区画	一括	河一括	D-88	G-80	G-79	G-79	G-80	新河	新河	新河	新河	新河
	層位	Ⅲ層	Ⅲ層	B下1砂	4溝	4溝	4溝	4溝					
	時代	古代	古代	古代	近世	近世	近世	近世	近世	近世	近世	近世	近世
	歯種	M3	M3	M3	P3	P4	M2	M3	P2	P3	P4	P4	M1
	左右	右	左	左	右	左	左	左	右	右	左	右	右
歯冠長	咬合面	30.9	28.2	30.0	27.9	28.6	27.9	28.8	33.0	28.3	26.0	26.2	25.2
	〃 中央	31.0	30.5	30.0		25.2	24.9				25.5		
歯冠幅・前葉	咬合面	12.0	11.8	12.9	15.5	14.1	12.3	11.9	12.4	15.4	13.9	16.4	15.8
	〃 中央	12.6	10.8	12.9			13.8				13.8		
歯冠幅・後葉	咬合面	11.3	10.7	12.6	14.8	15.3	11.2	11.4	13.7	15.1	12.8	15.2	14.6
	〃 中央	12.0	8.7	12.6			12.5				12.2		
歯冠高	頬側	42.7	53.0+	10.0	43.1	73.8	65.2+	45.0			57.0+		
	〃 舌側	45.2	54.1+	7.5	42.0	75.5	64.0+	43.0					
下後錐谷長		8.3		8.2	9.4		12.2	7.8	6.4	9.2	8.2	8.7	7.3
下内錐谷長		12.0		84.4	11.5		8.7	8.7	15.2	9.3	11.7	11.4	8.2
double knot長	咬合面	12.6	10.8	16.5	17.0		15.1	12.0	16.3	18.2		16.2	14.8
	〃 中央	12.4	11.9	16.5			14.5						
咬合面の傾斜		62°	65°	80°	90°		78°	68°			83°		
下内錐幅		4.9	3.3	5.3	6.0		4.3	4.3	5.9	6.3	4.8	6.0	4.9

	標本番号	389g	g	313	312	535	394	41	514	365	208
	発掘区	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VII	VII	VI
	発掘区画	新河	新河	F-83	F-83	F-83	F-85	K-59	河一括	一括	表採
	層位			一括	一括		1号	一括			
	時代	近世	近世	?	?	?	?	?	?	?	?
	歯種	M2	M3	M2	M3	P2?	P3	P4?	M2	P3	P3
	左右	右	右	右	右	右	右	左	右	左	左
歯冠長	咬合面	26.5	29.7	27.2	28.0		28.3	28.6	25.0	26.7	27.7
	〃 中央	24.5		25.8	31.2		28.3	25.2	24.1	27.0	26.4
歯冠幅・前葉	咬合面	14.0	14.0	13.8			15.3	14.1	13.9	14.7	
	〃 中央	13.8		13.4			15.3		13.8	15.1	16.3
歯冠幅・後葉	咬合面	12.8	11.9	12.9	11.6		15.1	15.3	12.7	14.9	
	〃 中央	12.7		13.2	11.9		15.1		13.6	15.4	14.7
歯冠高	頬側	55.1		69.2	57.7	70.0	35.2	73.8	51.0	51.8	78.0
	〃 舌側	55.0		64.0	65.4	71.0	35.2	75.5	48.2	51.0	78.8
下後錐谷長			8.2	8.2			9.1			9.7	9.1
下内錐谷長		9.7	9.1	9.3	7.9		14.4		8.4	13.2	12.0
double knot長	咬合面	13.8	11.9	13.7			16.2		13.7	16.5	14.0
	〃 中央	12.7		12.6			16.2		13.1	17.0	
咬合面の傾斜		73°		78°	68°		90°		70°	88°	92°
下内錐幅		4.7	4.4	4.9		4.9	5.9		4.8	6.2	5.5

1. 元総社寺田遺跡VI区・VII区出土人骨・獣骨の分析

表24 元総社寺田遺跡ウマ歯・骨計測値(7)

ウマ下顎骨計測値

標本番号	117 e	368
発掘区	VI	VI
発掘区画	D-87	F-89
層位	B下1砂	FA直上
時代	古代	古代
左右	左	右
下顎骨長	261.3+	
歯隙長	A-2 71.4	
第3後臼歯-下顎三角	A-5 124	116.1
下顎体長	A-6 260.0+	
下顎枝長	A-7 146	
下顎結合最小幅	B-2 41	
下顎頭幅	B-7 35.8+	
下顎三角最大幅	B-10 23.3	19.6
下顎頭高	C-1 219	
第2前臼歯高	C-4 57.8	
第4前臼歯-第1後臼歯高	C-5 80	
第3後臼歯高	C-6 113.5	
筋突起高	C-7 24.2	

ウマ犬歯計測値

標本番号	117 e	491 i	498 i
発掘区	VI	VI	VI
発掘区画	D-870	D-89	D-89
層位	B下1砂	B下1砂	B下1砂
時代	古代	古代	古代
歯種	右下	左上	右上
近遠心径	10.8	10.7	10.8
唇舌径	9.8	9.0	9.0
全長	15.8	18.9	16.8

ウマ切歯計測値

標本番号	108 h	496 i	104 h	107 h	56	106 h	109 h	319	495 i	390	503	93	96
発掘区	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI
発掘区画	D-87	D-89	D-87	D-87	D-87	D-87	D-87	D-87	D-89	E-87	D-88	D-90	D-86
層位	B下1砂	B下1砂	B下1砂	B下1砂	B下1砂	B下1砂	B下1砂	B下1砂	B下1砂	B下粘	B下1砂	B下1粘	下1砂覆
時代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代
左右	左	右	右	右	右	右	右	左	左	左	左	左	左
上下	下	?	下	下	下	下	下	上	上	上	上	上	上
歯種	13	1	13	12	12	11	11	13	12	12	12	12	11
近遠心径	13.8	16.8	13.7	14.9	17.7	14.6	14.3	16.2	17.6	16.3	16.0	17.6	16.3
唇舌径	9.0	10.3	8.8	9.5	9.7	9.6	9.5	11.8	9.9	10.2	11.3	8.6	9.0
全長	67.0	55.9	58.8+	60.8	65.4	64.4	64.5	64.5	59.4	64.6	67.9	56.5+	55.2
年齢(年)	10		10	10	5	10	10	10		10	10	4	3

標本番号	500 i	7	504	112	403	102	133	449	340	114	441	152
発掘区	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI
発掘区画	D-89	E-87	D-88	E-88	D-87	D-87	D-91	E-89	D-87	D-89	G-78	11坑
層位	B下1砂	B下1砂覆	B下1砂	FA直上	B下1砂	B下1砂	B下1砂	B下1粘	B下1砂	B下1粘	4溝	
時代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	中世	中世
左右	左	左	左	左	右	右	右	右	右	右	左	右
上下	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
歯種	11	11	11	11	13	12	12	12	11	11	11	13
近遠心径	17.4	20.2	16.3	16.4	20.1	18.3	19.4	17.9	15.8	12.4	18.1	16.3+
唇舌径	10.5	9.5	8.1	11.0	9.4	7.6	7.7	10.0	10.4	10.2	11.0	9.2
全長	56.6	63.0	48.2	42.5	49.2+	36.6	51.2+	59.8	53.0	52.0	52.2+	39.9+
年齢(年)		3	3	10		10ヶ月	5		10	12	8	5

表25 元総社寺田遺跡ウマ骨計測値(8)

ウマ環椎計測値

標本番号	226
発掘区	VI
発掘区画	C-91
層位	B下粘
時代	古代
最大幅	120.5+
椎孔最大幅	85.8
椎孔最大背腹径	46.3
背結節頭尾径	38.8

ウマ肩甲骨計測値

標本番号	249	446	465	355	191	246	26
発掘区	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI
発掘区画	D-85	D-87	排水溝	2河	D-88	D-90	E-89
層位	9溝	B下1砂	III層	III層	B下1砂	III層	B下1粘
時代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代
左右	左	左	右	右	右	左	左
保存全長	240.0	168.0	164.0	148.8	232.5	197.8	233.2
肩甲頸部幅	8	55.8	63.0	64.0	61.6	57.7	60.4
関節部頭尾径	10	81.0+		89.2	91.0	84.7	88.5
烏口突起長	12	39.0		45.5	41.3	44.4	44.0
関節窩内外径	13	41.3		46.3	38.0+	43.1	
関節窩深	17	49.0		54.0	55.5	49.0	50.0

ウマ仙骨計測値

標本番号	135
発掘区	VI
発掘区画	E-87
層位	B下2粘
時代	古代
保存長	136.0
最大幅	91.0
椎頭幅	31.2
椎頭背腹径	17.8
腹側第1仙椎孔幅	35.0
腹側第2仙椎孔幅	34.4
腹側第3仙椎孔幅	29.0

ウマ中手骨計測値

標本番号	341	281	232	19	454	229	230
発掘区	VI	VI	VI B	VI	VI	VI B	VI B
発掘区画	D-88	3河		C-89	E-89		
層位	III層	III層	西傾下砂	B下1粘	9溝		
時代	古代	古代	中世	古代	古代	中世	中世
左右	右		右	右		左	右
最大長	1	291.0	66.7+	9.1+	204.0+	152.0+	208.5
生理的長	3	284.0					197.1
近位端最大幅	9	48.1		44.8	45.1		39.1+
近位関節面最大幅	10	37.0			44.0		39.0
骨体最小幅	11	29.9			32.3		27.4
骨体遠位部大幅	13	45.1					26.9
遠位端最大幅	14	46.9	38.5				38.8
遠位関節面最大幅	15	45.2	36.7				38.8
近位骨端径	18	31.8		29.7	32.2		39.8
近位関節面最大径	19	28.2			29.6		38.0
骨体最小径	20	19.7			20.5		34.1
骨体中央幅	22	29.6			32.0	28.5	27.0
骨体中央径	23	24.1			24.6	20.1	27.1
内側関節面径	24	30.1					21.0
外側関節面径	25	27.0					25.8
縦稜径	26	33.8					22.4
							21.2
							29.0
							29.2

ウマ胸椎計測値

標本番号	457
発掘区	VI
発掘区画	C-91
層位	B下2粘
時代	古代
保存長	192.0
最大高	192.9
前椎孔最大幅	29.5
前椎孔最大上下径	15.0
前椎体最大幅	27.3
椎体前後径	37.5

1. 元総社寺田遺跡VI区・VII区出土人骨・獣骨の分析

表26 元総社寺田遺跡ウマ骨計測値(9)

ウマ橈骨計測値

標本番号	279	287	231
発掘区	VI	VI	VI B
発掘区画	D-89	一括	
層位	B下1粘	III層	西傾下砂
時代	古代	古代	中世
左右	左	?	?
最大長	289.8+		
保存長		130.2+	178.0
近位端幅	62.0+		
近位関節窩幅	53.6		
骨体中央最小幅	33.1	29.7	26.0
橈骨頭径	36.3		
橈骨頭窩径	27.0		
骨体中央最小径	23.0	21.6	17.6
橈骨最小周	96.0		

ウマ脛骨計測値

標本番号	91	192	278	469	193	369	366
発掘区	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI
発掘区画	D-87	D-87	D-89	一括	2河	D-89	D-90
層位	9溝	B下粘	B下1粘	III層	III層	B下1砂	9溝
時代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代
左右	右	左	右	左	左	右	左
最大長	139.9+	334.5	221.0+		286.0+	358.8	338.0
中央軸長		314.0				337.4	323.8
近位骨端最大幅		75.4+				82.0+	90.2
近位関節面最大幅		72.0+				82.0	86.1
骨体最小幅		38.2	34.2		34.8	38.1	39.3
遠位骨端最大幅		66.0			65.3	66.2	68.8
骨体最小径		27.9	24.4		26.5	29.4	29.8
遠位骨端最大径		40.7			40.0	43.3	42.6
遠位関節面幅		80.5		78.4	48.6	50.8	50.2
遠位外側関節窩幅		26.0			28.8	24.0	25.0
遠位内側関節窩幅					24.1	23.6	23.1
遠位関節面径		40.4				48.0	37.0
骨体中央周		107.0	101.0		104.0	114.0	115.5

ウマ中足骨計測値

標本番号	62	189	253	367	65
発掘区	VI	VI	VI	VI	VI
発掘区画	D-87	D-87	3河	D-89	E-89
層位	B下1砂	B下1砂	III層	B下1砂	III層
時代	古代	古代	古代	古代	古代
左右	右	右		右	左
最大長	263.4	20.0+		259.2	238.0+
生理的長	263.4			259.2	
近位端最大幅	41.6+			46.3	44.0
近位関節面最大幅	45.4			42.7	42.5
骨体最小幅	32.6	27.2		30.0	27.6
骨体遠位部大端幅	45.8			46.5	
遠位端最大幅	48.0			46.5	
遠位関節面最大幅	47.5		44.3	44.6	
近位骨端径	41.1			41.7	40.5
近位関節面最大径	39.4			36.6	35.7
骨体最小径	24.7	21.7		25.1	22.7
骨体中央幅	31.1	26.8		29.7	26.8
骨体中央径	28.3	25.3		30.0	27.2
内側関節面径	28.5			30.7	
外側関節面径	31.7			27.8	
縦稜径	37.0		35.0	24.8	

ウマ上腕骨計測値

標本番号	311	372	351	421
発掘区	VI	VI	VI	VI
発掘区画	?	E-88	D-89	一括
層位	B下1粘	III層	B下1砂	III層
時代	古代	古代	古代	古代
左右	右	右	右	右
保存全長	112.0	145.0	123.0	104.3
骨体最小幅		36.8	28.0	
上腕骨滑車幅				70.5
肘頭窩幅				25.8
外側滑車径				42.3
上腕骨滑車最小径				34.3

表27 元総社寺田遺跡ウマ骨計測値(10)

ウマ踵骨計測値

標本番号	418	450	408
発掘区	VI	VI	VI
発掘区画	E-87	E-90	
層位	B下粘	B下1砂	FA直上
時代	古代	古代	古代
左右	右	右	左
最大長	114.0	85.2+	69.4+
踵骨体長	82.3		
踵骨隆起幅	45.4		
踵骨最大幅	50.0		
踵骨最小幅	41.6		
踵骨隆起径	29.0		

ウマ中節骨計測値

標本番号	296	322	388	400	110	89
発掘区	VI	VI	VI	VI	VI	VI
発掘区画	D-87	D-87	D-87	D-87	E-87	E-88
層位	B下1砂	B下1砂	B下1砂	B下1砂	B下2粘	B下1砂
時代	古代	古代	古代	古代	古代	古代
最大長	46.0	46.7	46.4	44.6	47.0	44.8
矢状長		37.0	37.3	34.4	38.0	35.2
近位端最大幅	49.1	49.1	50.7	48.2	48.7	
近位関節面正中中部幅	41.1	42.4	43.0	43.6	40.8	
骨体最小幅		42.4	42.6	41.8	39.0	
骨体遠位部最大幅		47.2	47.0		45.0	
遠位関節面最大幅		47.2	47.0	47.4	45.0	
遠位関節面正中中部幅						
近位骨端最大径		29.8	31.2	31.0	30.5	28.2
骨体最小幅部径			21.0		20.5	
骨体最小径		20.1	21.0	21.3	20.5	20.6
遠位関節面径	26.8+	24.4	25.2	25.1	27.5	

ウマ距骨計測値

標本番号	32	299	297
発掘区	VI	VI	VI
発掘区画	2河	D-87	D-87
層位	III層	B下1砂	III層
時代	古代	古代	古代
左右	右	右	右
滑車外側長	50.6	56.8	57.5
滑車内側長	51.7	57.6	55.8
滑車最大長		57.8	56.8
滑車溝長	42.6	35.7	36.1
近位部幅	44.2	47.4	49.8
距骨最大幅	55.9	63.0	58.1
遠位関節幅	42.7	51.0	47.8
距骨体最小幅	44.1	47.5	46.4
滑車対角線長			
距骨径	42.4+	55.8	52.9
距骨頸最小径		33.5	33.8
距骨頭径			

ウマ基節骨

標本番号	36	339	60	81	295	2	44
発掘区	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI
発掘区画	D-87	D-87	E-87	E-87	E-87	E-87	E-88
層位	B下1砂	B下1砂	B下2粘	B下粘	B下粘	III層	B下粘
時代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	古代
前後肢	後肢	後肢	前肢	前肢	後肢		前肢
最大長	87.1	86.1	89.0	89.6	85.2	63.0	79.0
矢状長	79.5	80.0	81.2	83.4			73.2
近位端最大幅	51.3	50.2	51.5	51.4	50.5		46.3+
近位関節面正中中部幅	22.5						42.2
骨体最小幅	30.0	29.2	31.6	31.5	29.9		34.3
骨体遠位部最大幅	42.7	42.1	42.6	43.4			42.3+
遠位関節面最大幅	40.5	39.1	41.2	41.5			41.5+
遠位関節面正中中部幅	19.7		20.9				
近位骨端最大径	37.8	36.7	35.8	35.5	36.0	35.9	34.0
骨体最小幅部径	22.0	22.2	22.0	21.9	203.8		20.8
骨体最小径	18.4	16.9	19.2	18.0	17.5		18.1
遠位関節面径	24.4	23.2	23.8	23.4+			22.0

表28 元総社寺田遺跡ウシ歯・骨計測値

ウシ中手骨・中足骨計測値			ウシ種骨計測値			ウシ上顎臼歯計測値					
標本番号	31	307	35	199	195	169	179 a	525 a	174 a	177 a	219 c
発掘区	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI
発掘区画	D-87	D-87	D-87	一括	2河	D-89	1号土坑	1号土坑	1号土坑	1号土坑	2号土坑
層位	B下1粘	B下1砂	B下粘	III層	III層	B下2砂覆	近世	近世	近世	近世	近世
時代	古代	古代	古代	古代	古代	古代	近世	近世	近世	近世	近世
部位	中手骨	中足骨	右	P3	M1	M3	P2	P3	M1	M2	M3
左右	右	左	右	右	右	左	左	左	右	右	右
最大長	183.5	172.4+	121.7+	16.1	21.6	33.9	19.4	19.6	28.0	29.2	31.4
近位端最大幅	9		54.1				17.0	19.3	21.2	22.2	22.0
骨体最小幅	11		33.1	21.1	23.1		30.7	33.0	31.5	43.0	51.0
遠位端最大幅	14		41.1	13.4	6.7	25.0	27.4	32.6	33.6	42.0	52.0
近位骨端前後径	18					26.0					
骨体最小前後径	20										
骨体中央幅	22	20.3									
骨体中央前後径	23	25.7									
縦稜前後径	26										

ウシ下顎臼歯計測値

標本番号	269 b	225 b	269 b	476 b	392	176 a	176 a	178 a	175 a	222 c	214 c	374	374
発掘区	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI
発掘区画	2河	2河	2河	2河	F-89	1号土坑	1号土坑	1号土坑	1号土坑	2号土坑	2号土坑	E-87	E-87
層位	III層	III層	III層	III層	FA直上	近世	近世	近世	近世	近世	近世	一括	一括
時代	古代	古代	古代	古代	古代	P2	P3	M1	M3	M1	M3	?	?
歯種	P2	P3	M2	M3	M3	左	左	右	右	左	左	M3	M2
左右	左	左	左	左	左	左	左	右	右	左	左	右	右
歯冠長	19.8	22.7	29.3	44.0	39.2	12.6	18.6	23.3	29.0	29.1	38.6	40.1	28.1
咬合面			29.3	44.1	39.7	12.6	18.6	23.3	29.0	29.1	39.6		
最大部			15.9	14.6	14.1	10.6	10.6	12.7	12.2	12.0	12.8		
咬合面			17.9	18.0	16.5	8.7	11.2	12.2	16.0	16.2	16.1		
最大部	12.6	13.8	24.6	38.3	46.7	13.2	22.8	24.5	43.8	42.0	54.7	16.1	18.1
歯冠高	18.4	24.2	31.0	39.4	40.5	15.3	24.4	30.2	43.8	45.4	57.2	29.4	20.5
頰側												29.6	26.6
舌側													



表29 元総社寺田遺跡シカ・イノシシ・イヌ歯・骨計測値

シカ上腕骨計測値

標本番号	64
発掘区	VI
発掘区画	D-86
層位	III層
時代	古代
左右	左
最大長	1 131.4+
遠位端最大幅	10 45.1
滑車幅	11 38.9
肘頭窩幅	12 19.3
内側滑車径	17 42.8
外側滑車径	18 31.0
滑車最小径	21 22.8

シカ肩甲骨計測値

標本番号	188	304
発掘区	VI	VI
発掘区画	一括	D-90
層位	III層	B下1砂
時代	古代	古代
左右	左	左
最大長	1 19.0+	88.4+
棘下窩幅	7 77.0	
頸部幅	8 31.8	23.5
関節頭尾径	10 48.9	37.0+
烏口突起長	12 15.3	
関節窩内外径	13 35.4	29.0+
関節窩深	17 36.7	32.7

シカ脛骨計測値

標本番号	63	190	248
発掘区	VI	VI	VI
発掘区画	D-90	D-90	D-89
層位	9溝	9溝	B下1砂
時代	古代	古代	古代
左右	左	左	右
最大長	1 214.6+	225.5	157.0+
近位骨端最大幅	6 30.5?	61.0	58.3+
骨体最小幅	9		
近位最大径	12	64.2	59.0+

シカ橈骨計測値

標本番号	316
発掘区	VI
発掘区画	D-88
層位	B下覆
時代	古代
左右	右
最大長	1 60.0+
近位端最大幅	6 41.0
近位端最大径	12 22.7

シカ左下顎第2後臼歯

標本番号	10
発掘区	VI
発掘区画	E-87
層位	III層
時代	古代
齒冠長咬合面	20.8
〃 中央	18.6
齒冠最大幅	13.0
齒冠高頰側	18.3
〃 舌側	20.0

イノシシ上腕骨計測値

標本番号	42
発掘区	VI
発掘区画	D-87
層位	B下1砂
時代	古代
左右	左
最大長	1 69.0+
遠位最大幅	10 45.0
滑車幅	11 32.5
肘頭窩幅	12 19.0
内側滑車径	17 41.5
外側滑車径	18 23.0
滑車最小直径	21 20.0

シカ、イノシシの計測番号の付いたものの計測法はDuerst (1926) による。

イヌ下顎骨計測値

標本番号	324
発掘区	VI
発掘区画	D-87
層位	B下1砂
時代	古代
左右	左
下顎体高(4)	18 21.6
下顎体高(5)	19 19.8
下顎体高(6)	20 18.3
下顎体高(7)	21 18.0
下顎体高(8)	22 17.1
下顎体厚(1)	25 11.4
下顎体厚(2)	26 10.4
下顎体厚(3)	27 10.7
下顎結合長	28 24.2+
下裂肉齒長	51 19.6
下裂肉齒近心幅	52 7.8
下裂肉齒冠高	53 10.4

イヌ脛骨計測値

標本番号	121
発掘区	VI
発掘区画	C-90
層位	B下1砂
時代	古代
左右	右
全長	1 82.6+
骨体中央径	7 8.7
骨体中央幅	8 10.6
遠位最大幅	9 16.4
遠位最大径	10 11.8
遠位関節面長	11 11.1

イヌ上腕骨計測値

標本番号	207
発掘区	VI
発掘区画	表採
層位	
時代	?
左右	左
全長	1
骨体径(三角筋粗面部)	10 17.4
骨体最小幅	11 12.8
骨体中央径	12 14.3
骨体中央幅	12 12.0
遠位端最大幅	13 26.0
滑車遠位端幅	14 17.1
滑車近位幅	15 15.8
滑車最大高	16 14.3
滑車前面最大幅	17 15.8
内側滑車径	18 19.4+
外側滑車径	19 16.7
滑車上孔幅	20 3.2
滑車上孔高	21 3.2



表31 元総社寺田遺跡ヒト骨計測値

ヒト脛骨計測値

標本番号	61	534
発掘区	VI	VI
発掘区画	D-87	D-90
層位	B下1砂	9溝
時代	古代	古代
部位	左	左
脛骨全長	1 211.4+	173.9+
中央最大矢状径	8 27.7	27.2
栄養孔位最大径	8 a 31.6	30.6
中央横径	9 21.6	19.7
栄養孔位横径	9 a 23.7	22.0
骨体中央周	10 77.0	74.5
栄養孔位周	10 a 86.2	85.0
骨体最小周	10 b 68.5	

ヒト橈骨計測値

標本番号	379
発掘区	VI
発掘区画	2河
層位	III層
時代	古代
部位	左
橈骨最大長	1 109.4+
骨体最小周	3 46.8
骨体横径	4 10.6
骨体中央横径	4 a 10.9
骨体矢状径	5 13.8
骨体中央矢状径	5 a 13.7
骨体中央周	5(5) 49.0

ヒト腓骨計測値

標本番号	382	456
発掘区	VI	VI
発掘区画		D-86
層位	B下1砂	III層
時代	古代	
部位	左	左
最大長	1 138.7+	201.2
中央最大径	2 14.6	15.9
中央最小径	3 10.3	11.5
中央横径	3(1) 10.5	11.8
中央矢状径	3(2) 14.7	15.8
中央周	4 49.5	56

ヒト尺骨計測値

標本番号	380
発掘区	VI
発掘区画	2河
層位	III層
時代	古代
部位	左
尺骨最大長	117.8+
骨体中央周	52.0

ヒト大腿骨計測値

標本番号		3	34	187	266	282	305	328	381	385
発掘区		VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI
発掘区画			D-91	一括	2河	D-89	D-87	D-90	D-90	E-86
層位		B下1砂	9溝		III層	B下1粘	B下1砂覆	B下1粘	B下1砂	B下1砂覆
時代		古代	古代	?	古代	古代	古代	古代	古代	古代
部位		右	右	右	右	右	右	右	右	右
大腿骨最大長	1	144.8+	242.8+	226.0+	20.3+	73.7+	219.7+	231.0+	185.0+	269.0+
骨体中央矢状径	6	244.0	20.5	19.6	22.9	27.2*	22.9	23.0	18.2	23.5
骨体中央横径	7	24.3	16.4	21.7	27.0	21.8*	24.7	27.6	18.7	23.0
骨体中央周	8	88.5	60.5	77.0	90.0		86.2	90.0	69.5	85.0

\*は栄養孔位置で

## 2. 元総社寺田遺跡VI区低地 出土の大型植物化石

### (1) はじめに

ここでは、低地の調査に伴って検出された大型植物化石について、種類を同定し、観察結果をもとに若干の考察を加える。対象とする試料は22サンプルで、概要は以下のとおりである。

VI区III a～III b 層中 (平安時代)	1・2
VI区III c～III d 層中 (奈良・平安)	3 (2号河道)・4 (5号河道)・5 (2号河道)・22 (河道)
VI区VI層中 (古墳時代)	6～17
VI・VII区VIII～X層中 (縄文～弥生)	18～21

### (2) 時代別の同定結果と若干の考察

表に大型植物化石の同定結果を示した。なお便宜上、28表に縄文～弥生時代、奈良～平安時代、平安時代の試料、29表に古墳時代の試料の同定結果を示してある。特に断りのないものは完形の個数で、fは破片、bは食痕のある個数である。

#### a. 縄文～弥生時代

縄文～弥生時代からは木本のみ出土した。温帯性針葉樹のカヤ、落葉樹のオニグルミ、ナラガシワ、コナラ、トチノキ、エゴノキを出土している。このうち、オニグルミ、トチノキは特に河川、沢沿いのしめった場所に生育する。また、エゴノキも比較的水域の周辺に生育することが多い。オニグルミでは半分で割り跡のある内果皮を出土しているが、これは人為的に割られたものが堆積したと考えられる。但し、トチノキの幼果、幼種子は利用のために採取されるとは考えにくいので、生育地からの供給と人間が廃棄したものがともに堆積したとも考えられる。

#### b. 古墳時代

ここでは6～16までがHr-FA下の5世紀の遺物包含層、17がAs-C下4世紀の水田溝となっている。5世紀の低地堆積物からは木本多数と草本を出土した。木本では針葉樹のマツ属、落葉広葉樹では河川沿い

に生育する、トチノキ、ミズキ、クマノミズキを出土している。ナラガシワ、ミツバウツギ、エゴノキ、ハクウンボクは斜面などに生育する種類である。また、ブドウ属、ノブドウ、草本のカナムグラ、ゴキヅルはこれらの樹木に絡まって生育する、つる植物である。これらは遺跡付近に生育し、風や水流などで堆積したと考えられる。これらのほかに人間に関連したものとして、オニグルミの割り跡のある内果皮、モモ、種子の付いたヒョウタンの果実、多量のメロン仲間の種子を出土している。おそらく、利用された後などに木器などと同じように廃棄されたと推定される。これらのうち、モモの核にげっ歯類による食痕のある核があるが、これは廃棄後にネズミなどがかじった後、低地に再堆積したとも考えられる。17の水田溝からはトチノキのみを出土した。これは出土数も少なく、付近に生育していたものが水流などで溝に堆積したと推定される。

#### c. 奈良～平安時代

試料の3～5と22は奈良～平安時代の河道の堆積物とされている。木本ではオニグルミ、モモ、アンズ、草本ではヒョウタン、メロン仲間を出土し、オニグルミには割り跡のある内果皮もあるため、人間に関連のある遺物と考えられる。ただし、オニグルミ、モモにはげっ歯類の食痕があり、陸上廃棄後にネズミなどがかじった後、河道内に堆積したと推測される。

#### d. 平安時代

ここでは人間に関連したものとしては、木本のモモ、ウメ、草本では炭化したイネ、オオムギ、コムギ、マメ科、未炭化のメロン仲間を出土している。オオムギ、コムギは特に出土数が多く、貯蔵していたものが火災などで炭化したというようなことが考えられる。ともに出土しているイネも焼け膨れている表面の穎がきれいに残っていて保存が良いため、ほとんど移動されていないことが推測される。草本のミゾソバ、イヌコウジュ属は低湿地に生育し、カナムグラ、ゴキヅルはつる植物、アカネ科、ナス属も雑草と思われる。

表32 VI区低地出土の大型植物化石一覧表（縄文～弥生，奈良～平安時代）

（fは破片，bは食痕：例7 f 4は完形7個体，破片4個体を意味する）

試料	平安		奈良～平安				縄文～弥生			
	1	2	3	4	5	22	18	19	20	21
木本 カヤ 種子									1	
オニグルミ内果皮完形 半分 半分割跡				1		b 1 1 1		1 b 1 5	1	
ナラガシワ 殻斗 果実							7 f 4 2 f 2		3 f 1	
コナラ 殻斗 コナラ亜属 果実				f 1			5		2	
クワ属 種子 モモ 核完形 半分	2 1 15	f 1		6 2	4 1	25 b 2 42				
ウメ 核完形 完炭化	1 1									
アンズ 核 サクラ属サクラ節 核	1				1					
トチノキ 果実 幼果 種子 幼種子							1 4 f 22 1	f 13 5 f 6	f 20 6 3 5	f 7
エゴノキ 内果皮							1			
草木 イネ 炭化穎 オオムギ 炭化穎果 コムギ 炭化穎果	20 3000 300									
カナムグラ 果実 マメ科 炭化種子 ミゾソバ 果実 アカネ科 種子	10 10 2 3									
ヒョウタン 種子 ヒョウタン仲間 果実 メロン仲間 種子					19 f 10 20					
ゴキヅル 種子 ナス属 種子 イヌコウジュ属 果実 不明果皮		16 30 10		9						

## 2. 元総社寺田遺跡VI区低地出土の大型植物化石

表33 VI区低地出土の大型植物化石一覧表(古墳時代)

(fは破片、bは食痕)

試料	古墳時代										
	6	7	8	9	10	12	13	14	15	16	17
木本											
マツ属 種子				1							
オニグルミ内果皮半分割跡			1								
イヌシデ 果実				1							
ナラガシワ 殻斗	7	3	4	f 12	5						
果実	f 5	2									
幼果	4	20		9	9						
コナラ 殻斗	5	10		6	3						
果実	f 1	f 6		f 2	f 1						
幼果	11	54		41	12						
カシワまたはクヌギ またはアベマキ 殻斗			f 1								
幼果	2	1		1							
コナラ亜属 果実		f 10									
芽	1	3		6	4						
モモ 核完形		6	8b 4			4					
半分			5			1					
サクラ属サクラ節 核		1									
イタヤカエデ 果実				f 1							
トチノキ 果実	f 3	f 3		f 2							f 2
幼果	21	47		89	35						
種子	2 f 12	f 6		f 4	f 1						1 f 3
幼種子	1	1									1
ミツバウツギ 種子		4			1						
ブドウ属 種子	2	4		9							
ノブドウ 種子	2	8		1	2						
クマヤナギ属 内果皮		2									
ミズキ 内果皮		3		2							
クマノミズキ 内果皮	1	8		3	1						
エゴノキ 内果皮	1	2									
ハクウンボク 内果皮	1	1		1							
草本											
カナムグラ 種子	5	11		9	10						
ヒョウタン 種子			26			8					
種子果実							1		1	1	
ヒョウタン仲間 果実			1					3			
メロン仲間 種子			600		117						
ゴキツル 種子		1	1								
不明A		2									

### (3) 出土大型植物化石の記載

#### 〔木本〕

カヤ：種子は下半部が太い紡錘形で縦にややねじれるような筋が入り、壁はややうすく大変堅く褐色である。食用、燃料となる。温帯の落葉樹林の中に生育する針葉樹である。

マツ属：種子は上下が丸い三角ばった紡錘形で堅く厚い。植栽されることが多い。

オニグルミ：内果皮の完形は球から楕円球、上端が尖ることが多く、下端は平坦かややへこむ。縦に2本縫合線があり、発芽の際はそこから割れる。表面は不規則な凹凸と線状の筋が入る。壁は大変堅い。半分に割れると中は4室に分かれており、複雑な曲面で構成されている。食痕はネズミなどのげっ歯類がかじった跡である。割跡とは上下が割れて欠けているものと内部に縦に裂け目の入ったものを指し、人間による行為と思われる。内果皮内の子葉は食用となる。河川沿いに多く生育するが、植栽もされる。

イヌシデ：果実は扁平なやや厚みのある三角形で、褐色、縦に数本の筋がある。

ナラガシワ：殻斗は杯形で大きく横に広がった感じで、表面にはやや大きい鱗片がありごつごつしていて、殻斗の上端はやや内側に曲がる。果実は幅の太い楕円形で下端のへそは平らか少しへこんで広く、たてることができる。幼果は横に広い殻斗が果実を包み込んでいる。

コナラ：殻斗は球に近い杯形、表面には細かい鱗片があるが揃っており平滑な感じで、果実は長い楕円形でへそは果実の幅の3分の2ほどで果実に沿った丸みがある。幼果は殻斗が内側に曲がってやや縦長の円錐形で、小さい果実を包み込んでいる。

カシワまたはクヌギまたはアベマキ：殻斗の風化したものは長く線状になった鱗片が磨滅している。果実の完形は楕円球形で上端が少しへこみ、下端のへその中央もややへこむ。幼果は殻斗が果実を包み込むようになっている。河川沿いに多く生育する。

コナラ亜属：上端下端の欠けた果皮をコナラ亜属とした。

クワ属：種子は偏三角形、壁は黄褐色で薄いが堅く、三角の頂点に細く尖ったへそがある。ヤマグワかクワかは不明である。

モモ：核完形は凸レンズ形で縦に2本縫合線があり、縫合線に沿ってしわがある。表面には深い縦方向に少し流れる溝状の彫紋があり、少し点状の穴がある。核壁は厚く堅い。ここで出土した核は25～30mm前後の大きさで、通常食用としている種類で、庭に植栽されるほか、栽培される。

ウメ：核完形は凸レンズ形で2本の縫合線があり、表面は細かい穴がたくさんあいている。観賞のほか、食用とされる。

アンズ：核完形は凸レンズ形で2本の縫合線があり、縫合線に沿ってしわがあるほか、表面にも少ししわがある以外は平滑である。観賞のほか、食用とする。

サクランボ属サクランボ：核は凸レンズ形で2本の縫合線があり、しわのほかは平滑である。観賞用のサクランボのほか、山野に生育する種類もこれに属する。

イタヤカエデ：果実は楕円形扁平の種子を包んで大きな翼があるが、ここで出土したものは途中で切れている。果実にはしわがあり褐色でやや柔らかい。水域から少しあがった斜面林などに多い。

トチノキ：幼果は楕円形で3枚果皮のある構造、上端は少しへこんで尖った突起がある。果皮片は熟した果実が3つに割れたものの一部である。種子は楕円球形で下半部が広いへそで褐色でざらつき、上半部は黒色で光沢があり、拡大すると指紋のような細かいしわ模様がある。沢、河川沿いに多く生育し、種子は灰汁抜きをして食用とする。

ミツバウツギ：種子は水滴型の細いほうを切って曲げた形で、黄褐色、強い光沢があり、堅くやや薄い。

ブドウ属：種子は心形で腹面には2つの穴、背面には1本の匙状の溝がある。

ノブドウ：種子は楕円球形で上端がやや突出し、腹面に2つの穴、背面には先端の太い帯が中央にある。つる植物である。

## 2. 元総社寺田遺跡VI区低地出土の大型植物化石

クマヤナギ属：内果皮は楕円形、扁平で楕円の長軸方向中央に筋があり、下端は三角に裂けている。林の中に生育する低木である。

ミズキ：内果皮は楕円球形で褐色でやや堅く上端はやや尖り、下端は裂けたような穴がある。上下に深くやや不規則な溝がある。水域付近に多く生育する。

クマノミズキ：内果皮は球形で平滑、やや堅く褐色で光沢はない。縦に8本ほど浅く細い筋があり、そのうち2本はやや深くやや太い。河川や湖沼沿いに多い。

エゴノキ：内果皮は卵形で下端に切れたようなへそがあり、3本の溝があり、不明瞭な稜がある。表面はでこぼこしているものが多く、やや細かい網目がありざらついた感じである。

ハクウンボク：内果皮はエゴノキより大きく張った感じで、明瞭な3本の稜と溝があり、表面は大変細かい網目のため、鈍い光沢がある。

### 〔草本〕

イネ：炭化穎果は楕円形で片面縦に2本の稜があり、表面には瓦状の規則的な網目模様がある。焼け膨れているが、穎が残っており、保存がよい。

オオムギ：炭化穎果は下端が尖った長い楕円形で楕円形の穴と、縦に一本の溝がある。

コムギ：炭化穎果は短い円筒形で一側に溝があり、下端に少し軸が付いていることが多い。食用として栽培されるものだけである。

カナムグラ：種子は黒色から暗褐色のやや偏した円形で2面形、一端がやや突出し、もう一端に心形の白いへそがある。果皮は淡褐色で薄く柔らかく果実と種子の大きさはほとんど変わらない。

マメ科：炭化種子は楕円形で焼けただけ、半分の状態であるため種類や属の特定はできない。比較的厚みがないため、栽培種ではない可能性がある。

ミゾソバ：果実は三稜形だが柔らかい膜状で、たいがいつぶれた状態で出土する。褐色で光沢はない。用水路や湿地の水辺など水域周囲に生育する。

アカネ科：種子は楕円球形でやや堅く黒色、表面

には細かいがはっきりとした網目が全面にあり、球側面の一端に深い穴状のへそがある。

ヒョウタン：種子の完形は扁平な水滴型で上端はやや平ら、下端はやや尖り、横両端に小さい突起があることが多い。縦には2本の帯がある。果実の破片に種子が付着しているものはヒョウタンとしたが、果実破片だけのものはヒョウタンのほかのユウガオなどと区別ができないため、ヒョウタン仲間としてある。

キュウリ属メロン仲間：種子は扁平な細い水滴型で表面は平滑、黄褐色でやや堅い。ここで出土した種子は下端、上端ともに丸みが強く、長さ7から8mmサイズがほとんどで、いわゆるシロウリ、マクワウリタイプと考えられる。

ゴキツル：種子は板を楕円形にくりぬいて2枚重ねた形、褐色で表面はごつごつした小突起があり、ややしわの入ったほうが下端である。

ナス属：種子は円形で扁平、黄褐色で全面に明瞭な網目がある。

イヌコウジュ属：果実は偏球形で下端が厚みがうすくなりやや尖る。全面に多角形の網目がある。網目の中央がややへこんだようになるものが多い。

不明A：縦に長い円錐形で不明瞭な溝がある。

不明果皮：うすく筋が入って果皮のようであるが、不明である。



# 遺物観察表

図 No	器種	残存部位	口径×底径×高さcm	器形・成形・整形の特徴・その他	①焼成②色調③胎土
32-1	弥生後期甕	完形	13.5×6.0×13.0	口縁部横ナデ。頸部等間隔止簾状文、波状文。胴部ヘラナデ。	①良②にぶい橙③砂粒含
32-2	弥生後期壺	口縁部	口径16.0	外面 口縁部ヘラナデ、頸部等間隔止簾状文2段。内面 ヘラナデ、ナデ。	①良②浅黄橙③砂粒多
32-3	弥生後期壺	頸部		頸部に矢羽状沈線。肩部・内面ナデ。	①良②明褐灰③砂粒多
32-4	弥生後期壺	口縁部	口径18.0	口縁部ハの字に開く。外面 ヘラナデ。内面 ナデ。	①良②橙③細砂粒多
32-5	弥生後期壺	破片		外面 簾状文、波状文。鋸歯文内側に斜方向の線文が入る。	①良②灰白③細粒多
32-6	敲石			430g。側面に磨面あり。	粗粒安山岩
33-1	弥生後期甕	口頸部1/4	口径(12.0)	口唇部に瘤状の貼付。頸部以下に櫛描き波状文を施文。	①並②灰褐③細砂多
33-2	磨製石鏃			0.6g	黒色頁岩
33-3	砥石	周辺部欠		長方形の小形砥石、断面紡錘形。	砂岩
34-1	弥生後期甕	胴部片		頸部に簾状文、胴部に波状文を施文。	①良②灰褐③細砂多
34-2	弥生後期壺	底部残存	—×8.0×—	外面ヘラ調整。内面ナデ。	①良②明褐灰③砂粒含
34-3	弥生後期壺	底部3/4残存	—×6.6×—	外面ヘラ調整。内面ナデ。	①良②明褐灰③砂粒含
35-1	弥生中期甕	口縁部片		波状口縁、L R充填の縄文帯で文様を構成。	①良②黒褐③細砂少
35-2	弥生中期甕	胴部片		鋸歯状縄文帯で文様構成。沈線内の縄文はL R。	①良②黄褐～黒褐③砂粒多
35-3	弥生中期甕	胴部片		667-1と同個体。	
35-4	弥生中期甕	胴部片		667-1と同個体。	
35-5	石鏃			880g	粗粒安山岩
35-6	弥生後期高坏	脚部片		外面赤彩。内面ハケ調整。黒色化。	①良②灰黄褐③細砂多
35-7	弥生後期壺	肩部片		肩部に沈線による連続鋸歯文を施す。	①良②灰黄褐③細砂多
35-8	弥生後期壺	口縁部片	口径(25.2)	口唇部鋸歯状。頸部に簾状文。口縁内面ヘラミガキ。	①良②浅黄③砂粒少
35-9	弥生後期壺	肩部片		肩部にボタン状付文と沈線による鋸歯文を施す。	①良②黄褐③砂粒多
35-10	弥生後期甕	口縁部片		折り返し口縁、口縁部に波状文を施文。	①良②黄褐③砂粒多
35-11	弥生後期高坏	破片	口径28.2	内外面全面ミガキ。内面黒色。	①良②暗褐③砂粒含
35-12	弥生後期鉢	1/4	(17.3)×(7.7)×8.4	内外面ヘラミガキ後、全面赤彩。	①良②明赤③砂粒多
37-1	S字状口縁台付甕	脚部残存	底径9.0	脚弱く内湾し端部内側に折り返す。外面 刷毛目。下部ナデ。内面 指頭によるナデ。	①良②にぶい橙③砂粒含
37-2	土師器高坏	ほぼ完形	15.4×12.0×16.2	口縁部横ナデ。脚部ヘラミガキ。裾部ヘラナデ。脚部内面にヘラ痕残る。	①良②にぶい橙③砂粒含
37-3	土師器高坏	脚部残存	底径12.2	裾部大きくほぼ平らに開く。外面 ヘラミガキ。裾部ナデ。内面 指頭シボリ。裾部ナデ。	①良②橙③粗砂粒含
37-4	土師器高坏	脚部残存	底径12.0	外面 上部ヘラナデ、以下ナデ。裾部横ナデ。	①良②にぶい橙③砂粒多
48-1	土師器小型埴	ほぼ完形	12.5× ×5.5	外面 口縁部横ナデ、体部ヘラナデ。内面 口縁部横ナデ。体部ヘラナデ。	①良②にぶい黄橙③砂粒含
48-2	土師器小型土器	完形	11.0×2.5×7.2	内外面 ヘラナデ後、研磨。	
48-3	土師器壺	胴部残存		内外面 ヘラ調整。ヘラナデ。	①良②灰黄③砂粒含
48-4	土師器高坏	脚部		ていねいなヘラナデ。内面指ナデ。	①良②褐色③砂粒多
48-5	土師器器台	脚部		ハケ調整。ナデ。内面指ナデ。	①良②にぶい褐③砂粒多
48-6	土師器甕	完形	11.7×5.4×18.3	外面 口縁～肩部ヘラミガキ。胴部ヘラナデ。内面 口縁部ミガキ・ナデ。胴部ナデ。	①良②灰褐③砂粒含
48-7	土師器台付甕	胴下半1/4		外面 ハケ目。内面 ナデ。	①良②黒褐③砂粒少
48-8	土師器台付甕	胴下半～脚部片		外面 ハケ目。内面 ナデ。	①良②褐灰③砂粒少
48-9	土師器台付甕	脚部破片	底径9.0	外面 刷毛目。内面 ナデ。S字状口縁台付甕	①良②黄褐③砂粒含
48-10	S字状口縁台付甕	脚部残存	底径9.3	外面 胴部刷毛目。脚部上部刷毛目下部ナデ。内面 ヘラナデ調整。脚端部折り返し。	①良②褐灰③砂粒含
48-11	甕	肩部片		肩部波状文に斜向沈線を施す。内面ナデ。	①良②灰白③細砂多

## 遺物観察表

図 No	器種	残存部位	口径×底径×高さcm	器形・成形・整形の特徴・その他	①焼成②色調③胎土
48-12~18	ビーズ玉(7点)				青色ガラス
48-19	勾玉		3.5 g		蛇紋岩
48-20	勾玉		4.2 g		蛇紋岩
49-1	土師器 坏	残存	14.5× ー × 5.5	内斜口縁。内外面横ナデ。外面 体部ヘラナデ。内面 ナデ後放射状研磨	
49-2	土師器 土師器台	ほぼ完形	7.3× 9.3× 8.8	外面 ヘラ調整、ヘラナデ。内面 器受部ナデ後ミガ キ。脚中位指頭しぼり。スソ部ヘラナデ	①良②にぶい橙③砂粒含
49-3	土師器 高 坏	破片	口径 21.0	外面 口縁部横ナデ。下部ヘラナデ後縦方向のヘラ研 磨。内面 口縁部横ナデ。下部ヘラナデ後縦方向のヘ ラ研磨。	①良②にぶい赤褐③砂粒含
49-4	土師器 高 坏	ほぼ完形	20.5×14.8×17.5	外面 坏部ヘラナデ後研磨。脚部ヘラ研磨。スソ部横 ナデ。内面 坏部ヘラナデ後ヘラ研磨。脚部ヘラ先調 整、ヘラナデ。	①良②橙③砂粒含
49-5	土師器 高 坏	脚部残存	底部径 14.6	外面 ヘラによる研磨状調整。内面 指頭しぼり。ス ソ部横ナデ。	①良②赤灰③砂粒含
49-6	土師器 高 坏	脚部残存	底径 10.3	外面 ヘラナデ後ヘラケンマ。内面 ヘラしぼり。裾 部横ナデ。	①良②赤褐③砂粒少
49-7	土師器 高 坏	残存	17.7×14.0×18.0	外面 口縁部横ナデ。坏下部ヘラナデ。脚部ヘラナデ。 ヘラ調整。内面 坏部ヘラナデ。脚部指頭しぼり。下 部ヘラナデ。	①良②橙③砂粒含
49-8	土師器 長頸埴	完形	9.3× ー × 9.4	外面 口縁部横ナデ。体部ヘラナデ。内面 口縁部横 ナデ。下部ヘラナデ。	①良②浅黄③砂粒含
49-9	土師器 長頸埴	完形	9.3× 2.8× 9.4	外面 口縁部ヘラナデ後数条の縦方向研磨。体部細ま かいヘラナデ。内面 ヘラ調整。ナデ。	①良②にぶい橙③砂粒含
49-10	土師器 小型埴	残存	11.7×ー × 7.1	外面 口縁部横ナデ後縦方向の研磨。体部ヘラナデ。 内面 口縁部、体部ヘラナデ。	①良②灰③砂粒含
49-11	土師器 壺	完形	11.2× 3.2×17.6	外面 口縁部ミガキ。胴部ヘラナデ後ミガキ。内面 口 縁部ミガキ。胴部ヘラ調整。	①良②にぶい橙③砂粒含
49-12	石製模造品			剣型、13.1 g	滑石質蛇紋岩
49-13	土師器 壺	破片	口径 11.8	口縁部内湾する。外面 口~胴部ヘラミガキ状ナデ。 内面 口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ	①良②にぶい橙③砂粒含
49-14	土師器 甕	破片	口径 12.5	口縁部内外面横ナデ。頸部の貼付痕残る。胴部内外面 ヘラナデ。ヘラ調整。	①良②暗赤灰③砂粒含
50-1	土師器 甕	残存	16.7× 8.0×23.1	外面 口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。ヘラ調整。 内面 口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ	①良②にぶい橙③砂粒含
50-2	土師器 甕	破片	口径 14.0	外面 口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。内面 口縁部横 ナデ。胴部ヘラナデ	①良②にぶい赤褐③砂粒含
50-3	土師器 壺	残存	口径 13.7	外面 口~胴部刷毛目。内面 口縁部刷毛目。胴部ヘ ラ調整。ヘラナデ。	①良②にぶい橙③砂粒含
50-4	S字状口縁 台付甕	破片	口径 16.0	外面 口縁部横ナデ。胴部縦方向の刷毛目後、横刷毛。 内面 口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	①良②明赤灰③砂粒少
50-5	S字状口縁 台付甕	破片	口径 15.0	外面 口縁部横ナデ。胴部刷毛目。内面 口縁部横ナ デ。頸部刷毛目。胴部ナデ。	①良②浅黄③砂粒少
50-6	S字状口縁 台付甕	脚欠損	口径 16.4	口縁部やや立ちぎみヨコナデ。胴部刷毛目。肩部は横 刷毛。内面 頸部刷毛目。胴部ナデ。	①良好②灰黄③砂粒含
50-7	台石				粗粒安山岩
53-1	土師器 壺	口頸部	口径 (15.1)	頸部に隆帯めぐる。口縁部内外面ヘラミガキ。	①並②褐灰③粗砂粒多
53-2	S字状口縁 台付甕	残存	10.8× 7.8×18.9	外面 口縁部横ナデ。胴部刷毛目。内面 口縁部横ナ デ。胴部ナデ。指ナデ。	①良②灰褐③砂粒含
53-3	S字状口縁 台付甕	破片	口径 11.5	外面 口縁部横ナデ。胴部刷毛目。内面 口縁部横ナ デ。胴部ナデ。	①良②にぶい橙③砂粒含
53-4	S字状口縁 台付甕	破片	口径 13.4	外面 口縁部横ナデ。胴部刷毛目。胴部刷毛。内面 口 縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。指ナデ。	①良②灰褐③砂粒含
53-5	S字状口縁 台付甕	破片	口径 15.4	外面 口縁部横ナデ。胴部刷毛目。頭部ヘラ先状の固 定。内面 口縁部横ナデ。胴部ナデ。	①良②褐灰③砂粒含
53-6	S字状口縁 台付甕	破片	口径 15.3	外面 口縁部横ナデ。胴部刷毛目。内面 口縁部横ナ デ。胴部ナデ。指ナデ。	①良②にぶい橙③砂粒含
53-7	S字状口縁 台付甕	破片	口径 17.4	外面 口縁部横ナデ。胴部刷毛目。内面 口縁部横ナ デ。端面面取。胴部ナデ。ヘラナデ。	①良②褐灰③砂粒含
53-8	S字状口縁 台付甕	破片	口径 13.3	外面 口縁部横ナデ。胴部刷毛目。内面 口縁部横ナ デ。胴部ヘラナデ。ナデ。	①良②灰褐③砂粒含
53-9	土師器壺	破片	8.0× 3.6× 7.5	口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	①良②灰褐③砂粒含

遺物観察表

図 No.	器種	残存部位	口径×底径×高さcm	器形・成形・整形の特徴・その他	①焼成②色調③胎土
53-10	土師器 高 坏	脚部残存	底径 10.3	外面 ミガキ。スソ部横ナデ後ミガキ。内面 上部指頭状しぼり。下部ヘラナデ。スソ部横ナデ。	①良②明橙③砂粒含
53-11	土師器 甗	完形	14.8× 4.5× 9.6	内外面ヘラナデ。底部円孔。	①良②にぶい橙③砂粒含
56-1	須恵器 坏	破片	11.6× ー× 3.6	轆轤成形。口縁部弱く内湾して外傾する。底部回転糸切。	①良②灰③細砂粒含
56-2	須恵器 坏	破片	14.6× ー× 7.0	轆轤成形。底部回転ヘラ切。中央部に凸部。口縁部直線状に外傾する。	①良②灰③白色粒含
56-3	須恵器 坏	破片	(14.6)×(10.0)×7.0	轆轤成形。腰部削出し高台。底部回転ヘラ削り。外面～底部に自然釉付着。	①良②赤灰③白色粒多
56-4	須恵器 坏	底部残存	底径 6.3	轆轤成形。底部回転糸切。	①良②灰③細砂粒含
56-5	灰釉陶器 碗	口縁部破片	口径 12.0	轆轤成形。口縁部内湾して外傾する。内面残存部全面、外面口縁部に施釉。	①良②灰白③密
56-6	灰釉陶器 碗	底部破片	底径 7.0	轆轤成形。底部回転調整。付高台内面薄く下方へ向く。内面底部、外面一部施釉。	①良②灰白③密
56-7	灰釉陶器 段皿	破片	13.0× 6.6× 2.6	轆轤成形。付高台。高台三ヶ月状を呈す。内面に段をもつ。内面上段、外面底部付近まで施釉。	①良②灰白③密
56-8	灰釉陶器 皿	破片	12.0× 5.4× 2.0	轆轤成形。底部回転調整。付高台低く、内面やや弧を描く。内外面口縁部に施釉。	①良②灰白③密
56-9	灰釉陶器 皿	破片	12.8× 5.8× 2.0	轆轤成形。付高台、内面わずかに弧を描く。外面口縁部、内面底部付近まで施釉。	①良②灰白③密
56-10	須恵器 椀	底部 <sup>3/4</sup> 残存	底径 9.6	轆轤成形。底部回転糸切。付高台やや足高。ハの字状に外方へ開く。	①良②にぶい橙③細砂粒含
56-11	灰釉陶器瓶	破片		施釉は省略。	①良②灰白③細砂粒含
56-12	須恵器 壺	口縁部破片	口径 21.6	轆轤成形。口縁部内湾をもち下方へ下がる。口縁部外反する。外面叩き。内面あて目。	①良②灰③白色粒含
56-13	軒瓦	破片		唐草文。	①良②灰③白・黒色粒含
56-14	平瓦	破片		凹面布目。凸面文字刻印の叩き。	①並②くすんだ橙③細砂少
59-1	置きカマド			破片焼き口庇の破片。外面・前面ナデ調整。内面指痕残る。	①良②にぶい橙③細砂少
59-2	丸瓦	破片		端面面取 1面。表面 ナデ。裏面 布目。	①良②にぶい赤灰③白色粒多
59-3	瓦	破片		側面面取 1面。片面 縄目。逆面 布目。	①良②灰③黒色粒多
59-4	瓦	破片		側面面取 1面。片面 布目。逆面 ナデ。	①良②赤灰③砂粒含
59-5	須恵器 円面硯	硯部 <sup>1/2</sup> 残存	口径 16.0	円形周辺に約 1.5 cm の凹みが巡る。脚部にはヘラ状工具による透しが巡る。	①良②灰③砂粒含
59-6	須恵器 盤	破片	口径 27.0	轆轤成形。付高台。腰部に沈線。	①良②灰白③砂粒含
59-7	須恵器 蓋	<sup>1/3</sup> 残存	口径 13.8	轆轤成形。環状つまみ。内面返りをもつ。外面ヘラナデ調整。	①良②灰③砂粒含
59-8	須恵器 蓋	破片	口径 18.0	轆轤成形。外面回転ヘラ調整。端部下方へ屈曲する。黒色斑点多い。	①良②灰③細砂粒含
59-9	須恵器 蓋	破片	口径 15.5	轆轤成形。外面回転ヘラ調整。内面返り短く下方を向く。	①良②灰③黒色粒多含
59-10	須恵器 蓋	破片	口径 16.7	轆轤成形。外面回転ヘラ調整。内面返り短く下方を向く。	①良②灰白③細砂粒含
59-11	須恵器 椀	底部残存	底径 9.6	轆轤成形。底部回転調整。付高台。高台の接合部平坦に明瞭に残る。	①良②にぶい橙③砂粒含
59-12	羽口	破片		外面 焼成授け黒色。	①良②浅黄橙③細砂粒含
60-1	土師器 坏	破片	14.2× ー× 4.7	外面 口縁部横ナデ。体部ヘラケズリ。内面 ナデ後放状研磨。内斜口縁。	①良②橙③細砂粒含
60-2	土師器 坏	破片	14.0× ー× 5.8	外面 口縁部横ナデ。体部ヘラケズリ。内面 ナデ後放状研磨。	①良②橙③細砂粒含
60-3	土師器 坏	ほぼ完形	11.0× ー× 3.6	外面 口縁部横ナデ。体部ヘラケズリ。内面 ナデ。	①良②橙③細砂粒含
60-4	土師器 坏	完形	10.4× 5.0× 5.3	轆轤成形。内外面ヘラナデ。	①良②灰黄③砂粒含
60-5	土師器 鉢	破片	12.0× ー× 7.1	外面 口縁部横ナデ。体部ヘラナデ。内面 口縁部横ナデ。体部ナデ後ヘラ研磨。	①良②橙③細砂粒含
60-6	土師器 高 坏	脚破片		外面 ヘラナデ調整。内面 坏部ヘラナデ調整。脚部ヘラによるしぼり。スソ部ヘラナデ。	①良②にぶい橙③砂粒含
60-7	土師器 台付甕	脚部残存	底径 10.0	外面 ヘラナデ。内面胴下ヘラ先痕。脚内面 ヘラ先痕残る。	①良②にぶい橙③砂粒含
60-8	土師器 台付甕	脚部残存	底径 10.0	外面 胴部ヘラナデ。脚部ヘラナデ。スソ部横ナデ。内面 胴部ナデ。脚横ナデ。	①良②にぶい橙③砂粒含

## 遺物観察表

図 No.	器種	残存部位	口径×底径×高さcm	器形・成形・整形の特徴・その他	①焼成②色調③胎土
60-9	須恵器高坏	坏部1/4	口径(10.0)	轆轤成形。脚部に透し。内面に自然釉かかる。	①良②灰③砂粒微
60-10	土師器壺	完形	9.0× ー×16.6	外面 口縁部～胴上部ミガキ。胴下部ヘラケズリ。ヘラナデ調整。	①良②赤褐③砂粒含
60-11	土師器甕	破片	口径 17.8	外面 口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。内面 口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	①良②灰褐③砂粒含
60-12	土師器坏	破片	口径(10.6)	外面 ヘラナデ。口縁横ナデ。内面 横ナデ後、縦位の等間隔暗文施す。口唇直下に細沈線めぐる。畿内産。	①あまい②にぶい黄褐③緻密な橙白色シルト
60-13	須恵器坏	1/4	(15.5)×(10.0)×(4.0)	轆轤成形。底部回転ヘラ削り。	①並②灰黄褐③砂粒多
60-14	土師器坏	破片	口径 15.1	外面 口縁部横ナデ。口縁下部ナデ。体部ヘラ削り。内面 ナデ。	①良②橙③細砂粒含
60-15	土師器坏	破片	口径 11.1	外面 口縁部横ナデ。体部ヘラ削り。内面 ナデ。模倣坏。	①良②橙③砂粒含
60-16	須恵器	破片	口径(10.1)	轆轤成形。外面に自然釉。	①良②灰③砂粒含
60-17	須恵器蓋	1/2残存	14.6× ー× 2.8	轆轤成形。環状つまみ。内面返りをもつ。	①良②灰③砂粒含
60-18	須恵器蓋	破片		轆轤成形。擬宝珠つまみ。外面 回転ヘラ調整。	①良②灰白③砂粒含
60-19	須恵器蓋	破片		轆轤成形。環状つまみ。外面 回転ヘラ調整。	①良②灰③砂粒含
60-20	須恵器蓋	1/2残存	14.0× ー× 2.2	轆轤成形。環状つまみ。端部短く下を向く。	①良②灰③砂粒含
60-21	須恵器蓋	1/4残存	18.0× ー× 2.4	轆轤成形。環状つまみ。端部弱く下方へ延びる。	①良②灰③砂粒含
60-22	須恵器蓋	1/2残存	16.4× ー× 3.4	轆轤成形。環状つまみ。端部下方へ屈曲する。	①良②灰③砂粒含
60-23	須恵器蓋	1/2残存	12.4× ー× 2.8	轆轤成形。環状つまみ。端部下方へ延びる。	①良②灰③砂粒含
60-24	須恵器蓋	破片	口径 18.0	口縁端部下方へ延びる。	①良②灰白③細砂粒含
60-25	須恵器蓋	1/2残存		轆轤成形。環状つまみ。端部下方へ曲がる。	①良②灰白③砂粒含
60-26	須恵器蓋	完形	14.6× ー× 1.5	轆轤成形。環状つまみ。端部下方へ曲がる。	①良②灰白③砂粒含
60-27	須恵器蓋	1/2残存	17.0× ー× 3.1	口縁端部下方へ屈曲する。上段に鐙のように一周する。内外面部分的に漆付着する。	①良②灰白③細砂粒含
61-1	須恵器坏	1/2残存	13.0× 8.0× 3.4	轆轤成形。底部回転ヘラ削り。	①良②灰③砂粒含
61-2	須恵器坏	破片	12.0× 7.2× 3.3	轆轤成形。底部回転ヘラ削り。	①良②灰③砂粒含
61-3	須恵器坏	底部片	底径(9.9)	轆轤成形右廻り。腰部削出し高台。底部回転ヘラ削り。	①良②灰③白色粒微
61-4	須恵器坏	破片	底径(9.7)	轆轤成形右廻り。腰部削出し高台。底部回転ヘラ削り。	①良②赤灰③白色粒多
61-5	須恵器椀	底部1/2	底径(10.8)	轆轤成形右廻り。底部回転ヘラ削り。付高台横ナデ。	①並②灰白③細砂少
61-6	須恵器椀	底部片	底径(9.6)	轆轤成形右廻り。底部回転糸切り。付高台横ナデ。	①並②灰白③砂粒少
61-7	須恵器椀	破片	底径 8.0	轆轤成形。付高台。	①良②灰③砂粒含
61-8	須恵器坏	1/4残存	12.8× 9.0× 3.1	轆轤成形。底部一部腰部回転ヘラ調整。	①良②灰③砂粒含
61-9	須恵器坏	1/2残存	12.6× 9.2× 3.1	轆轤成形。底部一部腰部回転ヘラ調整。	①良②灰③細砂粒含
61-10	須恵器坏	1/2残存	12.4× 7.6× 2.9	轆轤成形。底部回転ヘラ削り。	①良②灰③砂粒含
61-11	須恵器坏	底部破片	底径 8.5	轆轤成形。底部回転ヘラ削り。	①良②灰③細砂粒含
61-12	須恵器坏	底部破片	底径 9.4	轆轤成形。底部回転ヘラ削り。	①良②灰③砂粒含
61-13	須恵器坏	完形	14.0× 8.6× 3.5	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰③砂粒含
61-14	須恵器坏	破片	口径 12.6	轆轤成形。底部回転糸切。	①良②灰③砂粒含
61-15	須恵器坏	完形	13.5× 7.4× 3.0	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰③砂粒含
61-16	須恵器坏	1/2残存	12.6× 6.4× 3.6	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰③小石含
61-17	須恵器坏	完形	12.7× 7.5× 3.5	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰③砂粒含
61-18	須恵器坏	完形	13.0× 6.0× 4.2	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰③砂粒含
61-19	須恵器坏	1/2残存	13.8× 6.8× 4.2	轆轤成形。底部回転糸切。	①良②灰褐③砂粒含
61-20	須恵器坏	破片		轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰③砂粒含
62-1	須恵器坏	完形	13.2× 6.6× 4.8	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰③砂粒含
62-2	須恵器坏	底部残存	底径 7.4	轆轤成形。底部回転糸切。	①良②灰③砂粒含
62-3	須恵器椀	完形	14.8× 6.4× 5.3	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。	①良②灰③砂粒含
62-4	須恵器椀	底部残存	底径 10.0	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。	①良②黒褐③砂粒含
62-5	須恵器椀	底部破片	底径 11.2	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。付高台。	①良②灰白③砂粒含
62-6	須恵器椀	底部破片	底径 7.6	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。	①良②灰③砂粒含
62-7	須恵器皿	1/2残存	12.5× 7.0× 2.3	轆轤成形。底部回転ナデ調整。付高台。	①良②灰白③砂粒含
62-8	須恵器皿	破片	口径 13.7	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。	①良②灰白③砂粒含
62-9	須恵器皿	1/4残存	13.4× 7.8× 2.7	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰白③砂粒含
62-10	須恵器椀	底部残存	底径 8.4	轆轤成形。底部回転ナデ調整。付高台。	①良②灰褐③砂粒含
62-11	須恵器椀	底部残存	底径 9.2	轆轤成形。底部回転ヘラ削り。付高台。	①良②灰白③砂粒含
62-12	須恵器椀	底部破片	底径 7.2	轆轤成形。内面吸炭黒色。付高台。底部回転調整。焼成後×印の繩刻。	①良②褐灰③砂粒含
62-13	須恵器椀	底部残存	底径 8.1	轆轤成形。底部回転ナデ調整。付高台。	①良②灰白③砂粒含

遺物観察表

図 No.	器種	残存部位	口径×底径×高さcm	器形・成形・整形の特徴・その他	①焼成②色調③胎土
62-14	須恵器 椀	底部破片	底径 8.7	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。	①良②灰③砂粒含
62-15	内黒 椀	底部残存	底径 6.2	轆轤成形。内面吸炭黒色。底部回転調整。付高台。	①良②橙③砂粒含
62-16	須恵器 椀	底部残存	底径 5.8	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。付高台。	①良②灰白③砂粒含
63-1	須恵器 皿	1/2残存	15.4×7.6×4.9	轆轤成形。底部中央に糸切痕。付高台。	①良②灰褐③砂粒含
63-2	須恵器 椀	完形	13.6×6.4×4.6	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。	①良②灰白③砂粒含
63-3	須恵器 椀	底部残存	底径 7.9	轆轤成形。底部回転調整。付高台ハの字に開く。	①良②橙③砂粒含
63-4	内黒 椀	底部残存	底径 6.9	轆轤成形。底部回転ヘラ調整。付高台。内面吸炭。	①良②橙③砂粒含
63-5	須恵器 坏	1/2残存	12.2×6.8×3.4	轆轤成形。底部手持ヘラ調整。	①良②灰③砂粒含
63-6	土器	1/2残存	9.4×4.5×2.6	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰白③砂粒含
63-7	土器	ほぼ完形	10.2×5.2×2.2	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②橙③砂粒含
63-8	土器	1/2残存	9.4×5.0×2.1	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰白③砂粒含
63-9	土器	1/2残存	9.0×6.4×2.4	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。口唇部一部にスス付着。灯明皿か？	①良②にぶい黄橙③砂粒含
63-10	土器	完形	9.2×5.0×2.3	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰黄③砂粒含
63-11	土器	完形	9.0×5.5×2.1	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰白③砂粒含
63-12	土器	1/2残存	9.0×5.0×2.0	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②橙③砂粒含
63-13	土器	1/2残存	8.0×4.0×2.0	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②にぶい褐③砂粒含
63-14	土器	ほぼ完形	9.3×6.2×1.8	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰白③砂粒含
63-15	土器	1/2残存	8.3×3.7×1.8	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②にぶい橙③砂粒含
63-16	土器	ほぼ完形	9.0×4.2×1.5	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰黄③砂粒含
63-17	土器	1/2残存	8.5×4.2×1.6	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②にぶい橙③砂粒含
63-18	土器	完形	8.6×5.8×1.8	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②橙③砂粒含
64-1	須恵器 盤	口縁部片	口径(25.5)	轆轤成形。口縁部下に陵。内面にカキ目。	①良②橙③白色粒少
64-2	須恵器 盤	1/2残存	(25.7)×(23.7)×2.0	轆轤成形。口縁部下にヘラ削り。内面にカキ目。	①良②灰白③白色粒少
64-3	須恵器 盤	破片		轆轤成形。腰部ヘラ削り。	①良②灰白③白色粒多
64-4	須恵器 盤	口縁部片	口径(26.8)	轆轤成形。口縁部に陵をもつ。外面に自然釉。	①良②暗灰③白色粒・片岩多
64-5	黒色土器A 盤	底部片		轆轤成形。付高台横ナデ。内面黒色処理。全面ミガキ。	①並②にぶい赤褐③砂粒少
64-6	須恵器 盤	口縁部片	(27.1)×(22.1)×3.2	轆轤成形。腰部削出し高台。	①良②にぶい赤褐③細砂少
64-7	須恵器 盤	口縁部片	口径(19.6)	轆轤成形。口縁部横ナデ。陵をもつ。	①良②にぶい赤褐③細砂少
64-8	須恵器高盤	脚部残存	底径 15.4	轆轤成形。	①良②灰③砂粒含
64-9	須恵器高盤	脚部		轆轤成形。外面に自然釉。内面に輪積み痕あり。	①並②灰③細砂粒多
64-10	須恵器高坏	脚部1/2残存	底径 15.8	轆轤成形。外面轆轤痕が明瞭。上端部貼り付け部から剥落。	①良②灰白③砂粒含
64-11	須恵器高坏	脚部残存		轆轤成形。外面3条の沈線巡る。	①良②灰③砂粒含
64-12	須恵器鉢	破片	(25.5)×(14.8)×9.5	轆轤成形。底部ヘラナデ調整。	①良②灰③砂粒少
64-13	須恵器壺	破片	口径(7.8)	轆轤成形。胴部下半ヘラナデ。	①並②灰③細砂微
65-1	土器	ほぼ完形	10.1× - ×1.7	内外面吸炭。全面ミガキ。底面丸底。	①良②黒③砂粒含
65-2	黒色土器B 高台付椀	底部	底径 7.7	轆轤成形。付高台。内外面とも黒色処理。全面ミガキ。	①並②黒灰③砂粒微
65-3	黒色土器A 高台付坏	ほぼ完形	8.1×4.0×3.1	轆轤成形。付高台横ナデ。内面のみミガキ。	①並②にぶい赤褐③砂粒少
65-4	黒色土器A 坏	口縁部片	口径(13.7)	轆轤成形。外面口縁部のみミガキ。内面黒色処理。全面ミガキ。	①並②灰黄褐③砂粒少
65-5	黒色土器A 坏	破片	口径(16.0)	轆轤成形。外面横ナデ。口縁部ミガキ。内面黒色処理。全面ミガキ。	①良②橙③砂粒微
65-6	内黒 坏	ほぼ完形	13.0×6.0×4.2	轆轤成形。底部回転糸切。内面黒色研磨。	①良②橙③砂粒含
65-7	黒色土器A 坏	胴下半1/2	底径 6.5	轆轤成形。底部回転糸切り。内面黒色処理。ミガキは摩耗して不明瞭。	①並②浅黄橙③砂粒多
65-8	黒色土器A 高台付椀	底部片		轆轤成形。底部回転ヘラ削り。付高台横ナデ。内面黒色処理。全面に幅広のミガキ。	①並②橙③砂粒多
65-9	黒色土器A 坏	底部片	底径 7.5	轆轤成形。底部ヘラ削り。外面ナデ。内面黒色処理。全面ミガキ。	①並②灰白③砂粒多
65-10	須恵器 蓋	1/2残存		轆轤成形。つまみ。端部欠損。内面に「大」墨書。	①良②灰③砂粒含
65-11	須恵器 蓋	1/4残存	口径 13.3	轆轤成形。擬宝珠つまみ。端部下方へ延びる。内面に「御」墨書。	①良②灰③砂粒含



## 遺物観察表

図 No.	器種	残存部位	口径×底径×高さcm	器形・成形・整形の特徴・その他	①焼成②色調③胎土
65-12	須恵器 椀か皿	破片		轆轤成形。底部回転指調整で段をもつ。底部内面に「葉」墨書。	①良②灰③砂粒含
65-13	須恵器 坏	完形	13.4× 8.2× 3.1	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。底部外面に「御」墨書。	①良②灰③砂粒含
65-14	須恵器 坏	3/4残存	12.6× 7.8× 2.9	轆轤成形。底部回転糸切。底部外面に「浄」墨書。	①良②灰③砂粒含
65-15	灰釉陶器碗	底部残存	底径 6.8	轆轤成形。底部回転ヘラ調整。付高台。内面上部一部釉。底部外面に「上四」墨書。	①良②灰白③密
66-1	緑釉陶器碗	破片	底径 9.2	轆轤成形。内外面施釉。	①良②緑灰③細砂粒含
66-2	須恵器	胴部片		轆轤成形。縦位の隆帯が付く。	①良②灰③密
66-3	灰釉陶器碗	底部片	底径 (5.8)	轆轤成形。付高台横ナデ。	①良②灰③緻密
66-4	灰釉陶器碗	底部残存	底径 7.4	轆轤成形。底部回転ヘラ調整。外面一部釉。	①良②灰白③砂粒含
66-5	灰釉陶器碗	底部残存	底径 5.4	轆轤成形。底部中央部糸切。周辺回転ヘラ調整。	①良②灰③砂粒含
66-6	灰釉陶器 皿	1/4残存	11.0× 5.8× 2.7	轆轤成形。底部回転ヘラ調整。付高台内側三日月状を呈す。内外面底部を除き施釉。	①良②灰白③細砂粒含・密
66-7	灰釉陶器碗	底部破片	底径 5.9	轆轤成形。底部回転糸切。付高台低い。	①良②灰白③細砂粒含・密
66-8	灰釉陶器碗	底部残存	底径 7.2	轆轤成形。底部中央回転糸切痕残り回転調整。	①良②灰③砂粒含
66-9	灰釉陶器 碗	底部破片	底径 6.8	轆轤成形。底部回転ヘラ調整。付高台内面やや内湾する。内外面腰部まで施釉。	①良②灰白③細砂粒含・密
66-10	灰釉陶器 碗	底部破片	底径 8.0	轆轤成形。底部回転糸切。付高台断面やや内湾する。内面底部付近まで施釉。	①良②灰白③細砂粒含・密
66-11	灰釉陶器 碗	破片	底径 6.5	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。高台貼り付け粗雑。内面底部以外施釉。	①良②灰白③細砂粒含・密
66-12	灰釉陶器碗	底部破片	底径 7.2	轆轤成形。底部回転ヘラ調整。付高台断面三日月状。	①良②灰白③細砂粒含・密
66-13	灰釉陶器碗	底部1/2	底径 8.8	轆轤成形。付高台横ナデ。高台端部摩耗。	①良②灰白③細砂粒含。密
66-14	灰釉陶器 碗	底部破片	底径 7.2	轆轤成形。底部回転糸切。付高台断面三日月状を呈す。内外面底部を除き施釉。	①良②灰白③細砂粒含・密
66-15	灰釉陶器瓶	口縁部片	口径 (20.0)	轆轤成形。内外面に施釉。	①良②灰白③白色粒少
66-16	灰釉陶器瓶	口縁部片	口径 (17.5)	轆轤成形。内外面に施釉。	①良②灰白③白色粒少
66-17	灰釉陶器瓶	破片		轆轤成形。外面全体に施釉。	①良②白灰③緻密
66-18	灰釉陶器瓶	体部上半		轆轤成形。外面全体に施釉。	①良②灰白③白色粒少
66-19	灰釉陶器瓶	破片		轆轤成形。外面全体と口縁部内面に施釉。	①良②灰白③白色粒少
66-20	灰釉陶器瓶	破片	底径 (14.0)	轆轤成形。底部高台付。外面に釉がたれる。	①良②灰白③白色粒多
66-21	灰釉陶器瓶	底部片	底径 (13.0)	轆轤成形。底部回転ヘラ削り。付高台。外面全体施釉。	①良②黄灰③白色粒多
67-1	須恵器 瓶	破片		器柱不明。轆轤成形。底部回転糸切。	①良②灰③砂粒含
67-2	須恵器壺G	底部	底径 5.5	轆轤成形。底部回転糸切り。外面～底面に自然釉。	①良②暗緑灰③砂粒多
67-3	須恵器 壺	体部	底径 5.7	轆轤成形。底部回転糸切り。腰部にナデ調整。	①並②にぶい黄橙③砂粒少
67-4	須恵器 瓶	胴下半1/2	底径 (6.2)	轆轤成形。底部回転糸切り。底面に黒色物付着。	①並②灰③砂粒多
67-5	須恵器 壺	胴部破片	底径 5.7	内外面底部ナデ。内面漆付着。貯蔵器?	①良②灰白③砂粒含
67-6	須恵器 壺	胴一部残存	底径 7.4	轆轤成形。底部手持ヘラナデ。内面、断面に漆付着し、われた後器として利用の可能性がある。	①良②灰③砂粒含
67-7	須恵器 壺	胴一部残存		両耳壺であろう。轆轤成形。外面に自然釉かかる。	①良②灰③白色粒多
67-8	須恵器 壺	胴下半1/2	底径 (15.0)	轆轤成形。底部回転ヘラ削り。付高台横ナデ。	①並②褐灰③砂粒多
67-9	須恵器 壺	胴下半1/2		轆轤成形右廻り。底部回転ヘラ削り。付高台。	①並②褐灰③細砂多
67-10	須恵器 壺	底部片		轆轤成形。付高台横ナデ。外面～底面に自然釉。	①良②褐灰③細砂多
67-11	土師器 壺	口縁部残存	口径 16.4	外面 口縁部横ナデ。内面 口縁部横ナデ。下部ヘラナデ。	①良②にぶい橙③砂粒含
67-12	須恵器 甕	破片	口径 25.2	轆轤成形。内面胴部指ナデ。指頭痕。	①良②灰白③砂粒含
67-13	須恵器 甕	破片	口径 26.3	轆轤成形。胴部外面叩き目。内面アテ目。	①良②灰③砂粒含
68-1	羽 釜	破片	口径 22.6	轆轤成形。鈎断面三角形。	①良②にぶい橙③砂粒含
68-2	羽 釜	破片	口径 22.0	鈎端部に平坦面をもつ。胴部ヘラ削り。	①良②灰褐③砂粒含
68-3	羽 釜	破片	口径 21.7	鈎下方へ延び、鈎下ヘラ削り。縦、横方向。	①良②明褐灰③砂粒多
68-4	羽 釜	口縁部片		口縁部下に半円状の把手が付く。内外面横ナデ。	①良②にぶい橙③砂粒多
68-5	須恵器 甕	破片		口縁外傾く。	①良②灰褐③砂粒含
68-6	須恵器 脚付甕	破片		内外面ナデ調整。質感は羽釜と一致。	①良②赤褐③砂粒多

遺物観察表

図 No	器種	残存部位	口径×底径×高さcm	器形・成形・整形の特徴・その他	①焼成②色調③胎土
68-7	紡錘車			14.8 g	蛇紋岩
68-8	紡錘車			土器片転用、24.8 g	
68-9	紡錘車		径 6.3	須恵器底部転用、中心孔径 1.2 cm。	①良②橙③砂粒含
68-10	転用紡錘車	完形	径 7.2	須恵器高台付腕の底部を転用。	
68-11	転用紡錘車	破片		須恵器底部を紡錘車に転用、中心に円孔。	①良②灰③砂粒含
68-12	転用土製品	完形	径 5.0	須恵器フタのつまみ部を研磨して作成、紡錘車未製品か。	
68-13	転用土製品	完形	径 6.0	須恵器甕の胴部片を調整して作成、紡錘車未製品か。	
69-1	須恵器 風字硯	破片		先端部平坦に調整。四角状の脚 1。点線内硯面。	①良②灰③砂粒含
69-2	須恵器 円面硯	破片		側面に筆立て用の穴出部が付く。	①良②灰③細砂粒含
69-3	灰釉陶器 碗	破片	底径 7.2	轆轤成形。底部回転糸切。付高台断面三日月を呈す。底部上内外面施釉。	①良②灰白③細砂粒含・密
69-4	灰釉陶器 碗	破片	底径 9.2	轆轤成形。底部回転ヘラ調整。内側を転用硯として使用し、赤色化している。	①良②灰③密
69-5	転用硯	破片		須恵器甕胴部の転用。内面側を使用。	①良②灰③砂粒含
69-6	転用硯	ほぼ完形		内外面に叩き目をもつ。須恵器甕の胴部を使用。	
69-7	置きカマド	破片		焚き口上部の破片。指ナデやおさえの痕を残す。	①良②にふい褐③砂粒多
70-1	軒丸瓦	瓦当部片		瓦当文様は間弁付蓮華文。裏面は布目。	①並②白灰③細砂少
70-2	軒平瓦	瓦当部片		瓦当文様は唐草文。自然釉かかる。	①並②黒灰③粗砂多
70-3	丸瓦	破片		凸面ナデ。凹面布目。薄手の作り。	①並②黄白③粗砂多
70-4	軒丸瓦	破片		瓦当部欠損。凹面布目痕。	①良②灰③砂粒少
70-5	丸瓦	後端部		凸面ナデ。凹面布目。	①良②灰③砂粒少
70-6	軒平瓦	破片		瓦当文様は三重弧文。	①良②灰③砂粒多
71-1	丸瓦	破片		側面取り 1 面。凸面に線刻。文字か。凹面布目。	①良②灰③砂粒多
71-2	丸瓦	前端部		側面取り 2 面。凸面ナデ。凹面布目。	①良②灰③粗砂多
71-3	平瓦	端部		凹面布目ナデ消し。凸面斜格子目叩き。ナデ消し。	①良②灰③細砂少
71-4	平瓦	端部片		凹面布目。凸面縄目叩き。斜格子目叩き。	①良②灰③細砂少
72-1	平瓦	破片		側面取り 1 面。凹面布目。凸面ナデ。自然釉かかる。	①良②灰③細砂少
72-2	平瓦	破片		凹面ナデ。凸面斜格子目叩き。	①良②灰③細砂少
72-3	丸瓦	破片		凸面に線刻。文字か。凹面布目。	①良②灰③細砂少
72-4	平瓦	端部片		凹面布目。凸面に線刻あり。「六」か。	①良②灰③細砂少
72-5	丸瓦	端部片		側面取り。1 面、凹面布目。凸面ナデ。自然釉かかる。	①良②灰③細砂少
72-6	平瓦	破片		凹面布目ナデ消し。凸面斜格子目叩き。	①並②灰白③細砂少
72-7	平瓦	破片		側面取り 1 面。凹面布目。凹面縄目叩き。	①並②灰白③砂粒少
72-8	平瓦	破片		凹面布目。凸面文字刻印の叩き。	①並②くすんだ橙③細砂少
73-1	平瓦	前端部		側面取り 2 面。凹面布目。凸面ナデ。自然釉かかる。	①並②くすんだ橙③細砂少
73-2	平瓦	破片		側面取り 1 面。凹面布目。凸面縄目叩き。自然釉。	①並②くすんだ橙③細砂少
73-3	平瓦	破片		側面取り 1 面。凹面布目。凸面縄目叩き。自然釉。	①並②くすんだ橙③細砂少
73-4	平瓦	破片		凹面布目。凸面縄目叩き。	①良②灰白③細砂少
73-5	平瓦	破片		凹面布目にハケ目のナデ。凸面斜格子目叩き。	①良②灰白③細砂少
73-6	平瓦	破片		凹面ナデ。凸面斜格子目叩き。	①良②黒灰③細砂少
74-1	石製模造品	欠		剣型、6.2 g。	蛇紋岩
74-2	基石	完		1.5 g。	石灰岩
74-3	基石	完		4.6 g。	石英
74-4	砥石	欠		31 g。	砥沢石
74-5	砥石	欠		34 g。	流紋岩
74-6	砥石	完		133 g	流紋岩
74-7	石錘	完		821 g。	粗粒安山岩
74-8	石製品	完		円形のくぼみあり。	粗粒安山岩
75-1	土師器 高坏	脚部残存	底径 12.4	外面 脚部ミガキ。スソ上部ミガキ。端部横ナデ。内面 脚部ヘラ調整。スソ部横ナデ。	①良②赤橙③砂粒含
75-2	土師器 坏	1/5残存	13.0× —×5.0	外面 口縁部横ナデ。体部ヘラケズリ後ナデ。内面 ナデ。模倣坏。	①良②橙③細砂粒含

## 遺物観察表

図 No	器種	残存部位	口径×底径×高さcm	器形・成形・整形の特徴・その他	①焼成②色調③胎土
75-3	須恵器 坏	破片	12.2×7.8×4.2	轆轤成形。底部回転糸切。	①良②灰③砂粒含
75-4	須恵器 椀	1/4残存	14.7×8.2×7.2	轆轤成形。底部回転調整。付高台。ハの字に開く。口縁長く立ちぎみ。	①良②灰白③細砂粒含・密
75-5	須恵器高盤	破片		轆轤成形。外面に自然釉かかる。	①良②灰③白色粒多
75-6	須恵器 蓋	破片		轆轤成形。環状つまみ。外面回転ヘラ調整。	①良②灰③白色粒含
75-7	須恵器 蓋	破片	口径 19.2	轆轤成形。外面回転ヘラ調整。つまみ中央部がもち上がる。端部やや外側へ屈曲する。	①良②灰③白色粒含
75-8	須恵器 椀	底部破片	底径 12.5	轆轤成形。底部外面「當」墨書。高台薄く高い。ハの字に開く。内面に赤色顔料付着。	①良②灰白③細砂粒含
75-9	須恵器 鉢	口～底部 1/4残存	27.4×10.8×10.8	轆轤成形。口縁端部薄く内側へ弱く内傾する。付高台。下方を向く。	①良②灰③白色粒含
75-10	須恵器 坏	1/4残存	13.6×7.0×3.5	轆轤成形。口縁やや厚く外傾する。外面轆轤痕残る。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰白③細砂粒含
75-11	須恵器 坏	1/4残存	13.4×7.4×4.0	轆轤成形。底部回転糸切。	①良②にぶい黄橙③砂粒含
75-12	黒色土器A 椀	破片	口径(16.0)	轆轤成形。外面横ナデ。口縁部ミガキ。内面黒色処理。全面ミガキ	①並②橙③砂粒多
75-13	須恵器 椀	底部残存		轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。付高台欠落。	①良②灰③砂粒含
75-14	須恵器 椀	底部1/4残存	底径 7.0	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。高台外側へハの字に開く。内面黒色。	①良②にぶい橙③細砂粒多
76-1	須恵器 坏	破片	8.2×4.4×2.5	轆轤成形。底部回転糸切。口縁部にゆるやかに段をもつ。	①良②明褐灰③細砂粒含
76-2	須恵器 坏	破片	7.6×5.8×2.3	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②橙③砂粒含
76-3	須恵器 坏	1/4残存	9.5×5.1×2.4	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②浅黄橙③砂粒含
76-4	土器 灯明皿	口縁部1/4欠損	9.6×5.0×2.6	轆轤成形。底部ヘラ切り？。凹凸著しい。外面ヘラ痕深い。口縁端部にタール付着1ヶ所。	①良②にぶい黄橙③細砂粒含
76-5	須恵器 甕	口縁部片	口径 24.8	轆轤成形。口縁部折り返し強く外反する。	①良②灰③白色粒多・密
76-6	羽 釜	口縁部破片	口径 22.0	轆轤成形。口縁部内湾して内傾する。鏝上を向く。鏝下貼付痕残る。	①良②にぶい褐③砂粒含
76-7	灰釉陶器 皿	完形	12.8×6.4×2.5	轆轤成形。口縁端部薄く弱く外反。底部回転調整。付高台。弱く三日月状を呈す。釉つけかけ。	①良②灰③細砂粒含・密
76-8	灰釉陶器 坏	破片		轆轤成形。内面に施釉。フタの可能性もある。	①良②灰白③砂粒少
76-9	灰釉陶器 碗	底部破片	底径 7.5	轆轤成形。底部回転調整。付高台。高台内面は平坦でハの字に開く。	①良②灰白③密
76-10	丸 瓦	破片		端部。側部面取1面。凸面ナデ凹面布目模骨痕。	①良②灰③砂粒含
76-11	平 瓦	破片		端部。側部面取1面。表面布目模骨痕。裏面ナデ。	①良②灰③砂粒含
77-1	平 瓦	破片		端部。側部面取1面。表面剥取痕。裏面ナデ。	①良②灰③砂粒含
77-2	丸 瓦	破片		凹面布目。凸面文字刻印。	①並②灰③細砂多
77-3	平 瓦	端部片		凹面布目。端面までかかる。凸面縄目叩き。	①並②灰③砂粒少
77-4	平 瓦	破片		凹面布目。凸面ナデ。ヘラ記号状。	①良②灰③砂粒含
77-5	平 瓦	破片		端部・側部面取1面。伴に内側を削る。表面ナデ。裏面縄目痕。	①良②にぶい橙③砂粒含
78-1	平 瓦	端部片		凹面布目端までかかる。凸面縄目叩き。	①良②にぶい橙③砂粒含
78-2	平 瓦	破片		凹面ナデ。凸面矢羽根状格子目叩き。	①良②にぶい橙③砂粒含
78-3	平 瓦	破片		片面 布目。逆面 正格子叩き。	①良②橙③白色粒含
78-4	平 瓦	破片		片面 布目の上をヘラ先で直線状の線刻数条。逆面ナデ。	①良②灰白③砂粒含
8-5	平 瓦	破片		端部・側部面取1面。長面端部・側部に沿った部分を削り、ナデ。裏面縄目。	①良②灰赤③砂粒含
78-6	平 瓦	破片		片面布目後ナデ。裏面縄目。	①良②褐灰③白色黒色粒多
78-7	砥石			106 g。	砥沢石
78-8	転用硯	破片		内面に叩き目をもつ。須恵器甕の胴部を使用。	
83-1	土師器 坏	破片	10.8×7.8×3.3	外面 口縁部横ナデ。口縁下部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面 ナデ。	①良②にぶい橙③砂粒含
83-2	土師器 坏	破片		口縁部横ナデ。体部ナデ。底部ナデ。内面ナデ。	①良②にぶい橙③砂粒含
83-3	須恵器 皿	破片	16.2×10.2×2.0	轆轤成形。付高台。高台欠落。底部回転糸切。	①良②灰③細砂粒含
83-4	須恵器 坏	底部残存	底径 5.9	轆轤成形。底部回転糸切。	①良②灰褐③細砂粒含
83-5	須恵器 椀	底部破片			
83-6	須恵器 椀	底部破片	底径 7.6	轆轤成形。高台を逆さにして漆溜として使用。	①良②橙③砂粒含



遺物観察表

図 No.	器種	残存部位	口径×底径×高さcm	器形・成形・整形の特徴・その他	①焼成②色調③胎土
83-7	須恵器 椀	底部残存	底径 7.8	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。底部高台内側周辺回転ナデ。	①良②にぶい橙③白色粒含
83-8	須恵器 皿	1/2残存	8.5× 5.0× 1.5	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②にぶい黄橙③砂粒含
83-9	須恵器 皿	3/4残存	8.8× 3.8× 1.8	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰白③砂粒含
83-10	土師器 甕	口縁部破片	口径 24.6	口縁部短く外側へ屈曲する。口縁部内外面横ナデ。内側ヘラナデ。内外面ス全面付着。	①良②にぶい橙③砂粒含
83-11	砥石	欠		870 g	粗粒安山岩
84-1	土師器 模倣坏	完形	12.5× ー× 4.4	外面 口縁部横ナデ。体部ヘラケズリ。内面ナデ。	①良②にぶい橙③細砂粒含
84-2	土師器 坏	口縁部破片	12.7× ー× 4.3	外面 口縁部横ナデ。体部ヘラケズリ。内面ナデ。	①良②橙③細砂粒含
84-3	土師器 坏	破片		外面 口縁部横ナデ。下部ヘラナデ。底部ヘラナデ。内面 ナデ。内面に漆付着。	①良②明橙③細砂粒含
84-4	土師器 坏	破片	口径 10.8	外面 口縁部横ナデ。下部ヘラナデ。底部ヘラナデ。内面 ナデ。	①良②橙③砂粒含
84-5	土師器 坏	底部片		外面ヘラ削り。内面横ナデ後、暗文を施す。	①あまい②浅黄③緻密
84-6	土師器 坏	破片	口径(13.3)	外面ヘラ削り。口縁部ナデ後、内面に暗文。	①並②にぶい赤褐③砂粒少
84-7	土師器 高坏	脚部一部残存		外面 縦方向に10面を持つ。内面 ヘラナデ。後しぼり状のヘラ調整。	①良②橙③細砂粒含
84-8	須恵器 甕	口縁部欠損		外面 口縁部横方向3条の沈線。ヘラ先による縦方向の線文。体部3条の沈線。中央部に円孔節歯状工具による刺突文。下部ナデ。	①良②灰③砂粒含
84-9	須恵器 蓋	1/2残存	15.8× ー× 2.5	轆轤成形。環状つまみ。中央部弱くもり上がる。外面回転ヘラ調整。内面 返りをもつ。	①良②灰③砂粒含
84-10	須恵器 蓋	破片		轆轤成形。つまみ中央部くぼむ。	①良②灰③砂粒含
84-11	須恵器 蓋	1/4残存	18.2× ー× 3.2	轆轤成形。環状つまみ。外面 回転ヘラ調整。内面 弱い返りをもつ。	①良②浅黄③砂粒含
84-12	須恵器 蓋	砂片	口径 13.6	轆轤成形。つまみ中央部弱くくぼむ。端部弱く屈曲。	①良②灰白③砂粒含
84-13	須恵器 坏	底部1/2	底径(10.5)	轆轤成形右廻り。付高台横ナデ。底部ナデ調整。	①並②白灰③砂粒微
84-14	須恵器 坏	破片		轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰③細砂粒含
84-15	須恵器 坏	1/2残存	11.7× 6.9× 3.9	轆轤成形。底部回転糸切。	①良②灰③細砂粒含
84-16	須恵器 坏	完形	13.2× 7.4× 3.9	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。口縁部弱く内湾して外傾する。	①良②灰③砂粒含
84-17	須恵器 坏	破片		轆轤成形。底部回転糸切。	①良②灰③細砂粒含
84-18	須恵器 坏	破片	器高 3.4	轆轤成形。底部回転糸切。	①良②黒褐③細砂粒含
84-19	須恵器 坏	破片		轆轤成形。底部回転糸切。	①良②灰③細砂粒含
84-20	須恵器 坏	1/2残存	13.9× 8.0× 3.3	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。口縁端部に向かい弱く外反する。	①良②灰白③砂粒含
84-21	須恵器 坏	完形	10.2× 5.0× 3.4	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。口縁、体部凹凸がはげしい。外面スス付着。底部内面に墨書。	①良②灰白③細砂粒含
84-22	須恵器 坏	破片	口径 10.8	轆轤成形。底部回転糸切。	①良②橙③砂粒含
84-23	須恵器 坏	破片		轆轤成形。底部回転糸切。内面墨書。	①良②灰③砂粒含
84-24	須恵器 盤	1/2残存	底径(22.4)	底部回転ヘラナデ。	①並②灰③砂粒多
85-25	灰釉陶器 段皿	破片	口径(13.8)	轆轤成形。施釉は省略。	①良②灰③黒色粒少
85-26	灰釉陶器 皿	破片		轆轤成形。付高台。高台内側弱く三日月を呈す。底部回転調整。口縁端部施釉。	①良②灰③密
85-27	灰釉陶器 皿	1/2残存	13.6× 6.6× 2.9	轆轤成形。底部回転ヘラ調整。付高台、弱く三日月を呈す。口縁端部は弱く内湾。施釉付かけ。	①良②灰③密
85-28	須恵器 皿	3/4残存	14.0× 7.4× 2.8	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。高台薄くハの字に開く。	①良②灰③砂粒含
85-29	灰釉陶器 輪花碗	1/2残存	11.2× 5.0× 4.1	轆轤成形。底部回転ヘラ調整。付高台。輪花部2ヶ所残存。施釉付かけ。	①良②灰③密
85-30	須恵器 椀	破片		轆轤成形。内面口縁部1cmほど下から全面に漆。	①良②灰③砂粒含
85-31	須恵器 椀	底部残存	底径 6.8	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。残存部内面に全面漆。外面たれた状態の漆付着。	①良②灰③砂粒含
85-32	須恵器 椀	高台部欠落	14.5× ー× 7.3	轆轤成形。高台欠落。底部回転糸切。後ナデ。口縁部外湾する。	①良②にぶい橙③砂粒含
85-33	黒色土器 椀	底部破片		轆轤成形。底部回転糸切。付高台。内面内黒研磨。底部墨書。	①良②にぶい橙③細砂粒含

## 遺物観察表

図 No	器種	残存部位	口径×底径×高さcm	器形・成形・整形の特徴・その他	①焼成②色調③胎土
85-34	黒色土器A 高台付椀	底部	底径 4.3	轆轤成形。付高台横ナデ。内面に凹線。 内面黒色処理。全面ミガキ。	①並②暗灰③砂粒少
85-35	須恵器 椀	底部残存	底径 8.0	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。高台高くハの字に 開く。	①良②赤橙③砂粒含
85-36	須恵器 皿	完形	10.6×7.0×2.7	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②浅黄橙③砂粒含
85-37	須恵器 皿	完形	10.3×5.5×2.3	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②淡黄③砂粒含
85-38	須恵器 皿	完形	9.2×4.4×2.2	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②明赤褐③砂粒含
85-39	須恵器 皿	完形	8.4×4.7×2.2	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②明赤褐③砂粒含
85-40	須恵器 皿	1/2残存	9.0×4.5×2.4	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②明赤褐③砂粒含
85-41	須恵器 皿	完形	8.6×4.4×2.3	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②明赤褐③砂粒含
85-42	須恵器 皿	完形	8.6×4.2×2.2	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。底部外面糸切部や や突出する。	①良②明赤褐③砂粒含
85-43	須恵器 皿	完形	8.2×4.4×1.8	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。底部内面中央部盛り り上る。	①良②明赤褐③砂粒含
85-44	須恵器 皿	完形	8.2×4.5×2.2	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②明赤褐③砂粒含
85-45	須恵器 皿	完形	8.4×4.0×2.2	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。底部外面糸切部や や突出する。	①良②橙③砂粒含
85-46	須恵器 皿	完形	9.0×4.5×2.0	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。底部外面糸切部や や突出する。	①良②明褐③砂粒含
86-47	土師器 甕	1/2残存	14.0×5.5×15.4	外面 口縁部横ナデ。胴部輪積痕残るヘラナデ後指頭 状凹凸多い。内面 ナデ。	①良②にぶい橙③砂粒含
86-48	須恵器壺G	破片	底径(5.6)	轆轤成形。底部回転糸切。	①並②灰③白色粒少
85-49	須恵器 壺	底部1/2残 存	底径 6.6	轆轤成形。底部回転ヘラ削り。底端部に強いナデ。	①並②灰黄③砂粒多
86-50	須恵器 壺	破片		両耳壺であろう。轆轤成形。	①並②オリブ灰③砂粒 少
86-51	須恵器 瓶	底部		外面漆タレ。内面貼付。	①良②灰③砂粒含
86-52	須恵器 甕	破片		外面タタキ。内面アテ目。内面に漆貼付。	①良②灰③砂粒含
86-53	須恵器 甕	破片	口径 19.0	轆轤成形。口縁部外側へ屈曲する。	①良②灰③砂粒含
86-54	須恵器 甕	破片	口径 22.0	轆轤成形。口縁部外反し、端部に面をもつ。	①良②灰③砂粒含
86-55	須恵器 甕	破片		須恵器の破片。内面に漆塗り。	①良②灰③砂粒含
86-56	羽 釜	破片	口径 20.4	鋳上方を向く。口縁弱く外湾する。	①良②橙③砂粒含
86-57	羽 釜	破片	口径 20.0	鋳横を向く。口縁部内湾する。	①良②灰③砂粒含
86-58	羽 釜	破片	口径 19.2	鋳横を向く。口縁部内傾する。	①良②橙③砂粒含
87-59	平 瓦	破片		凹面布目。凸面文字刻印の叩き。	①並②灰褐③細砂少
87-60	土製品	破片		須恵器の甕破片を円形に周囲をうちかいている。	①良②灰③砂粒含
88-1	土師器 坏	1/4残存	口径 12.1	外面 口縁部横ナデ。体部ヘラケズリ。内面 ナデ。	①良②橙③細砂粒含
88-2	土師器 坏	1/4残存	口径 11.8	外面 口縁部横ナデ。体部ヘラケズリ。内面 ナデ。 口縁端部直立きみ。	①良②橙③細砂粒含
88-3	土師器 坏	破片	口径 11.7	外面 口縁部横ナデ。底部ヘラケズリ。内面 ナデ。	①良②橙③砂粒含
88-4	土師器 坏	破片	口径(13.8)	外面 ヘラケズリ。内面 ナデ後に暗文。	①良②灰黄褐③砂粒少
88-5	土師器 坏	破片	口径 13.0	外面 口縁部横ナデ。口縁下部ヘラナデ。底部ヘラナ デ。内面 ナデ。暗文。	①良②橙③細砂粒含
88-6	土師器 坏	破片	口径 11.5	外面 口縁部横ナデ。内面 ナデ。暗文。	①良②橙③細砂粒含
88-7	土師器 坏	破片	口径 15.0	外面 口縁部横ナデ。ナデ。内面 ナデ。暗文。	①良②橙③細砂粒含
88-8	土師器 高坏	脚部残存	底径 9.4	外面 脚部縦方向に面取り。ヘラ調整。スノ部横ナデ。 内面 ナデ。ヘラナデ。	①良②にぶい橙③細砂粒 含
88-9	須恵器 高台付盤	脚部一部 残存		轆轤成形。外面7面ヘラにより面取り。内面ナデ。脚 上部ヘラ先痕残る。	①良②灰黄③砂粒含
88-10	須恵器 坏	破片	口径 12.0	轆轤成形。底部手持調整。内面ピンクの顔料痕。	①良②灰白③砂粒含
88-11	須恵器 坏	1/2残存	13.0×8.4×3.4	轆轤成形。底部回転糸切。底部外面に「厨」墨書。	①良②灰③砂粒含
88-12	須恵器 坏	破片	底径 7.0	轆轤成形。底部回転糸切。底部外面に「殿」墨書。	①良②黄橙③砂粒含
88-13	須恵器 坏	底部残存	底径 6.8	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰③砂粒含
88-14	須恵器 坏	破片		轆轤成形。底部回転糸切。内面漆貼付。	①良②灰③砂粒含
88-15	須恵器 蓋	1/4残存	口径 16.6	轆轤成形。宝珠つまみ。外面回転ヘラ調整。内面端部 下方へ屈曲する。	①良②灰③砂粒含
88-16	須恵器 蓋	破片		轆轤成形。擬宝珠つまみ。外面回転ヘラ調整。	①良②灰③砂粒含
88-17	須恵器 蓋	破片		轆轤成形。擬宝珠つまみ。外面回転ヘラ調整。	①良②灰③砂粒含
88-18	須恵器 蓋	1/4残存	径 17.3	轆轤成形。つまみ擬宝珠。外面回転ヘラ調整。端部下 方を屈曲する。	①良②灰③細砂粒含

遺物観察表

図 No.	器種	残存部位	口径×底径×高さcm	器形・成形・整形の特徴・その他	①焼成②色調③胎土
88-19	須恵器蓋	破片	口径 17.0	轆轤成形。宝珠つまみ。外面回転ヘラ調整。内面返りをもつ。	①良②灰③細砂粒含
88-20	須恵器蓋	1/2残存	17.9× ー× 2.9	轆轤成形。環状つまみ。外面回転ヘラ調整。内面返りをもつ。	①良②灰③細砂粒含
88-21	須恵器蓋	完形	口径 15.0 高 2.4	轆轤成形。外面回転ヘラ調整。環状つまみ。内面返りをもつ。	①良②淡黄③砂粒含
88-22	須恵器盤	破片	口径 15.2	轆轤成形。付高台。高台角状を呈し、平坦面をもつ。底部回転調整。	①良②にぶい黄橙③細砂粒含
88-23	須恵器椀	破片	底径 9.0	轆轤成形。付高台。高台角状。底部回転糸切後回転ヘラ調整。	①良②灰③砂粒含
88-24	須恵器椀	底部残存	底径 8.8	轆轤成形。付高台。高台角状を呈しやや外を向く。底部回転ヘラ調整。	①良②灰③細砂粒含
88-25	須恵器 坏	底部片	底径 (9.3)	轆轤成形右廻り。付高台横ナデ。底部回転ヘラ削り。	①並②灰白③砂粒多
88-26	須恵器 蓋	破片	口径 (22.0)	轆轤成形。つまみが付くであろう。	①並②灰白③白色粒・砂多
88-27	須恵器高台付盤	破片		轆轤成形。口縁部弱く内湾し、脚ハの字に開く。端部平坦面をもつ。	①良②灰③細砂粒含
88-28	須恵器盤	破片	底径 22.6	轆轤成形。付高台。底部回転ヘラ調整。高台薄く下方へ延びる。	①良②灰③細砂粒含
89-29	須恵器 坏	1/4残存	(9.6)×(6.0)×3.5	轆轤成形。底部回転ヘラ削り。外面～底部に自然釉。	①良②赤灰③砂粒少
89-30	須恵器 坏	完形	11.4× 5.0× 4.6	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。外面ヘラナデ。器形のみが大きい。	①良②灰③細砂粒含
89-31	須恵器 坏	1/2残存	12.6× 7.0× 3.4	轆轤成形。底部回転糸切。	①良②灰③細砂粒含
89-32	須恵器 坏	1/5残存	13.0× 6.0× 3.7	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②橙③砂粒含
89-33	須恵器 坏	1/2残存	12.2× 6.6× 3.6	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰③細砂粒含
89-34	須恵器 坏	3/4残存	12.0× 6.0× 4.0	轆轤成形。底部回転糸切。成形時ゆがみ大きい。	①良②灰③砂粒含
89-35	須恵器 坏	破片	口径 10.2	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰褐③砂粒含
89-36	須恵器 坏	完形	10.4× 5.2× 3.6	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。外面は轆轤成形時の凹凸が大きい。	①良②灰③砂粒含
89-37	須恵器 坏	完形	9.2× 4.5× 3.5	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。口縁端部の1ヶ所にスス附着。	①良②橙③細砂粒含
89-38	須恵器 坏	完形	10.9× 5.5× 3.3	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。内面に赤色の顔料が附着。	①良②褐灰③細砂粒含
89-39	須恵器 坏	完形	9.8× 5.0× 2.8	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②明褐灰③砂粒含
89-40	須恵器 坏	1/4残存	10.3× 5.5× 2.3	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②橙③砂粒含
89-41	須恵器 坏	破片	口径 13.0	轆轤成形。底部回転糸切。	①良②灰③細砂粒含
89-42	須恵器 坏	1/2残存	13.8× 8.2× 3.6	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰③細砂粒含
89-43	須恵器 坏	完形	12.8× 6.8× 3.1	轆轤成形。底部回転糸切。糸切後底部周辺回転ナデ。	①良②暗灰③細砂粒含
89-44	須恵器 坏	1/4残存	口径 14.0	轆轤成形。底部回転糸切。	①良②灰③細砂粒含
89-45	須恵器 椀	破片	口径 15.0	轆轤成形。付高台欠落。底部回転糸切。	①良②灰③砂粒含
90-46	緑釉陶器碗	破片		内面 緑釉。外面 剥落。	①良②黄橙③砂粒含
90-47	緑釉陶器碗	破片	底径 (7.0)	轆轤成形。内外面緑釉。	①良②灰褐③砂粒含
90-48	灰釉陶器 段皿	破片		轆轤成形。内外面施釉。	①良②黒灰③密
90-49	白磁?	破片		轆轤成形。内外面施釉。	①良②灰白③密
90-50	灰釉陶器	破片	14.2× 7.2× 3.0	轆轤成形。付高台三日月状を呈す。脚部全面施釉。	①良②灰③密
90-51	灰釉陶器碗	破片	底径 8.0	轆轤成形。付高台。高台三日月状を呈す。	①良②灰③密
90-52	黒色土器 B 高台付椀	体部1/2残存	口径 17.4	轆轤成形。内外面吸炭全体ミガキ。	①良②黒灰③砂粒含
90-53	黒色土器 A 高台付椀	底部残存	底径 8.2	轆轤成形。付高台横ナデ。底部回転ヘラナデ。内面黒色処理。全面ミガキ。	①良②灰橙③細砂・片岩少
90-54	須恵器 耳皿	体部1/2残存		轆轤成形。付高台横ナデ。	①並②灰③白色粒少
90-55	須恵器 椀	口縁部一部欠損	12.0× 6.6× 4.4	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。付高台。高台。外面整形粗雑。	①良②にぶい橙③砂粒含
90-56	須恵器 椀	1/5残存	口径 11.5	轆轤成形。付高台。底部回転糸切。	①良②灰③砂粒含
90-57	須恵器 椀	完形	11.0× 5.3× 3.7	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。底部は糸切面が円盤状に突き出している。	①良②明赤灰③砂粒含
90-58	須恵器 椀	底部破片		轆轤成形。底部回転糸切。付高台。底部外面に墨書。	①良②灰白③砂粒含
90-59	灰釉陶器碗	破片	底径 7.4	轆轤成形。付高台。底部回転糸切。	①良②灰③密
90-60	須恵器 椀	底部残存	底径 7.6	轆轤成形。付高台。底部回転糸切。	①良②灰③砂粒含

遺物観察表

図 Na	器種	残存部位	口径×底径×高さcm	器形・成形・整形の特徴・その他	①焼成②色調③胎土
90-61	灰釉陶器碗	破片		轆轤成形。付高台断面三日月を呈す。	①良②灰白③密
90-62	黒色土器A 高台付椀	底部残存	底径 8.0	轆轤成形。付高台横ナデ。底部指ナデ。 内面黒色処理。全面ミガキ。	①並②褐灰③砂粒多
90-63	黒色土器 高台付椀	底部残存	底径 7.4	轆轤成形。付高台。底部回転糸切。内面 黒色研磨。	①良②灰③砂粒含
90-64	須恵器 椀	底部残存	底径 8.0	轆轤成形。付高台。底部回転糸切。	①良②灰③砂粒含
90-65	須恵器 椀	1/4残存	14.0× 7.0× 5.5	轆轤成形。付高台。高台やや高くハの字に開く。底部 回転調整。円外面吸炭状の黒色。	①良②灰③細砂粒含
90-66	須恵器 椀	1/4残存	14.6× 8.2× 6.3	轆轤成形。付高台。高台足高でハの字に開く。端部に 平坦面をもつ。底部回転調整。	①良②橙③砂粒含
91-67	須恵器 椀	底部破片	底径 8.6	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。底部外面に「盛」 墨書。	①良②灰③砂粒含
91-68	須恵器 椀	破片		体部外面に墨書。	①良②にふい橙③砂粒含
91-69	須恵器 椀	破片		轆轤成形。体部外面に「国」墨書。	①良②灰③砂粒含
91-70	須恵器 椀	脚部残存	底径 11.0	轆轤成形。付高台。高台は足高で端部で外反する。底 部回転ナデ調整。	①良②橙③砂粒含
91-71	須恵器 小 壺	1/4残存	7.6× 6.0× 7.5	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。肩部から底部へ直 線状に傾き、口縁部上方へ延びる。	①良②灰③砂粒含
91-72	土師器 高 坏	1/4残存	口径 14.0	外面 坏部ヘラナデ。脚部ナデ。内面 坏部放射状研 磨。口縁端部内斜する。	①良②にふい橙③細砂粒 含
91-73	須恵器 壺	破片		轆轤成形。内外面漆付着。剖面にも漆付着。	①良②灰③砂粒含
91-74	須恵器 壺	胴下半1/2 残存	底径(5.8)	轆轤成形。底部回転糸切。	①並②白灰③軽石粒少
91-75	須恵器 壺	底部残存		轆轤成形。内外面ヘラ調整。内面に漆。	①良②灰③砂粒含
91-76	須恵器 坏	破片		轆轤成形。底部ヘラ切。内面底部ヘリに漆付着。	①良②灰③砂粒含
91-77	須恵器 蓋	上面残存		轆轤成形。宝珠つまみ。内外面轆轤成形後、ヘラナデ。 下方ハの字に開く。	①良②灰白③砂粒含
91-78	須恵器 壺	破片		轆轤成形。内外面漆。	①良②灰③砂粒含
91-79	須恵器 壺	底部片	底径(15.2)	轆轤成形。付高台横ナデ。	①良②赤灰③白色粒・砂 少
91-80	須恵器 壺	底部片	底径(12.7)	轆轤成形。付高台横ナデ。外面に自然釉。	①良②赤灰③白色粒少
91-81	須恵器 壺	底部残存	底径 10.2	轆轤成形。底部回転ヘラ切り。付高台。外面に自然釉。	①良②灰③白色粒多
91-82	須恵器 甕	破片	口径 29.2	轆轤成形。口縁部外湾する。	①良②灰③砂粒含
91-83	須恵器 甕	口縁部残 存	口径 26.0	轆轤成形。口縁部外湾し端部凹線をもつ。	①良②灰③砂粒含
92-84	須恵器 甕	破片	口径 47.6	轆轤成形。口縁部くの字に外反する。	①良②灰③砂粒含
92-85	須恵器 甕	破片		轆轤成形。内面漆貼付。	①良②橙③砂粒含
92-86	須恵器	破片		内面に漆。	①良②にふい橙③砂粒含
92-87	須恵器	破片		内面に漆貼付。	①良②灰③砂粒含
92-88	羽 釜	破片	口径 24.2	轆轤成形。鋳低く横を向く。	①良②灰③砂粒含
92-89	須恵器 甕	破片	口径 21.6	轆轤成形。鋳横を向く。口縁部弱く外反する。	①良②黒褐③砂粒含
92-90	須恵器 甕	破片	口径 27.5	口縁部直線状に外傾し、鋳横を向く。	①良②灰白③砂粒含
92-91	須恵器 円面硯	破片	13.0×16.6× 6.4	轆轤成形。硯面周辺わずかに低くなりハの字に脚開く。 長方形の孔が1ヶ所確認。	①良②灰③細砂粒含
92-92	軒先瓦	破片		表面 二重蓮弁を4葉もつ蓮華文。裏面 指ナデ。ヘ ラナデ。	①良②灰③細砂粒含
92-93	須恵器 脚付甕	破片		外面ていねいなナデ調整。	①良②橙褐③細砂多
93-94	丸 瓦	後端部		側部面取り2面。凸面ナデ。凹面ナデ。	①並②くすんだ灰③粗砂 多
93-95	平 瓦	破片		側部面取り1面。凹面布目。凸面縄目叩きナデ消し。	①並②黒灰③粗砂多
93-96	丸 瓦	前端部		凸面ナデ。凹面布目。	①並②黒灰③粗砂多
94-97	平 瓦	破片		外面 ナデ。内面布目。剥取り痕。側部面取1面。	①良②灰③砂粒含
94-98	平 瓦	端部片		側部面取り1面。凹面布目。凸面縄目叩き。自然釉。	①良②黒灰③粗砂少
94-99	土製品	破片		須恵器甕の破片を円形に打ちかいている。	①良②灰③砂粒含
94-100	砥石	欠		5.0 kg。両面に磨面。片面に刃物痕がスジ状に残る。	粗粒安山岩
95-1	土師器 坏	1/4残存	口径 14.6	外面 口縁部横ナデ。下部～底部ナデ。内面 口縁部 横ナデ。ナデ。	①良②橙③細砂粒含
95-2	土師器 坏	1/4残存	口径 12.8	外面 口縁部横ナデ。下部ナデ。底部ヘラケズリ。内 面 ナデ。暗文とらせん暗文。	①良②橙③細砂粒含
95-3	須恵器 蓋	完形	口径 13.5 高 2.5	轆轤成形。宝珠つまみ。内面返りをもつ。	①良②灰③砂粒含

遺物観察表

図 No	器種	残存部位	口径×底径×高さcm	器形・成形・整形の特徴・その他	①焼成②色調③胎土
95-4	須恵器 蓋	破片		轆轤成形。ボタン状つまみ。	①良②灰③細砂粒含
95-5	須恵器 蓋	完形	口径 14.8 高 2.1	轆轤成形。擬宝珠つまみ。内面返りをもつ。	①良②淡黄③砂粒含
95-6	須恵器 坏	完形	13.2× 7.2× 4.0	轆轤成形。底部回転ヘラ切り。	①良②灰③砂粒含
95-7	須恵器 坏	ほぼ完形	12.0× 7.5× 3.5	轆轤成形。底部回転ヘラ切り。	①良②灰③砂粒含
95-8	須恵器 坏	1/4残存	口径 11.8	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰③砂粒含
95-9	須恵器 坏	1/4残存	口径 13.4	轆轤成形。底部回転糸切。	①良②灰③砂粒含
95-10	須恵器 坏	破片	口径 12.8	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰③砂粒含
95-11	須恵器 椀	破片	口径 12.2	轆轤成形。底部回転糸切。付高台薄く下方を向く。	①良②灰③砂粒含
95-12	須恵器 椀	破片	口径 11.1	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。	①良②灰③砂粒含
95-13	須恵器 椀	1/4残存	15.0× 8.2× 5.6	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。	①良②灰③砂粒含
95-14	須恵器 椀	破片	口径 15.5	轆轤成形。底部回転糸切。付高台ハの字に開く。	①良②灰白③砂粒含
95-15	須恵器 椀	底部残存	底径 7.2	轆轤成形。底部回転調整。付高台ハの字に開く。	①良②灰③細砂粒含
95-16	須恵器 皿	破片	口径 15.8	轆轤成形。底部回転糸切。付高台欠落。	①良②灰③砂粒含
95-17	須恵器 皿	底部残存	底径 8.1	轆轤成形。底部回転調整。付高台ハの字に開く。	①良②灰③砂粒含
95-18	須恵器 高台付盤	破片	口径 28.0	轆轤成形。口縁部稜をもつ。高台低く下方を向く。	①良②灰③砂粒含
95-19	須恵器 皿	破片	口径 14.3	轆轤成形。外面 回転ヘラ調整。	①良②灰③砂粒含
95-20	須恵器 壺	破片	口径 16.1	轆轤成形。2 条沈線上に波状文。	①良②灰白③砂粒含
95-21	須恵器提瓶	口縁欠損		轆轤成形。下部回転ヘラ調整。上部自然釉。	①良②灰③砂粒含
96-22	須恵器 坏	破片		轆轤成形。底部回転糸切。底部外面墨書。	①良②灰③砂粒含
96-23	須恵器 坏	底部破片	底径 6.4	轆轤成形。底部回転糸切。底部外面墨書。	①良②灰③砂粒含
96-24	須恵器 皿	底部残存	底径 8.1	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。底部外面「御」墨書。	①良②灰③砂粒含
96-25	須恵器 椀	底部残存	底径 10.0	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。底部外面「国厨」墨書。	①良②灰③砂粒含
96-26	須恵器 椀	破片		轆轤成形。底部回転調整。付高台。内面漆貼付。	①良②灰③砂粒含
96-27	須恵器 椀	底部残存		轆轤成形。底部回転調整。付高台。内外面割面まで漆付着。	①良②灰③砂粒含
96-28	須恵器	破片		轆轤成形。外面漆付着。内面漆貼付。	①良②灰③砂粒含
96-29	須恵器	破片		轆轤成形。外面漆付着。内面漆貼付後剥げ。	①良②灰③砂粒含
96-30	須恵器 壺	破片		轆轤成形。内面漆貼付。	①良②灰③砂粒含
96-31	羽 口	破片		外面 熱を受け発泡している。	①良②橙③砂粒含
96-32	砥 石	完形		98 g	砥沢石
96-33	砥 石	欠		33 g	砥沢石
97-1	土師器 坏	破片	口径 11.2	外面 口縁部横ナデ。体部ヘラケズリ。内面 ナデ。模倣坏。	①良②明橙③細砂粒含
97-2	土師器 坏	破片	口径 12.5	外面 口縁部横ナデ。体部ヘラケズリ。内面 ナデ。模倣坏。	①良②明橙③細砂粒含
97-3	土師器 坏	1/4残存	12.5× ー× 3.7	外面 口縁部横ナデ。体部ヘラケズリ。内面 ナデ。	①良②明橙③細砂粒含
97-4	土師器 坏	破片		外面 口縁部横ナデ。体部ヘラナデ。底部ヘラナデ。内面 ナデ。	①良②橙③砂粒含
97-5	土師器 坏	1/4残存	12.2× 7.1× 3.9	外面 口縁部横ナデ。下部、底部ヘラナデ。内面 ナデ。指頭痕。	①良②にぶい橙③細砂粒含
97-6	土師器 坏	完形	11.8× ー× 3.6	外面 口縁部横ナデ。下部ナデ。体部ヘラケズリ。内面 ナデ。	①良②橙③細砂粒含
97-7	土師器 坏	1/4残存	11.6× ー× 3.4	外面 口縁部横ナデ。口縁下部ナデ。体部ヘラケズリ。内面 ナデ。	①良②にぶい橙③細砂粒含
97-8	土師器 坏	破片	口径 16.0	外面 口縁部横ナデ。下部ヘラナデ。体部ヘラケズリ。内面 ナデ。	①良②にぶい橙③細砂粒含
97-9	土師器 坏	1/4残存	口径 14.0 高 3.5	外面 口縁部横ナデ。下部ヘラナデ。体部ヘラケズリ。内面 ナデ。暗文。らせん暗文。	①良②にぶい橙③細砂粒含
97-10	須恵器 坏	破片		轆轤成形。底部回転ヘラ調整。	①良②灰③砂粒含
97-11	須恵器 坏	1/4残存	12.6× 8.0× 3.2	轆轤成形。底部回転ヘラ切り。	①良②灰③砂粒含
97-12	須恵器 坏	完形	12.4× 7.5× 3.8	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰③砂粒含
97-13	須恵器 坏	1/4残存	13.1× 5.6× 3.8	轆轤成形。底部ナデ。	①良②灰③砂粒含
97-14	須恵器 坏	1/4残存	口径 10.4	轆轤成形。底部回転糸切。	①良②灰③砂粒含
97-15	須恵器 坏	1/4残存	口径 12.8	轆轤成形。底部回転糸切。	①良②灰③砂粒含
97-16	須恵器 坏	底部破片	底径 7.6	轆轤成形。底部回転ヘラ切。	①良②灰白③砂粒含
97-17	須恵器 坏	底部破片	底径 8.0	轆轤成形。底部回転ヘラ切。底部周辺にヘラ先痕。	①良②灰③砂粒含



## 遺物観察表

図 No	器種	残存部位	口径×底径×高さcm	器形・成形・整形の特徴・その他	①焼成②色調③胎土
97-18	須恵器 蓋	1/4残存	口径 10.3 高 2.4	轆轤成形。つまみ欠落。内面返りをもつ。	①良②灰③砂粒含
97-19	須恵器 蓋	1/3残存	口径 13.6 高 3.0	轆轤成形。環状つまみ。内面返りをもつ。	①良②灰③砂粒含
97-20	須恵器 蓋	破片		轆轤成形。口縁部横ナデ。短頸壺の蓋か。	①並②灰③細砂多
97-21	須恵器 坏	底部1/4残存	底径(12.6)	轆轤成形左廻り。腰部削出し高台。底部回転ヘラ削り。	①並②灰白③細砂微
97-22	須恵器 坏	破片	(14.4)×(10.2)×4.0	轆轤成形右廻り。腰部削出し高台。	①良②灰白③砂粒少
97-23	須恵器 坏	底部1/4残存	—×(10.2)×—	轆轤成形右廻り。付高台横ナデ。底部回転ヘラ削り。	①並②灰③白色粒多
97-24	須恵器 椀	1/2残存	17.1×11.3×7.0	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。	①良②灰③砂粒含
97-25	須恵器 椀	底部残存	底径 10.1	轆轤成形。底部回転ヘラ調整。付高台。	①良②灰③砂粒含
97-26	須恵器 皿	口縁部片	口径(16.0)	轆轤成形。口縁部横ナデ。	①良②灰白③砂粒少
97-27	須恵器 盤	1/2残存	22.5×18.6×4.0	轆轤成形。底部回転ヘラ調整。付高台。	①良②灰白③砂粒含
98-28	土師器 坏	完形	12.5×7.8×3.7	外面 口縁部横ナデ。下部指頭痕。ナデ。内面 ナデ。	①良②にぶい橙③砂粒含
98-29	土師器 坏	3/4残存	12.2×8.0×3.4	外面 口縁部横ナデ。底部ヘラナデ。	①良②明褐③細砂粒含
98-30	須恵器 坏	ほぼ完形	12.4×6.5×3.7	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰③砂粒含
98-31	須恵器 坏	1/4残存	口径 13.2	轆轤成形。底部回転糸切。	①良②灰③砂粒含
98-32	須恵器 坏	底部破片	底径 7.6	轆轤成形。底部回転糸切。底部外面「□曹司」墨書。	①良②灰③砂粒含
98-33	須恵器 坏	破片	底径 8.0	轆轤成形。底部回転調整。底部外面墨書。	①良②灰③砂粒含
98-34	須恵器 坏	破片		轆轤成形。体部外面「一」墨書。	①良②灰③砂粒含
98-35	須恵器 椀	1/3残存	口径 11.9	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。	①良②灰③砂粒含
98-36	須恵器 椀	3/4残存	13.0×8.0×5.0	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。	①良②灰③砂粒含
98-37	須恵器 椀	底部残存	底径 8.6	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。	①良②灰③砂粒含
98-38	須恵器 椀	底部残存	底径 9.0	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。底部外面にヘラ先による記号と「黒山」墨書。	①良②灰③砂粒含
98-39	須恵器 椀	破片		轆轤成形。体部外面「内」墨書。	①良②灰③砂粒含
98-40	須恵器 椀	底部残存	底径 9.0	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。底部外面「大」墨書。	①良②灰③砂粒含
98-41	須恵器 椀	底部残存	底径 8.2	轆轤成形。底部回転調整。付高台。内面吸炭。	①良②橙③砂粒含
98-42	須恵器 皿	3/4残存	12.2×6.5×3.0	轆轤成形。底部ナデ。付高台。	①良②灰③砂粒含
98-43	須恵器 皿	1/3残存	13.4×7.0×2.5	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。	①良②灰③砂粒含
98-44	須恵器 椀	底部残存	底径 8.4	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。	①良②灰③砂粒含
99-45	須恵器 皿	底部破片	底径 8.3	轆轤成形。底部回転調整。付高台。	①良②灰③砂粒含
99-46	須恵器 皿	底部残存	底径 8.6	轆轤成形。底部回転調整。付高台。	①良②灰③砂粒含
99-47	須恵器 壺	口縁部片	口径(10.7)	轆轤成形。外面に自然釉かかる。	①良②灰③白色粒少
99-48	須恵器 壺	破片		外面漆付着。内面漆が固まって残存。	①良②灰③砂粒含
99-49	須恵器 壺	胴部片		轆轤成形。内面青海波。漆付着。	①良②灰③砂粒含
99-50	土師器 甕	破片	口径 23.5	外面 口縁部横ナデ。胴部ヘラケズリ。頸部にヘラ先痕。内面 ナデ。	①良②明赤褐③砂粒含
99-51	土師器 壺	肩部片		轆轤成形。肩部にカキ目。外面全体に自然釉かかる。	①良②赤灰③白色粒少
99-52	須恵器 壺	破片		轆轤成形。外面漆付着。内面漆付着。	①良②灰③砂粒含
99-53	須恵器 甕	破片	口径 16.3	轆轤成形。外面波状文。頸部外湾する。	①良②灰白③砂粒含
99-54	須恵器 壺	破片		轆轤成形。外面漆付着。内面漆貼付。	①良②灰③砂粒含
99-55	須恵器 甕	破片		轆轤成形。外面叩き目。内面アテ目。漆貼付。	①良②灰③砂粒含
99-56	須恵器 甕	破片		轆轤成形。外面漆付着。内面貼付。	①良②灰③砂粒含
99-57	須恵器 壺	破片		轆轤成形。外面漆付着。内面貼付。	①良②灰③砂粒含
100-58	須恵器 甕	破片		轆轤成形。外面漆がタレる。内面貼付。	①良②灰③砂粒含
100-59	須恵器 甕	破片		轆轤成形。外面漆付着。内面貼付後剥げ。	①良②灰③砂粒含
100-60	須恵器 壺	破片		轆轤成形。外面漆付着。内面貼付。	①良②灰③砂粒含
100-61	須恵器 壺	破片		轆轤成形。外面漆付着。内面貼付。	①良②灰③砂粒含
100-62	須恵器 壺	破片		轆轤成形。外面漆付着。内面貼付。	①良②灰③砂粒含
100-63	須恵器 甕	破片		轆轤成形。外面叩き目。内面アテ目。漆貼付。	①良②灰③砂粒含
101-64	須恵器 甕	破片		轆轤成形。外面漆付着。内面漆。割れ口にも付着。	①良②灰③砂粒含
101-65	須恵器 甕	破片		轆轤成形。外面漆付着。内面漆。割れ口にも付着。	①良②灰③砂粒含
101-66	須恵器 甕	破片		轆轤成形。内面漆。	①良②灰③砂粒含
101-67	須恵器 甕	破片		轆轤成形。内面漆貼付。	①良②灰③砂粒含
102-68	須恵器 壺			轆轤成形。内面に漆付着。	①良②灰③砂粒含
102-69	須恵器 壺	破片		轆轤成形。内面漆固まり。	①良②橙③砂粒含
102-70	須恵器 壺	破片		轆轤成形。外面漆付着。内面漆貼付。	①良②灰③砂粒含

遺物観察表

図 No	器種	残存部位	口径×底径×高さcm	器形・成形・整形の特徴・その他	①焼成②色調③胎土
102-71	丸瓦	破片		側部面取り1面。凸面縄目叩き。凹面布目。	①並②黄灰③砂粒少
102-72	丸瓦	前端部		凸面ナデ。凹面布目。	①良②黄灰③砂粒少
103-73	丸瓦	1/2残存		表面 ナデ。裏面 布目。両端部、下端部面取。	①良②浅黄橙③砂粒含
103-74	砥石			5.2g。片面に磨面。	粗粒安山岩
103-75	石製品			片面に磨面、片面を平坦に調整。	粗粒安山岩
104-76	石製品			表裏に円形のくぼみ。	粗粒安山岩
105-1	土師器 坏	3/4残存	12.2× ー× 4.1	外面 口縁部横ナデ。体部ヘラケズリ。内面 ナデ。模倣坏。	①良②橙③砂粒含
105-2	土師器 坏	1/2残存	11.4× ー× 3.2	外面 口縁部横ナデ。体部ヘラケズリ後ナデ。内面 ナデ。模倣坏。	①良②橙③細砂粒含
105-3	須恵器 坏	1/4残存	口径 10.7	轆轤成形。外面底面ヘラナデ調整。	①良②灰白③砂粒含
105-4	土師器 坏	破片	口径 12.0	外面口縁部横ナデ。体部ヘラナデ。内面ナデ。	①良②橙③細砂粒含
105-5	土師器 坏	底部片	底径(5.9)	外面ヘラナデ。内面暗文。	①良②橙③砂粒少
105-6	土師器 坏	破片	口径(16.2)	外面ヘラ削り。内面ナデ後に暗文。	①並②橙③砂粒少
105-7	須恵器 蓋	1/4残存	12.4× ー× 2.5	轆轤成形。環状つまみ。内面返りをもつ。	①良②灰③砂粒含
105-8	須恵器 蓋	1/2残存	12.5× ー× 3.4	轆轤成形。環状つまみ。端部下方を屈曲する。	①良②灰③砂粒含
105-9	須恵器 蓋	3/4残存	16.7× ー× 3.3	轆轤成形。つまみなく上面回転糸切。周囲は回転調整。内面端部下方へ屈曲する。	①良②灰白③砂粒含
105-10	須恵器 坏	3/4残存	13.5× 9.3× 3.8	轆轤成形。底部手持ヘラ調整。高台けずり出し。内面に薄く塗ったようにわずかに漆付着。	①良②灰③砂粒含
105-11	須恵器 坏	1/4残存	11.4× 9.8× 3.2	轆轤成形。底部ヘラナデ。	①良②灰白③砂粒少
105-12	緑釉陶器 皿	破片	底径 6.9	轆轤成形。高台中央に向かい薄くなる。内外面緑釉。	①良②灰白③細砂粒含
105-13	緑釉陶器 段皿	破片	底径 9.8	轆轤成形。高台角状を呈す。内外面緑釉。	①良②オリーブ灰③密
105-14	灰釉陶器 三脚付段皿	破片		3脚付。脚外側下部をけずり込む。脚断面六角形を呈す。内面灰釉。刷毛塗り。	①良②灰③細砂粒含・密
105-15	須恵器 蓋	破片	口径(18.4)	轆轤成形。短頸壺の蓋か。	①並②灰③細砂多
105-16	黒色土器 A皿	口縁部片	口径(16.9)	轆轤成形。外面ヘラナデ。口縁部は光沢をもつ。内面黒色処理。全面ミガキ。	①並②にぶい褐③細砂少
105-17	須恵器 盤	口縁部片	口径(22.2)	轆轤成形。底部回転ヘラ削り。	①良②灰③白色粒多
105-18	須恵器 盤	口縁部片	口径(20.6)	轆轤成形。口縁部内折。外面に自然釉。	①良②灰③白色粒多
105-19	須恵器 盤	破片	口径 25.2	轆轤成形。高台高くハの字に開く。	①良②白灰③砂粒含
105-20	須恵器 盤	破片		轆轤成形。付高台。	①良②灰③砂粒含
105-21	須恵器 高盤	破片		轆轤成形。	①並②灰③白色粒少
105-22	須恵器 高坏	破片		轆轤成形。脚上部に3孔穿つ。脚部に透し。	①良②灰③砂粒含
105-23	黒色土器 A坏	破片	(11.5)×(5.4)×3.4	轆轤成形。内面黒色処理。全面ミガキ。	①並②灰橙③砂粒少
105-24	土師器 坏	破片	口径 11.2	内外面 ナデ。	①良②にぶい橙③細砂粒含
105-25	須恵器 坏	破片	口径 12.0	轆轤成形後外面ナデ調整。底部回転糸切。	①良②灰赤③砂粒含
105-26	須恵器 坏	1/2残存	12.2× 6.0× 3.2	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰③砂粒含
105-27	須恵器 坏	1/2残存		轆轤成形。底部回転糸切。体部外面と底部外面に「佐」墨書。	①良②灰③砂粒含
106-1	須恵器 坏	底部残存	底径 7.2	轆轤成形。底部回転糸切。	①良②灰③砂粒含
106-2	須恵器 坏	破片		轆轤成形。底部回転糸切。底部内面墨書。	①良②灰③砂粒含
106-3	須恵器 椀	底部残存	底径 7.4	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。	①良②白灰③砂粒含
106-4	須恵器 椀	底部破片		轆轤成形。付高台。底部外面墨書。	①良②灰③砂粒含
106-5	須恵器 椀	破片	底径 8.7	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。底部外面「御」墨書。	①良②灰③砂粒含
106-6	灰釉陶器 碗	底部破片		轆轤成形。底部回転調整。付高台。底部外面墨書。	①良②灰白③密
106-7	灰釉陶器 碗	底部片	底径(7.5)	轆轤成形。底部回転ヘラ削り。付高台横ナデ。	①良②灰白③緻密
106-8	須恵器 椀	3/4残存	16.0× 8.8× 5.4	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。内面底と体部外面に「午」墨書。	①良②灰白③砂粒含
106-9	須恵器 椀	1/4残存	13.8× 6.4× 5.0	轆轤成形。付高台。内面漆付着。	①良②灰③砂粒含
106-10	須恵器 椀	1/2残存	16.5× 9.4× 6.9	轆轤成形。底部回転ヘラ調整。付高台。	①良②灰③砂粒含
106-11	須恵器 椀	底部残存	底径 10.2	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。	①良②灰③砂粒含
106-12	須恵器 壺	底部残存	底径 9.4	長頸壺? 轆轤成形。底部回転糸切。付高台。	①良②灰③砂粒含
106-13	土師器 坏	1/2残存	口径 11.4	外面ヘラナデ。指ナデ。内面 ヘラナデ。	①良②明赤褐③細砂
106-14	黒色土器 A椀	3/4残存	15.2× 7.0× 6.5	轆轤成形。外面下部ヘラ、指ナデ。底部回転調整。付高台。内面黒色研磨。	①良②にぶい橙③砂粒含
106-15	須恵器 椀	完形	11.4× 5.4× 4.3	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。	①良②灰白③砂粒含

## 遺物観察表

図 Na	器種	残存部位	口径×底径×高さcm	器形・成形・整形の特徴・その他	①焼成②色調③胎土
106-16	土師器 坏	1/4残存	口径 15.6	外面 口縁部横ナデ。下部ヘラナデ。内面 ナデ。	①良②橙③細砂粒含
106-17	須恵器 椀	3/4残存	16.4× 7.7× 8.0	轆轤成形。底部回転ナデ。付高台高くハの字に開く。足高。	①良②にぶい橙③砂粒含
107-1	須恵器 壺G	頸～肩部		轆轤成形。外面に自然釉かかる。	①良②暗灰③細砂少
107-2	須恵器 壺G	胴下半	底径 4.7	轆轤成形右廻り。底部回転糸切り。外面に自然釉。	①良②オリープ灰③石粒多
107-3	灰釉陶器 瓶			轆轤成形。	①良②灰③砂粒含
107-4	灰釉陶器 瓶	肩部片		轆轤成形。外面全体に施釉。	①良②灰③白色粒少
107-5	須恵器 壺	1/4残存		轆轤成形。底部手持ヘラ調整。	①良②灰白③砂粒含
107-6	須恵器 壺	破片	底径 12.0	轆轤成形。付高台。	①良②灰③砂粒含
107-7	須恵器 壺	破片		外面漆付着。	①良②灰③砂粒含
107-8	須恵器 壺	破片		内面底部に漆付着。	①良②灰③砂粒含
107-9	須恵器 壺	破片		内面薄く塗ったように付着。?	①良②灰③砂粒含
107-10	須恵器 壺	破片		内外面割れ面漆付着。	①良②灰③砂粒含
107-11	須恵器 長頸壺		最大径 18.6	轆轤成形。底部に漆が溜った状態で出土。漆容器として使用したものか。肩部にも漆付着。	①良②灰③砂粒含
107-12	須恵器 壺	破片		内面漆付着。	①良②灰③砂粒含
107-13	須恵器 壺	底部片	底径(9.7)	轆轤成形右廻り。底部回転ヘラ削り。付高台横ナデ。	①良②灰色③白色粒・片岩多
107-14	土師器 甕	1/4残存	口径 15.5	外面口縁部横ナデ。胴部刷毛目。内面口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。	①良②赤褐③砂粒含
107-15	土師器 甕	破片	口径 13.0	内外面口縁部横ナデ胴部ナデ。	①良②橙③砂粒含
108-1	須恵器 甕	破片		内面漆貼付。	①良②灰③砂粒含
108-2	須恵器 甕	破片		内面漆貼付。外面付着。	①良②灰③砂粒含
108-3	須恵器 甕	破片		内面固まって残る。?	①良②赤褐③砂粒含
108-4	須恵器 甕	破片		内面漆貼付。	①良②灰③砂粒含
108-5	須恵器 甕	破片		内面漆貼付。外面漆付着。	①良②灰③砂粒含
108-6	須恵器 甕	破片		内面漆貼付。	①良②灰白③砂粒含
108-7	須恵器 甕	破片		内面漆貼付。	①良②灰白③砂粒含
108-8	須恵器 甕	破片		内面漆貼付。	①良②灰白③砂粒含
108-9	須恵器 甕	破片		内面漆付着。	①良②灰③砂粒含
108-10	須恵器 甕	破片		内面漆貼付。	①良②灰③砂粒含
108-11	須恵器 甕	破片		内面漆貼付。	①良②灰③砂粒含
109-1	羽 口	一部欠		外面ナデ。先端部発泡著しい。	①良②橙③砂粒含
109-2	羽 口	一部欠		外面ナデ。先端部発泡著しい	①良②橙③砂粒含
109-3	台 石	欠		700 g	粗粒安山岩
109-4	台 石			1,440 g	粗粒安山岩
112-1	土師器 坏	破片	口径 15.8	外面口縁部中位に稜をもち横ナデ。体部ヘラケズリ。内面ナデ。模倣坏。	①良②橙③砂粒含
112-2	土師器 坏	完形	12.5× ー× 3.9	外面口縁部横ナデ。体部ヘラケズリ後ナデ。内面ナデ。模倣坏。	①良②橙③砂粒含
112-3	須恵器 蓋	破片		轆轤成形。擬宝珠つまみ。外面回転ヘラ調整。	①良②灰③砂粒含
112-4	須恵器 坏	底部1/4	底径(13.4)	轆轤成形右廻り。腰部削出し高台。底部回転ヘラ削り。	①良②灰白③白色粒微
112-5	須恵器 坏	完形	13.8× 6.1× 4.1	轆轤成形。底部回転糸切、右廻り。	①良②灰白③砂粒含
112-6	須恵器 坏	1/4残存	12.8× 6.4× 4.4	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰褐③砂粒含
112-7	須恵器 椀	破片	口径 14.6	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰③砂粒含
112-8	内黒土器 椀	1/2残存	口径 14.8	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。付高台欠落。内面吸岩全面黒色	①良②にぶい橙③砂粒含
112-9	須恵器 坏	完形	12.8× 7.0× 4.0	轆轤成形。底部回転ヘラ切。口唇内側に漆付着。	①良②灰白③砂粒含
112-10	須恵器 椀	底部残存	底径 7.8	轆轤成形。底部回転ナデ調整。付高台。	①良②灰③砂粒含
112-11	須恵器 椀	破片		轆轤成形。底部回転ヘラ切。付高台。	①良②灰③砂粒含
112-12	須恵器 長頸壺	口縁部残	口径 10.0	轆轤成形。頸部に2条沈線巡る。	①良②灰③砂粒含
112-13	須恵器 壺	胴上半1/4	口径(5.0)	轆轤成形。	①並②灰白③細砂少
112-14	須恵器	3/4残存	10.1× 5.0× 2.4	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②淡黄③砂粒含
112-15	須恵器 皿	ほぼ完形	8.8× 5.0× 2.6	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②にぶい黄橙③砂粒含
112-16	須恵器 皿	ほぼ完形	9.7× 5.3× 2.1	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②にぶい橙③砂粒含
112-17	須恵器 皿	3/4残存	10.4× 5.7× 2.1	轆轤成形。底部静止に近い状態の糸切。	①良②淡黄③砂粒含



遺物観察表

図 No	器種	残存部位	口径×底径×高さcm	器形・成形・整形の特徴・その他	①焼成②色調③胎土
112-18	紡錘車			須恵器碗の底部の転用。	①良②にぶい橙③砂粒含
112-19	土師器 甕	口縁部破片	口径 20.0	外面口縁部横ナデ。胴部ヘラケズリ。内面ヘラナデ。	①良②にぶい橙③細砂粒含
113-1	土師器 甕	破片	口径 15.8	外面口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面ナデ。	①良②橙③砂粒含
113-2	土 釜	破片	口径 28.0	外面口縁部横ナデ。胴部ヘラケズリ。内面横ナデ。	①良②橙③砂粒含
113-3	須恵器 甕	破片		外面叩き。内面ナデ。	①良②灰③砂粒含
113-4	敲 石	完		120 g	緑色変岩
113-5	磨 石	欠		41 g	軽石(Hr-FP)
115-1	土 釜	口縁部破片	口径 20.0	口縁部直立ぎみに外側へ弱く外湾する。口縁部内外面横ナデ。胴部内外面ナデ。	①良②灰褐色③砂粒多
115-2	須恵器 碗	底部破片	底径 9.4	轆轤成形。付高台。高台ハの字に開く。底部周辺回転。	①良②灰白③細砂粒含
115-3	平 瓦	破片		面取り一面。外面ナデ。内面布目。剥取り痕残。	①良②灰白③白色粒含
116-1	須恵器 皿	1/4残存	9.0×4.4×2.0	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②にぶい橙③砂粒多
116-2	須恵器 皿	1/4残存	10.4×5.6×2.9	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②にぶい橙③砂粒多
116-3	須恵器 皿	底部1/4残存	底径 7.4	轆轤成形。底部回転糸切。底部周辺回転調整の凹凸あり。底部内面中心部凸部残る。	①良②褐灰③細砂粒含
117-1	須恵器 皿	1/4残存	8.0×5.2×2.0	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②にぶい橙③細砂粒含
117-2	須恵器 皿	1/4残存	9.6×5.2×2.2	轆轤成形。底部回転糸切。口縁下部に弱い稜。	①良②にぶい橙③砂粒含
117-3	土師器 坏	底部残存	底径 7.5	轆轤成形。底部回転糸切。	①良②褐灰③砂粒含
119-1	須恵器 蓋	1/4残存	13.5×—×2.9	轆轤成形。外面回転ヘラ調整。環状溝。端部内面弱く凸帯。外面凹線状に凹む。内面自然釉。	①良②灰白③白黒色粒多
119-2	須恵器 皿	1/4残存	16.2×6.0×3.6	轆轤成形。底部回転糸切右廻り。口縁端部内側へ短くへこむ。蓋の可能性もある。	①良②にぶい橙③砂粒含
119-3	土 釜	底部破片	—×12.5×—	底部外面多量の砂付着。外面ヘラ調整。内面ナデ。	①良②赤褐色③砂多量含
119-4	土 釜	底部1/4残存	—×11.0×—	底部砂多量に付着。外面ヘラ調整。内面ナデ。	①良②橙③砂粒含
119-5	土 釜	口縁部片	29.0×—×—	口縁部外側へ屈曲する。外面口縁部横ナデ。胴部ヘラナデ。内面ナデ。	①良②橙③砂粒含
119-6	土 釜	口縁部片	29.0×—×—	口縁部直線状に外傾する。外面口縁部横ナデ。胴部ナデ。内面口縁部横ナデ。内面ナデ。	①良②にぶい橙③砂粒含
119-7	土 釜	口縁部片	24.0×—×—	口縁部短く外側へ屈曲する。口縁部内外面横ナデ。胴部外面ヘラ調整。内面ナデ。	①良②赤褐③砂粒含
120-1	羽 釜	口縁部片	19.2×—×—	口縁部内傾し。端部は外側へ屈曲する。鏝は断面三角形形状を呈し、横へ延びる。	①良②にぶい橙③細砂粒含
121-1	須恵器 皿	1/4残存	7.8×4.2×1.8	底部回転糸切右廻り。口縁部弱く内湾して外傾する。底部外面やや凹む。	①良②にぶい褐③砂粒含
121-2	須恵器 皿	完形	8.2×4.6×2.0	底部回転糸切右廻り。底部外面1/2。内面口縁部付近一部にすすが付着。	①良②にぶい橙③細砂粒含
121-3	須恵器 皿	ほぼ完形	9.7×4.7×2.0	底部回転糸切右廻り。口縁部腰弱く張り。端部外側へ屈曲する。	①良②にぶい橙③砂粒含
121-4	須恵器 皿	1/4残存	9.8×5.6×1.9	底部回転糸切右廻り。口縁部弱く内湾ぎみに外傾する。	①良②灰黄褐③細砂粒含
121-5	須恵器 碗	高台部残存	—×8.0×—	轆轤成形。底部回転調整。付高台。高台ハの字に直線状にやや長く開く。	①良②灰白③細砂粒含
122-1	須恵器 坏	体部1/4	(15.0)×7.8×4.0	底部回転糸切り。	①良②にぶい橙③砂粒多
122-2	須恵器 皿	1/4残存	9.2×5.3×1.8	底部回転糸切右廻り。口縁部ほぼ直線状に外傾する。	①良②灰白③細砂粒含
122-3	黒色土器A 碗	高台部欠損	15.2×—×—	底部回転調整。付高台欠落。外面轆轤成形後部分的にヘラによる調整。内面全面磨き。	①良②橙③細砂粒含
122-4	土 釜	胴上半1/4	口径(27.0)	内外面ヘラナデ。口縁部横ナデ。	①良②赤褐③砂粒多
122-5	砥 石	欠			デイスait
123-1	羽 釜	口縁部破片	口径 18.2	口縁部弱く内傾ぎみで、鏝上を向く。口縁部ヨコナデ。内面ヘラナデ。	①良②橙③砂粒多
123-2	羽 釜	口縁部破片	口径 27.0	口縁部直立ぎみで鏝横へ向く。外面口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。内面ヘラナデ。	①良②にぶい橙③砂粒多
124-1	平 瓦	破片		端面面取1面。表面布目。裏面ヘラナデ。	①良②灰③小石含
124-2	平 瓦	破片		側部端面面取り2面。表面布目。裏面縄目叩き。	①良②灰③砂粒多
124-3	平 瓦	破片		端面面取1面。表面布目。裏面ナデ。	①良②灰③砂粒含
124-4	平 瓦	破片		端面面取1面。表面ヘラ状ナデ。裏面布目。	①良②暗灰③小石含
125-1	須恵器 皿	1/4残存	8.8×4.4×1.9	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②浅黄橙③細砂粒含
125-2	須恵器 皿	底部残存	底径 4.2	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②淡橙③砂粒含

## 遺物観察表

図 No.	器種	残存部位	口径×底径×高さcm	器形・成形・整形の特徴・その他	①焼成②色調③胎土
127-1	須恵器 椀	1/6残存	15.6×7.8×5.1	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。口縁部直線状に外傾する。	①良②灰白③黒色粒砂粒含
127-2	須恵器 椀	1/4残存	13.9×7.0×4.9	轆轤成形。口縁部弱く外反する。底部回転糸切付高台低くハの字状に開く。	①良②灰白③細砂粒含
127-3	須恵器 皿	3/4残存	13.5×6.5×3.8	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。高台短く下方を向く。	①良②灰白③細砂粒含
127-4	須恵器 椀	底部残存	底径7.2	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。底部高台内側周辺回転ナデ。	①良②明褐色③砂粒含
127-5	須恵器 椀	底部残存	底径6.0	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。底部高台内側周辺回転ナデ。	①良②灰③細砂粒含
127-6	黒色土器 椀	底部残存	底径7.0	轆轤成形。付高台。底部回転糸切後回転調整。高台短く下方を向く。内面黒色。	①良②橙③細砂粒含
127-7	須恵器 椀	底部残存	底径6.5	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。底部高台内側周辺回転ナデ。	①良②灰白③砂粒含
127-8	須恵器 椀	底部破片	底径6.8	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。	①良②灰③砂粒含
128-1	土師器 甕	口縁部残存	口径16.2	口縁部くの字に外反する。口縁部内外面横ナデ。頸部内外面ヘラ調整。ヘラナデ。	①良②橙③砂粒多量含
129-1	土 釜	胴上半1/2	口径(14.0)	口唇部外反。輪積み痕を残す。外面縦位の粗い指ナデ。内面横位の粗いナデ。	①良②赤灰③粗砂粒多
130-1	土師器 坏	1/6残存	口径13.0	模倣坏。口縁部内外面ナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ナデ。	①良②にぶい橙③細砂粒含
130-2	土師器 直口壺	完形	9.5×—×12.1	口縁部外反する。外面口縁部横ナデ。胴部ヘラケズリ。内面口縁部横ナデ。胴部ナデ。	①良②橙③砂粒含
130-3	須恵器 椀	1/6残存	12.5×5.8×4.5	轆轤成形。口縁部外反する。付高台。底部回転糸切。高台短かく下方へ向かう。	①良②灰白③砂粒多
130-4	土師器 坏	口縁部破片	口径15.0	口縁部外反する。内外面ともにヘラナデ。ナデ。	①良②にぶい橙③黒色粒多
130-5	緑釉陶器 碗	口縁部破片	口径14.1	口縁部先端短く外反する。内外面緑釉。	①良②断面オリブ灰③細砂粒含
130-6	須恵器 椀	底部1/2残存	底径7.5	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。高台短く外へ弱く開く。	①良②灰白③白色粒含
130-7	須恵器 椀	底部1/2残存	底径6.0	轆轤成形。付高台。底部回転調整。高台は断面四角で外へ開く。	①良②灰黄③黒色鉱物含
130-8	須恵器 椀	高台部3/4残存	底径6.5	轆轤成形。付高台。足高高台。高台の装着面には糸切痕残る。ハの字に開く。	①良②灰白③細砂粒含
130-9	須恵器 椀	底部残存	底径6.0	轆轤成形。付高台。高台ハの字状に開く。	①良②浅黄③砂粒含
130-10	須恵器 椀	底部1/2残存	底径6.0	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。高台短い。	①良②灰白③細砂粒含
130-11	須恵器 椀	底部3/4残存	底径6.5	轆轤成形。付高台。底部回転糸切。周辺回転調整。高台断面丸く低い。	①良②にぶい黄橙③砂粒多
130-12	須恵器 坏	底部破片		轆轤成形。底部回転糸切。周辺回転ケズリ調整。底部外面墨書。	①良②灰③砂粒含
130-13	羽 釜	口縁部破片	口径18.0	轆轤成形。口縁部内傾し、鐸は横を向く。鐸の下から内傾する。内外面スズで黒色。	①良②灰白③砂粒含
132-1	丸 瓦	破片		側部面取り2面。凸面ナデ。凹面布目。	①並②灰白③砂粒少
132-2	須恵器 盤	口縁部破片	口径(24.0)	轆轤成形。底部回転ヘラナデ。底部端に沈線1条めぐる。	①良②灰③細砂少
132-3	五輪塔	完		空風輪	角閃石安山岩
132-4	五輪塔	完		空風輪 6.39 kg	粗粒安山岩
132-5	五輪塔	完		空風輪 5.54 kg	粗粒安山岩
132-6	五輪塔	完		空風輪 2.75 kg	角閃石安山岩
132-7	垂飾玉	欠		1.5 g	滑石
133-1	銭 貨	完形		元豊通寶	
133-2	銭 貨	完形		絵銭か?	
133-3	〃	〃		絵銭「大福」	
136-1	軟質陶器 鉢	破片	口径31.2	口縁端部肥厚し内傾する。内外面ナデ。内面使用痕か表面磨減し、なめらかである。	①良②灰③砂粒含
136-2	陶器 小皿	3/4残存		轆轤成形。削出し高台。見込環状痕。内外面灰釉。	①良②浅黄③細砂少
138-1	内耳ナベ	1/6残存	(30.8)×—×(16.5)	内外面横位ヘラナデ。	①良②灰黒③砂粒少
140-1	土師質土器 坏	1/6残存	14.8×6.4×4.5	轆轤成形。底部回転糸切。	①良②灰白③細砂粒含
140-2	土師質土器 坏	完形	14.1×6.4×4.2	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②にぶい黄橙③砂粒含

遺物観察表

図 Na	器種	残存部位	口径×底径×高さcm	器形・成形・整形の特徴・その他	①焼成②色調③胎土
140-3	土師質土器 坏	3/4残存	14.8×6.4×4.5	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②にぶい黄橙③砂粒多
140-4	土師質土器 坏	1/2残存	13.7×6.0×4.2	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②にぶい橙③砂粒多
140-5	土師質土器 坏	1/2残存	15.1×6.8×4.6	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰白③細砂粒含
140-6	土師質土器 坏	1/4残存	13.9×6.2×4.5	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②にぶい黄橙③砂粒、白色粒含
140-7	土師質土器 坏	1/4残存	14.3×6.2×3.7	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②浅黄③砂粒多
140-8	土師質土器 坏	1/4残存	13.8×3.2×4.2	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②にぶい黄橙③細砂粒含
140-9	土師質土器 坏	底部残存	—×6.5×—	轆轤成形。底部回転糸切。右廻り。	①良②灰白③細砂粒含
140-10	須恵器 椀	底部残存	—×9.0×—	轆轤成形。付高台。薄くハの字状に開く。底部回転調整。	①良②にぶい黄橙③細砂粒含
140-11	転用硯	周辺部欠		須恵器甕の胴部を楕円形に打ち欠いて調整。墨痕残る。	
143-1	磁器 碗	1/2残存		染付	①良②浅青灰
143-2	陶器 碗	3/4残存		灰釉	①良②浅緑灰
143-3	青 磁	破片		外面に蓮弁	①良②緑灰③密
143-4	台 石			1.58 g 表面被熱	粗粒安山岩
146-1	宝篋印塔	完		18.55 kg。笠部。	粗粒安山岩
146-2	五輪塔	一部欠		火輪	角閃石安山岩
147-3	五輪塔	一部欠		水輪	角閃石安山岩
147-4	石臼下玉	一部欠			粗粒安山岩
162-1	陶器 碗	完形		広東碗。染付。見込五弁花。	①良②浅灰
162-2	磁器 碗	1/4残存		染付	①良②浅青灰
162-3	軟質陶器 甌	底部片	底径(16.3)	内外面ナデ。底部に数個の円孔。	①並②灰③細砂少
162-4	磁器 碗	1/4残存		広東碗。染付。	①良②浅青灰
162-5	磁器 碗	1/2残存		染付	①良②浅青灰
162-6	磁器 小鉢	1/4残存			①良②浅青灰
162-7	磁器 碗	1/2残存		染付	①良②浅青灰
162-8	陶器灯明受皿	完形		内面鉄釉	①良②こげ茶
162-9	陶器灯明受皿	1/2残存		内面鉄釉	①良②こげ茶
162-10	陶器灯明皿	破片		内面鉄釉	①良②こげ茶
162-11	石臼上玉	1/2残存			粗粒安山岩
162-13	陶器灯明皿	1/4残存		内面鉄釉	①良②茶
162-14	銭 貨	完形		寛永通宝	
162-15	銭 貨	完形		一銭銅貨。明治八年	
162-16	銭 貨	完形		一銭銅貨。明治一八年	
163-1	軟質陶器 火鉢	胴下半		円筒形。轆轤成形。底部ナデ。施釉なし。	①並②灰白③砂粒多
163-2	砥 石	欠		100 g	砥沢石
163-3	磁器 碗	胴下半		内外面と見込に染付。	①良②浅青灰
163-4	軟質陶器 乗 櫛	完形	4.3×2.5×1.8	内外面ヘラ調整後ナデ。口唇部横ナデ。底部ヘラ調整。芯部に使用による黒煙付着	①並②橙③細砂微
163-5	陶器小皿?	完形		口縁部受け口。轆轤成形。底部回転糸切。施釉なし。	①良②黄白③砂粒少
163-6	銭 貨	完形		寛永通宝	
163-7	銭 貨	完形		寛永通宝	
163-8	銭 貨	完形		文久永宝	
163-9	銭 貨	完形		寛永通宝	
163-10	砥 石			24.4 g	軽石
163-11	軟質陶器 十 能	柄部と体部一部欠		裏面に型肌が明瞭に残る。表面はていねいなナデ仕上げ。	①並②灰白③砂粒少
163-12	銭 貨	完形		寛永通宝。ウラナミ。	
163-13	銭 貨	完形		寛永通宝	
163-14	砥 石	欠		63 g	砥沢石
164-1	銭 貨	完形		寛永通宝。ウラナミ。	
164-2	銭 貨	完形		寛永通宝	
164-3	銭 貨	完形		寛永通宝	
164-4	銭 貨	完形		寛永通宝	
164-5	銭 貨	完形		寛永通宝	
164-6	銭 貨	完形		寛永通宝	

## 遺物観察表

図 No	器種	残存部位	口径×底径×高さcm	器形・成形・整形の特徴・その他	①焼成②色調③胎土
164-7	磨製石鏃	欠		基部に円孔	珪質準片岩
164-8	銭貨	完形		寛永通宝	
164-9	陶器火もらい	一部欠		橋状持ち手が付く。背に円孔。轆轤成形。釉なし。	①並②茶褐③砂粒多
172-1	砥石	一部欠		168 g	砥沢石
172-2	砥石	一部欠		1.38 kg。偏平円礫を使用。一部に調整あり。	変質安山岩
172-3	石臼上玉	1/2残存		5.37 kg	手伏砂岩
172-4	砥石	一部欠		760 g	流紋岩
172-5	硯	一部欠		102 g	珪質頁岩
172-6	石製品	一部欠		180 g。硯の素材の一方に円孔をあける。	蛇紋岩
173-1	石臼上玉	1/2残存			粗粒安山岩
173-2	石臼上玉	1/2残存			粗粒安山岩
173-3	礎石	完			粗粒安山岩
174-1	砥石	完		210 g	砥沢石
174-2	砥石	完		160 g	流紋岩
174-3	砥石	欠		90.5 g	砥沢石
174-4	砥石	完		60 g	流紋岩
174-5	砥石	欠		275 g	〃
174-6	砥石	欠		66.7 g	軽石(Hr-FP)
177-1	陶器カンテラ	把手欠		片口後手形。内外面灰釉。	①並②緑灰③細砂少
177-2	磁器碗	1/2残存		印版染付。	①良②浅青灰
177-3	陶器灯明受皿	1/2残存		内面灰釉	①良②青灰
177-4	土師器 坏	1/2残存	12.8× — × 4.5	外面口縁部横ナデ。体部ヘラケズリ。内面ナデ。	①良②明橙③砂粒含
177-5	土師器 坏	完形	12.2× — × 3.7	外面口縁部横ナデ。体部ヘラケズリ。内面ナデ。	①良②明橙③砂粒含
177-6	陶器 皿				
177-7	土師器 坏	1/2残存	12.1× — × 3.4	外面口縁部横ナデ。体部ヘラケズリ。内面ナデ。	①良②明橙③細砂粒含
177-8	土師器 坏	1/2残存	口径 12.0	外面口縁部横ナデ。体部ヘラケズリ。内面ナデ。	①良②明橙③細砂粒含
177-9	陶器 渡瓶	口部欠		上部紐手付。外面あめ釉。	①良②あめ色③砂粒少
177-10	陶器 捏鉢	1/2残存		肥厚口縁。把手なし。内外面灰釉。見込に目痕。	①並②浅緑灰③砂粒少
177-11	灰釉陶器瓶	底部片		轆轤成形。内外面灰釉かかる。中世。	①良②灰③砂粒少含
177-12	須恵器 椀	1/2残存	14.6× 5.6× 6.0	轆轤成形。底部回転糸切。付高台。	①良②灰白③砂粒含
177-13	須恵器 蓋	破片		轆轤成形。つまみが付くであろう。	①並②灰③砂粒少
177-14	土師器 坏	1/2残存	10.4× — × 3.0	外面口縁部横ナデ。体部ヘラケズリ。内面ナデ。	①良②橙③細砂粒含
177-15	須恵器 壺		底径 12.0	轆轤成形。底部回転ヘラ調整。付高台。	①良②灰③砂粒含
178-1	敷居石	欠		扉枠を入れる溝と開き扉の円形穴が付く。	粗粒安山岩
178-2	敷居石	欠			粗粒安山岩
178-3	礎石	欠			粗粒安山岩



# 写 真 图 版





1 南側上空から遺跡周辺の地形を望む



2 遺跡遠景（南から） 中央に元総社小学校、その裏の森が元総社神社、小学校の東側が調査区





1 WB区 As-YP層直下の地形面（北から）かなり凹凸がある



2 同1（南から）



3 同1（南から）



4 同1



5 同1



1 WB区As-YP下確認調査状況



2 同1



3 同1



4 同1



5 同1



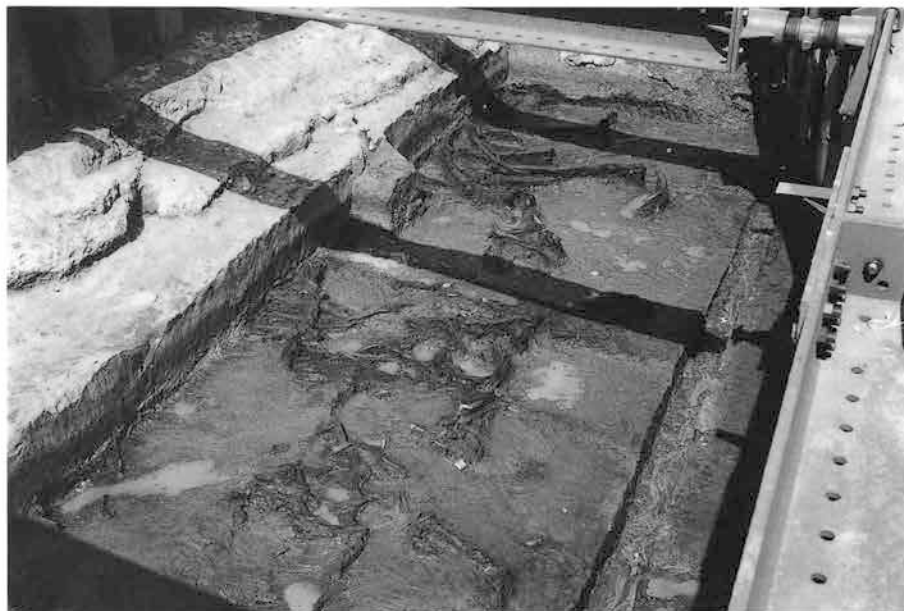
6 同1



7 同1



8 同1



1 VI B区As-YP層下埋没林の出土状況



2 同1



3 同1



1 VI B区As-YP層下埋没林の出土状況（根材）



2 同1

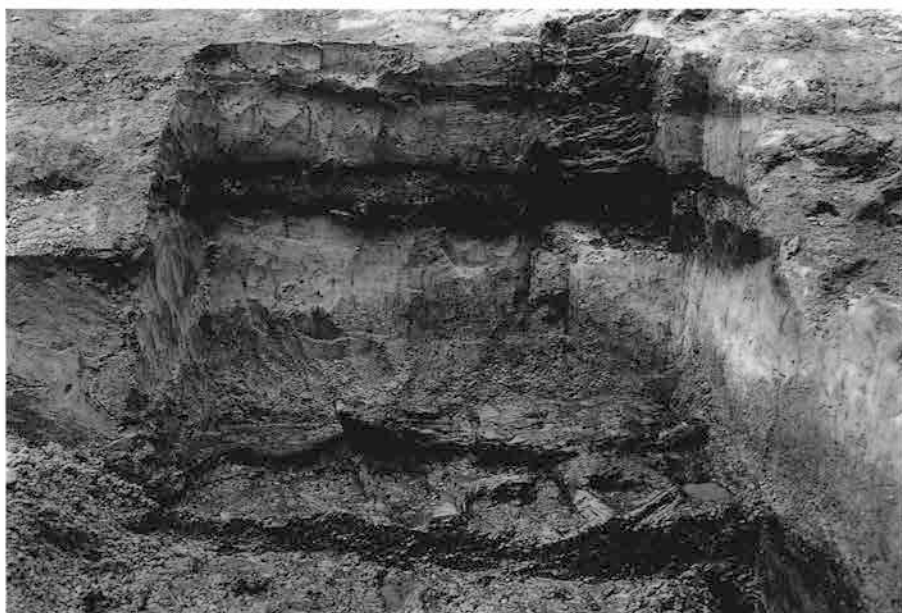


3 同1（幹材）





1 VI B区As-YP層下埋没林の出土状況（幹材）



2 同1



3 同1



1 VI B区 旧石器確認調査区の土層



2 同1



3 同1



4 同1



5 VI B区XVI層以下の確認調査



6 VII区南側 XII~XV層上面の土層



7 VII区 1号遺物集中地点 (縄文)



8 VII区 168号土坑 (縄文)





1 VII区 8号住居



2 VII区 8号住居 遺物出土状況



3 同2



4 同2



5 同1 柱穴の形状



1 VII区 9号住居



2 VII区 12号住居



3 VII区 12号住居 遺物出土状況



4 VII区 同2 炉



5 VII区 1号住居



6 VII区 10号住居



7 VII区 7号住居



8 同7 遺物出土状況





1 VII区 8号溝 (北から) 手前は低地、中央の溝は中世の5号溝



2 同1 (南から)



3 同1 覆土上面のHr-FA・FPF-1層



4 VII区 13号溝



5 同4 遺物出土状況



1 VII区 Hr-FA下畠



2 同1 火山灰が全面を覆う



3 VI区低地 X層面、白い部分が台地部



4 同3 X層近景



5 VI区低地 VIII層以下の土層(上方階段下がAs-C層面)



6 同3 X層中の流木



7 同6



8 同6 サンプル





1 VI区 As-C層下水田 (北から)



2 同1 台地周辺の状況



3 同1



4 同1 1号溝セクション



5 同4



1 VI区 As-C層下水田確認状況



2 VI区 As-C層下水田1号溝堰杭



3 VI区 As-C層下水田2号溝



4 同3 セクション



5 VI区 As-C層下水田3号溝



6 同5 南側



7 VI区 低地VI・VII層



8 VI区低地IV～VIII層



1 VI区 VI層下面 遺物出土状況 (北半部)



2 同1



3 同1



4 同1



5 同1



6 同1



7 同1



8 同1





1 VI区 VI層下面 遺物出土状況（南半部）



2 同1 セクション



3 同2 As-C層の二次堆積状況



4 同3



5 同2



6 同1



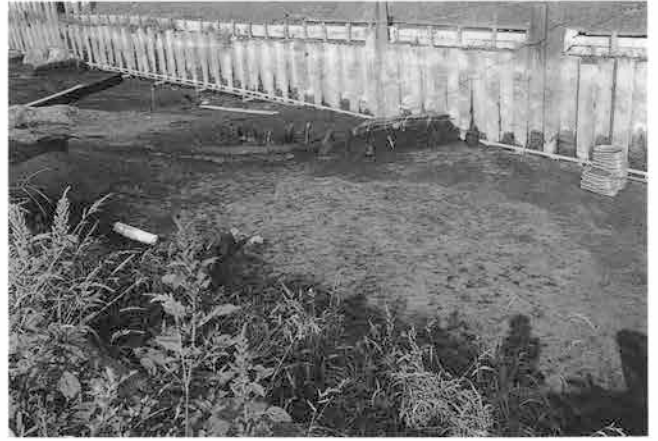
7 同1



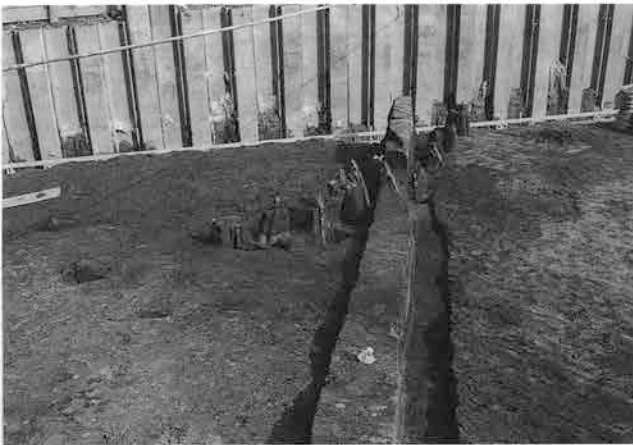
8 同1



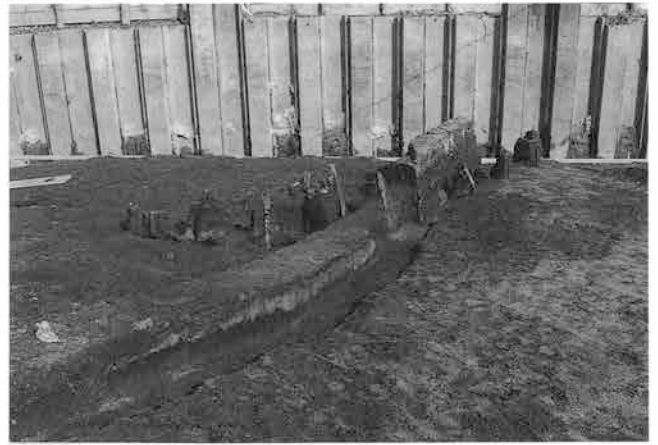
1 VI区 VI層下面杭列の確認



2 同1



3 同1



4 同1



5 同1



6 同1



7 同1



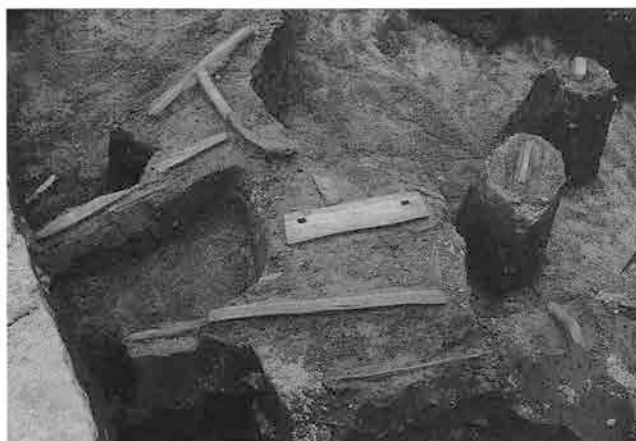
8 同1



1 VI区 VI層上面遺物出土状況(北半部)



2 同1



3 同1

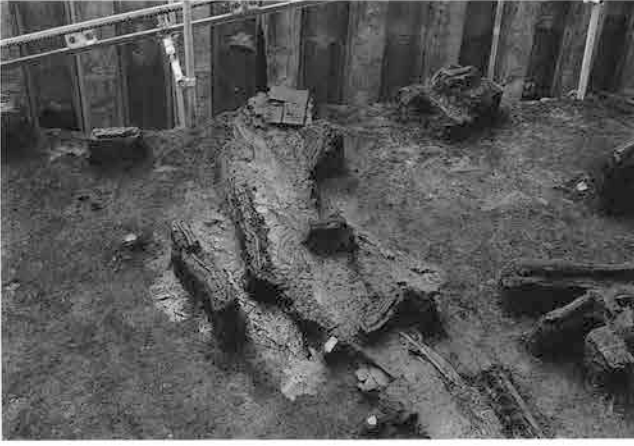


4 同1



5 同1





1 VI区 VI層上面遺物出土状況(北半部)



2 同1



3 同1



4 同1



5 同1



6 同1 (南半部)



7 同6



8 同6



1 VI区 VI層上面遺物出土状況



2 同1



3 VII区 低地VI層中の遺物出土状況



4 同3



5 同3





1 VI区 Hr-FA層直下の状況



2 同1 溝状のくぼみ



3 同1



4 同1 Hr-FA直下のヨシ



5 同4



1 VI区 3号土坑と石敷(北から)



2 VI区 3号土坑セクション



3 VI区 3号土坑完掘状況



4 同1 (東から)



5 同1 (南から)



6 同1 石敷下の盛土断面



7 同6



8 同1 盛土下の掘形



1 VI区 4号・5号土坑



2 VI区 6号土坑



3 VI区 9号溝



4 同3 セクション



5 VI区 低地北側Ⅲ層中の漆器



6 同5



7 同5 Ⅲ層中の木器



8 同5 Ⅲ層中の馬骨





1 VI区 低地南半、河道跡の調査



2 同1 排水溝断面



3 同2 III層の堆積状況



4 同3



5 同1 1号河道(南から)



1 VI区 2号河道遺物出土状況



2 同1 (南から)



3 同1 セクション



4 同1



5 同1



1 VI区 2号河道遺物出土状況



2 同1



3 同1 骨類



4 同1 骨類



5 同1



6 同1 人形(71)



7 同1 人形(68)



8 同1 人形(68)





1 VI区 3号河道遺物出土状況（北から）



2 同1（東から）



3 同1（西から）



4 同1（南から）



5 同1



6 同1



7 同1



8 同1 排水溝断面



1 VI区 4号河道遺物出土状況（南から）



2 同1



3 同1



4 同1



5 同1



6 同1



7 同1



8 同1 琴柱状木製品 (78)



1 VI区 5号河道遺物出土状況(南東から)



2 同1



3 同1



4 同1 底面のポットホール



5 同1



6 同4



7 同4



8 同1 墨書のある曲物底板(83)





1 VI区 最南部III層中の調査



2 同1 セクション



3 同1 III b層下面遺物出土状況(南から)



4 同3 (東から)



5 同1 III b層中炭化穀類の出土状況



6 同5



7 同5



8 同5 木筒状木製品(79)



1 VI区最南部 III b層中炭化穀類出土状況



2 同1



3 VI区最南部 III b層上面遺物出土状況



4 同3



5 VI区南半部 As-B層下確認調査 (南から)



1 VII区北側 河道跡の調査（北から）



2 同1（南から）



3 同1（南から）



4 同1 セクション



5 同4





1 VII区北側 河道跡遺物出土状況



2 同1



3 同1 焼土・炭化物の分布



4 同3



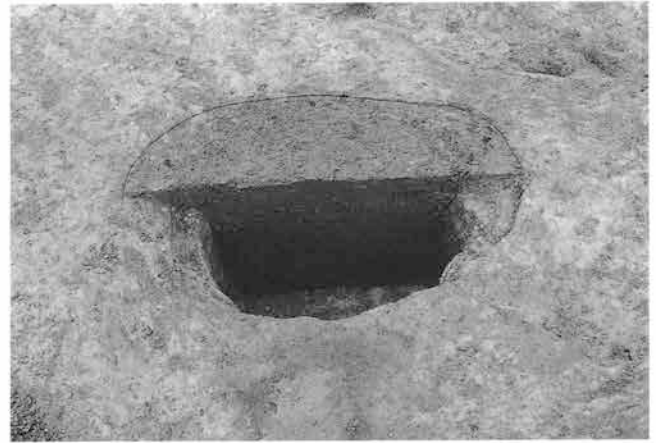
5 VII区 2号住居 (東から)



6 同5 竈



7 同5 竈掘形



8 同5 貯蔵穴



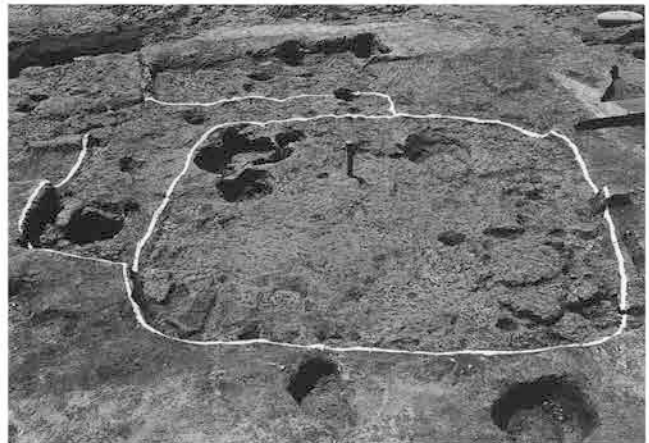
1 VII区 2号・5号住居掘形(東から)



2 VII区 5号住居竈



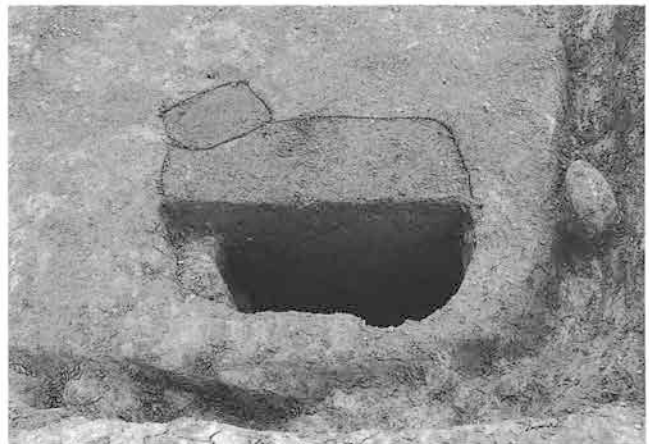
3 VII区 3号・6号住居(北から)



4 同3 掘形(東から)



5 VII区 3号住居竈



6 VII区 3号住居セクション



7 VII区 6号住居竈



8 VII区 6号住居遺物出土状況





1 VII区 6号住居貯蔵穴



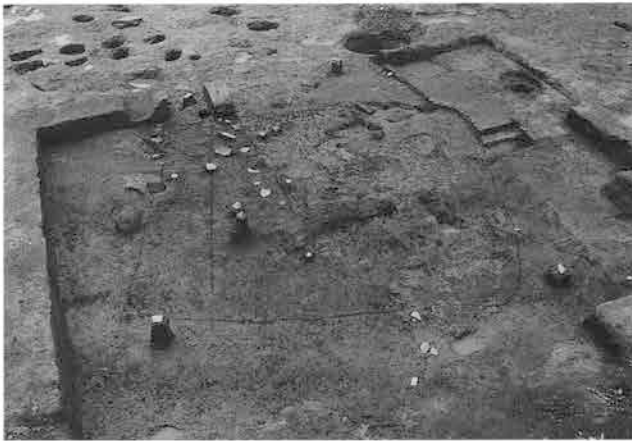
2 同1



3 VII区 4号住居灰層の状況 (東から)



4 同3 掘形 (西から)



5 VII区 11号住居 (東から)



6 同5 セクション



7 同5 竈手前の遺物



8 同5 竈



1 VII区 13号・14号住居（南から）



2 セクション



3 VII区 15号住居（東から）



4 同3 竈



5 同3 竈掘形



6 同3 掘形（東から）



7 VII区 16号住居（東から）



8 同7 セクション



1 VII区 17号住居 (東から)



2 同1



3 VII区 19号住居 (西から)



4 VII区 21号住居 (西から)



5 VII区 20号住居 (東から)



6 同5 床下土坑



7 VII区 14号井戸



8 VII区 15号井戸





1 VII区 4号溝北半部(南から)



2 同1 南半部(南から)



3 同2 遺物出土状況



4 同3



5 VII区 9号溝(南から)



6 同5 セクション



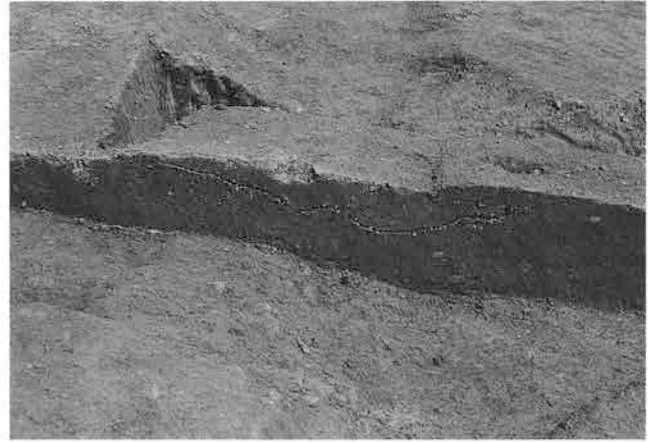
7 VII区 12号溝(南から)



8 同7 セクション



1 VII区 14・15号溝 (南から)



2 同1 セクション



3 VI B区 蒼海城外掘の調査 (南から)



4 同3 調査状況



5 同3 底面出土の五輪塔 空風輪



1 Ⅶ区 5号溝 (南から)



2 同1 セクションC



3 同1 セクションD



4 同1 セクションE



5 同1 掘削時のI区境





1 VII区 5号溝と1号掘の接合部（北西から） 中央に階段状のステップが見える



2 VII区 1号掘セクション



3 同2



4 VII区 8号井戸



5 同4 遺物出土状況





1 VII区 65号土坑



2 VII区 152号土坑



3 VII区 162号土坑



4 同3



5 VI区 台地近世遺構（北から）



1 VI区 2号・3号溝 (南から)



2 VI区 1号畠



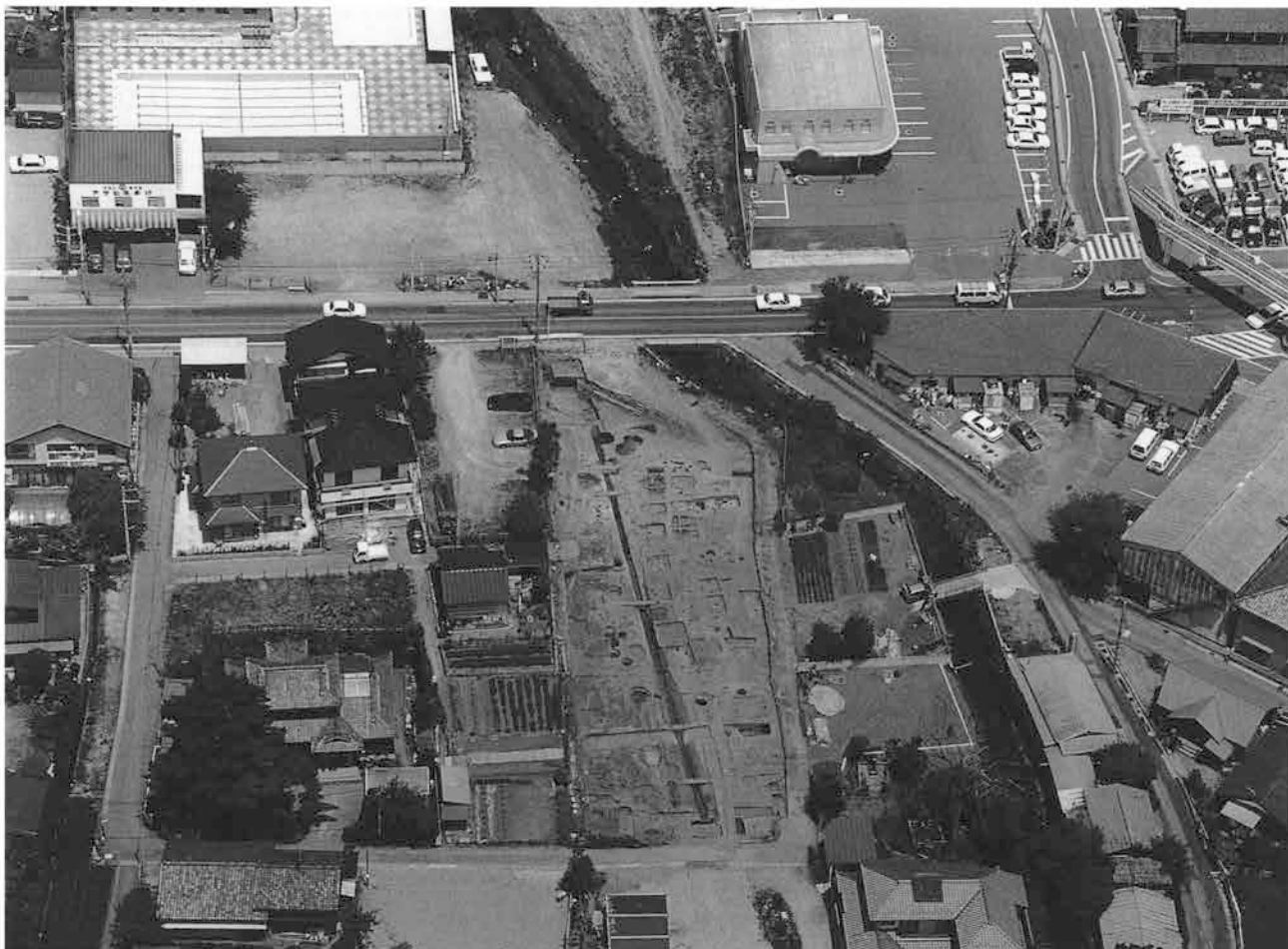
3 VI区 2号土坑



4 VI区 13号土坑



5 VI区 14号土坑



1 VII区 近世遺構全景 (南から)



2 VII区 20号土坑



3 同2 掘形セクション



4 同3



5 同2 掘形





1 VII区 24号土坑 セクション



2 同1 完掘状況



3 同1 掘形セクション



4 同1 掘形



5 VII区 26号土坑



6 同5 セクション



7 同5



8 同5 掘形



1 VII区 45号土坑



2 VII区 58号土坑



3 VII区 52号土坑 セクション



4 同3



5 VII区 60号土坑



6 同5 セクション



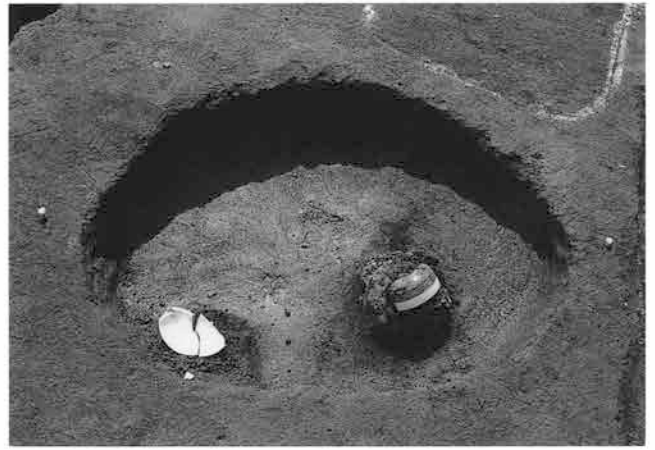
7 同5 掘形



8 VII区 72号土坑



1 VII区 13号土坑



2 VII区 99号土坑



3 VII区 9号土坑



4 VII区 74土坑



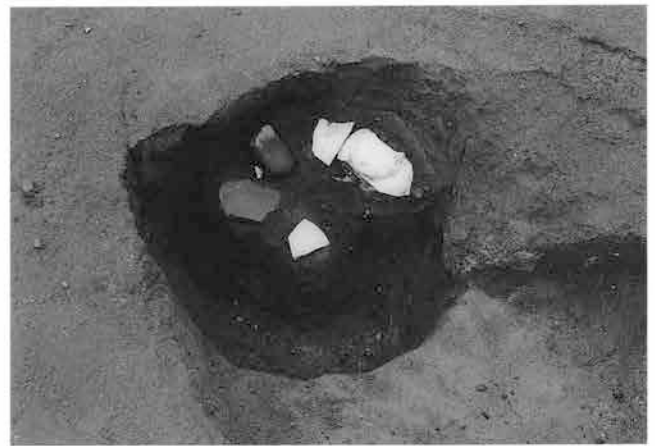
5 VII区 82号土坑



6 VII区 83号土坑



7 VII区 6号土坑



8 VII区 73号土坑

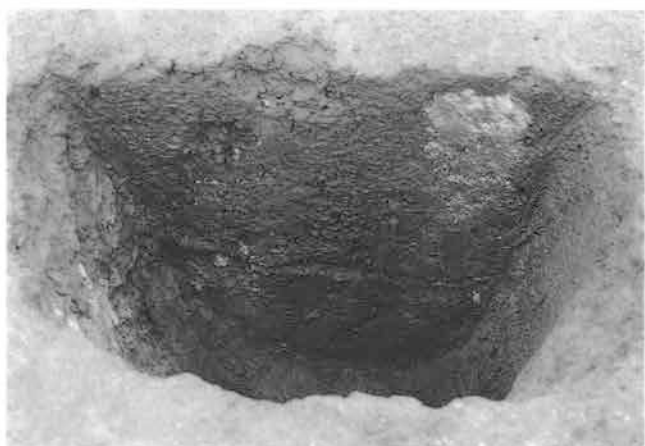




1 VII区 14号土坑



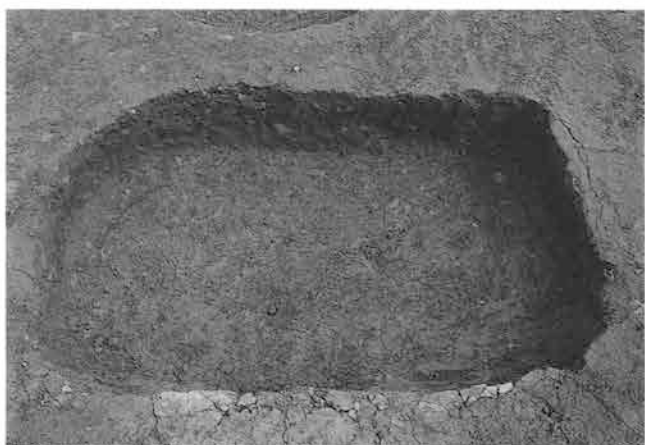
2 VII区 169号土坑



3 VII区 76号土坑



4 VII区 143号土坑



5 VII区 69号土坑



6 VII区 115号土坑



7 VII区 22号土坑



8 VII区 50号土坑



1 VII区 138号·140号·141号土坑



2 VII区 141号土坑



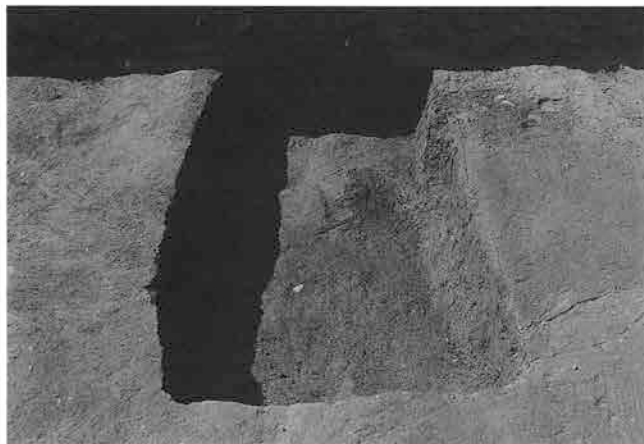
3 VII区 142号土坑



4 VII区 151号土坑



5 VII区 123号土坑



1 VII区 30号土坑



2 VII区 113号土坑



3 VII区 103号土坑



4 VII区 153号土坑



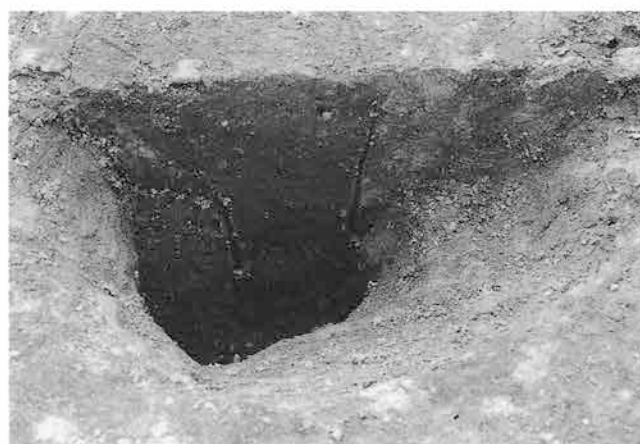
5 VII区 64号土坑



6 同5 柱痕の確認状況



7 同6 柱痕



8 同6 柱痕





1 VII区 67号土坑



2 VII区 70号土坑



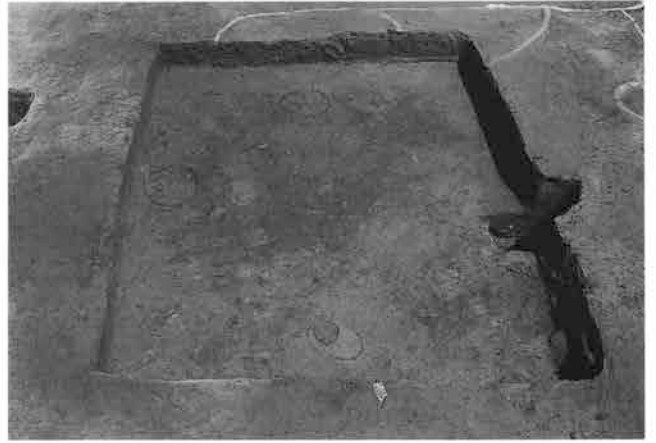
3 VII区 80号・81号土坑



4 VII区 80号土坑 陶製十能出土状況



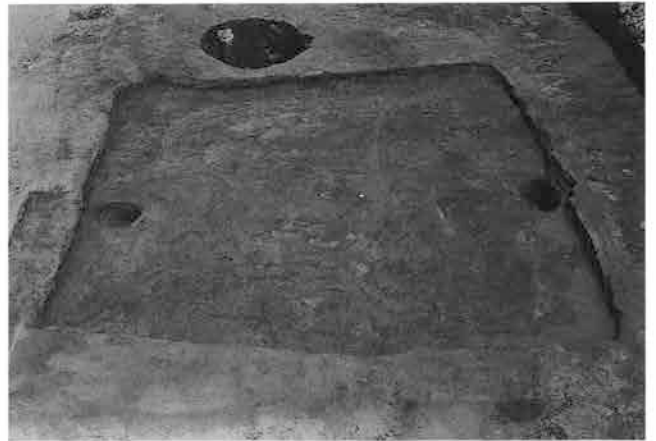
5 VII区 84号土坑セクション



6 同5 柱痕



7 VII区 86号土坑遺物出土状況



8 同7 完掘



1 VII区 87号土坑



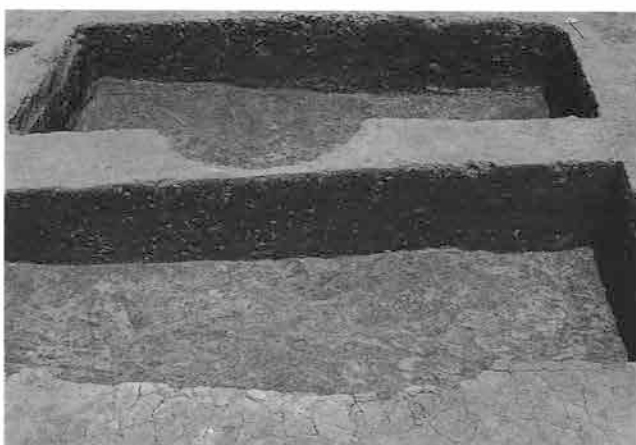
2 同1 掘形



3 VII区 88号土坑



4 同3 掘形



5 VII区 93号土坑 セクション



6 同5 柱痕



7 同6



8 同5 完掘





1 VII区 92号土坑



2 同1 床面の炭化物



3 VII区 110号土坑



4 VII区 117号土坑



5 VII区 92号・112号・117号土坑 セクション



6 同5 完掘



7 VII区 133号土坑



8 VII区 136号土坑



1 VII区 1号土坑 馬齒出土



2 VII区 2号土坑



3 VII区 4号土坑



4 VII区 127号土坑



5 VII区 147号土坑



6 VII区 163号土坑



7 VII区 1号墓壙セクション



8 同7 完掘



1 VII区 2号井戸



2 VII区 3号井戸



3 VII区 4号井戸



4 VII区 6号井戸



5 VII区 5号井戸



6 同5 井戸内出土の礫



7 VII区 7号井戸



8 同7 遺物出土状況





1 VII区 10号・11号井戸セクション



2 同1 完掘



3 VII区 10号井戸



4 VII区 11号井戸



5 VII区 9号井戸



6 VII区 12号井戸



7 VII区 13号井戸



8 VII区 近世墓



1 VII区 南半近世河道



2 同1 セクション



3 同2

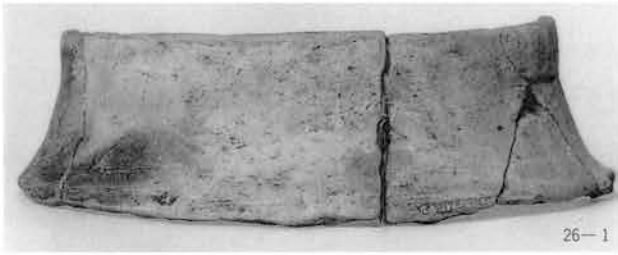


4 同1



5 同1





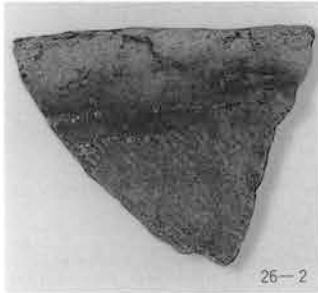
26-1



27-5



27-8



26-2



26-3



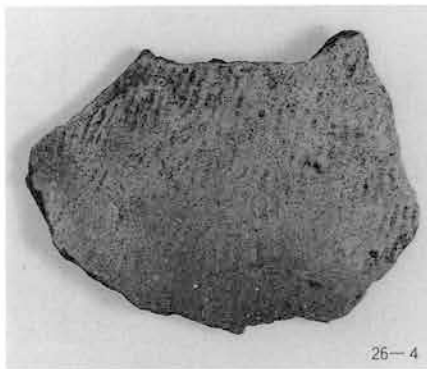
27-9



27-7



27-11



26-4



26-6



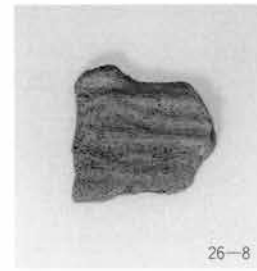
27-10



27-12



26-7



26-8



27-2



27-4



28-1



28-2



27-1



27-6



28-3



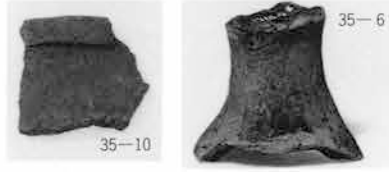
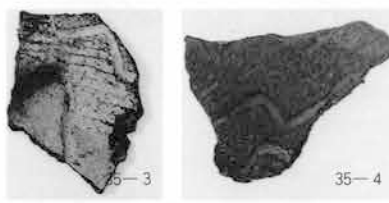
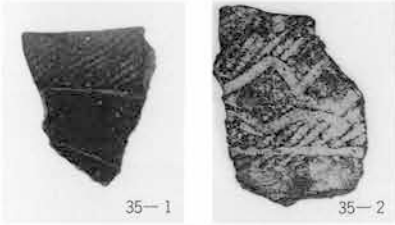
27-3

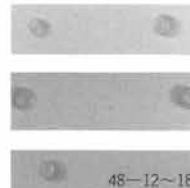


28-4



28-5







49-5



49-9



49-11



49-8



49-10



49-7



49-13



49-14



49-12



50-4



50-1



50-2





50-3



50-5



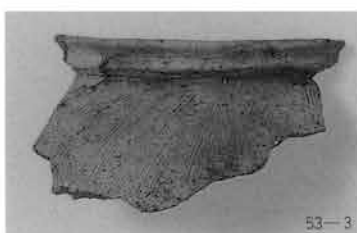
50-6



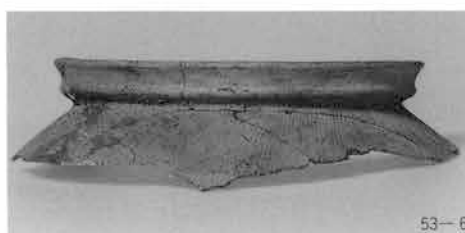
50-7



53-1



53-3



53-6



53-2



53-4



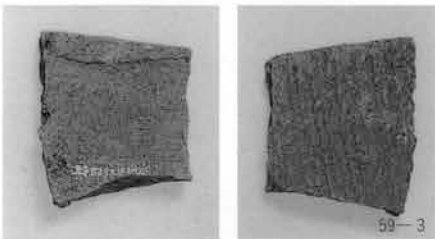
53-7



53-5



53-8





60-1



60-3



60-2



60-4



60-5



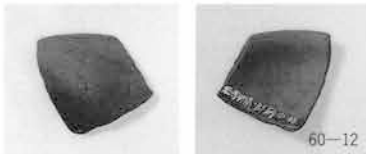
60-7



60-11



60-8



60-12



60-6



60-10



60-14



60-15



60-18



60-19



60-17



59-7



60-20



60-21



60-22



60-24



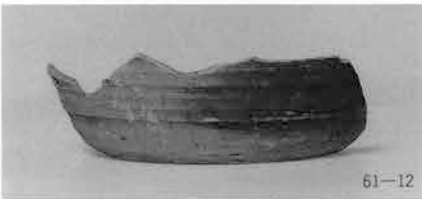
60-23



60-26



60-25







63-1



63-2



63-3



63-4



63-5



63-6



63-7



63-8



63-9



63-10



63-11



63-12



63-13



63-14



63-15



63-16



63-17



63-18



59-6



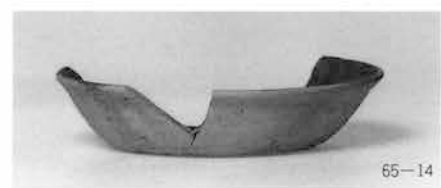
64-8



64-10



64-11



65-14



65-13



65-1



65-10



65-15



65-11



65-6



66-1



66-2



66-4



66-5



66-6



66-7



66-8



66-9



66-12



66-10



66-14



66-11



67-3



67-5



67-6



67-12



67-11



68-4



67-13



68-5



68-1



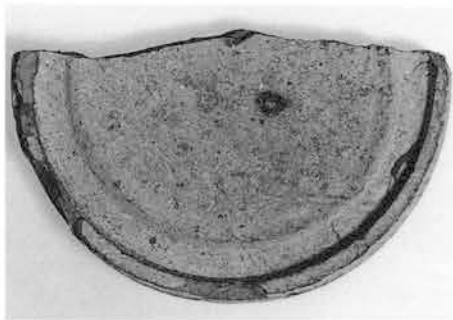
68-3



68-2



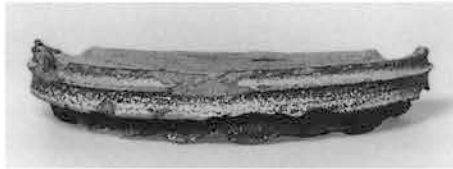
68-9



69-1



68-11



68-7



69-7



69-3



69-2



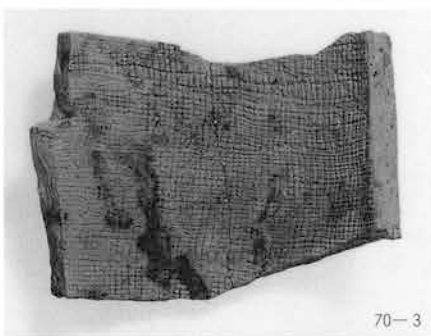
69-4



69-5



70-1



70-3



70-2



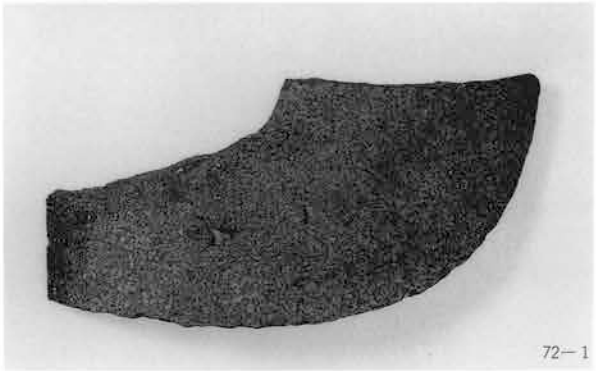
70-5



70-4



70-6







72-2



72-3



72-4



72-6



72-5



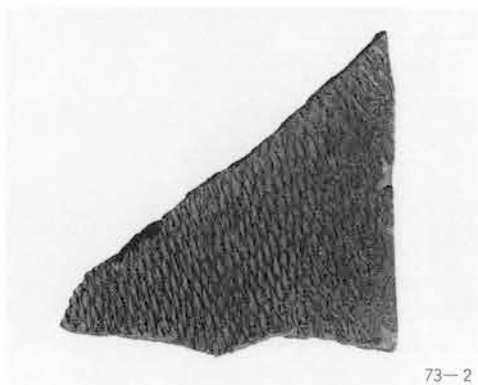
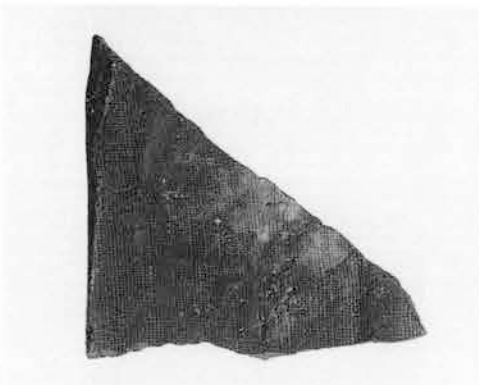
72-7



72-8



73-1



73-2



73-3



74-1



74-2



73-4



74-4



74-3



74-5



73-5



74-7



73-6



75-1



74-8



75-2



75-3



75-4



75-6



75-7



75-9



75-10



127-7



75-8



75-14



75-11



75-13



76-1



76-9



76-3



76-4



76-6



76-7



76-2



76-5



76-10



76-11



77-1



77-2



77-4



77-3



77-5



78-1



78-2



78-3



78-4



78-7



78-5



78-6





83-2



83-5



83-9



83-1



83-6



83-10



83-11



83-4



83-7



83-3



83-8



84-4



84-1



84-2



84-11



84-18



84-7



84-9



84-19



84-10



84-12



84-20



84-21



84-8



85-37



84-22



84-15



84-23



85-28



84-17



85-33



85-26



85-36



85-27



85-29



85-35



85-38



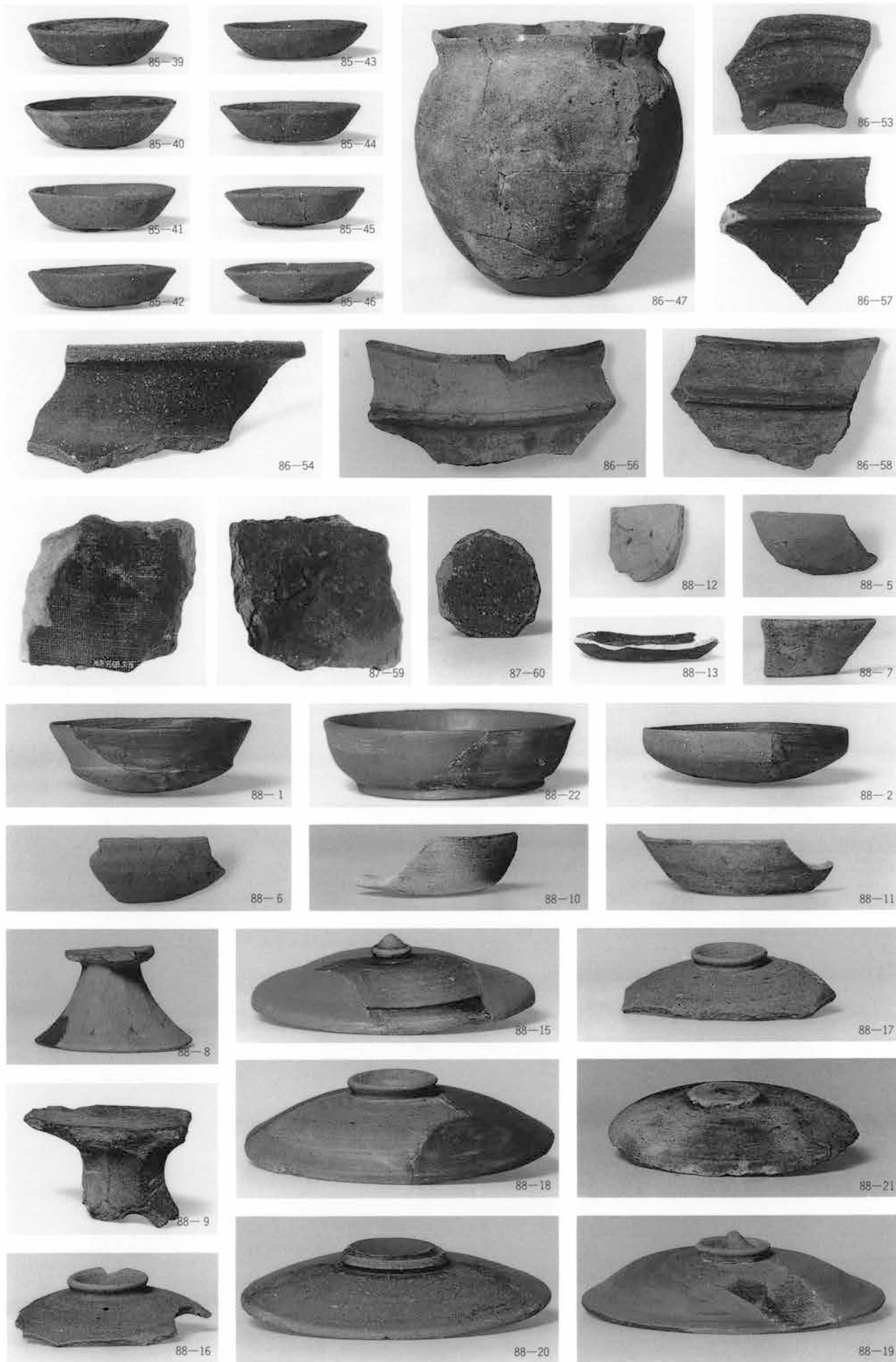
84-14



84-16



85-32





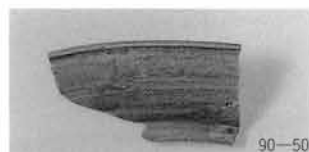
88-3



88-24



90-55



90-50



88-23



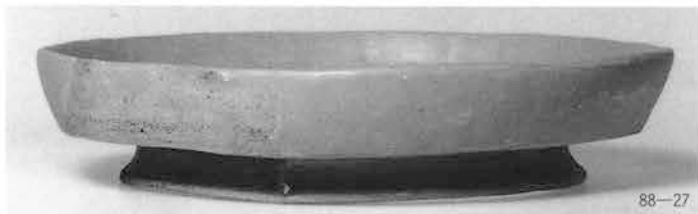
88-28



90-51



90-56



88-27



90-58



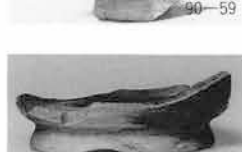
90-57



89-35



89-36



90-60



90-61



89-37



89-40



90-63



90-64



89-31



89-32



90-65



89-33



89-34



90-66



89-30



89-38



91-67



89-39



89-43



89-42



89-41



91-69



91-70



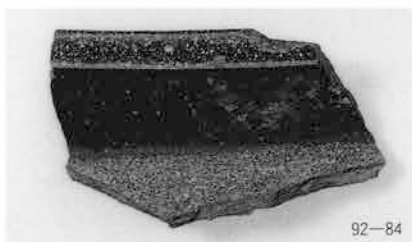
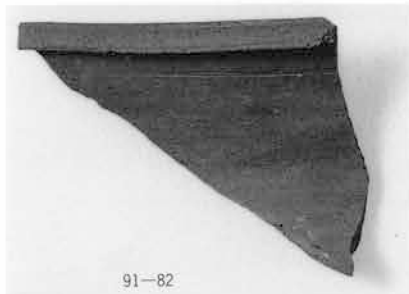
89-44



89-45



90-46







93-96

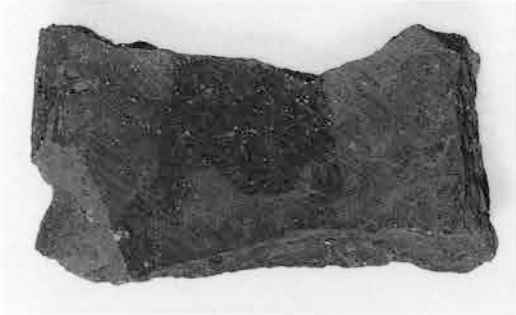
94-100



94-98



95-4



94-97



94-99



94-12



95-1



95-6



95-10



95-2



95-7



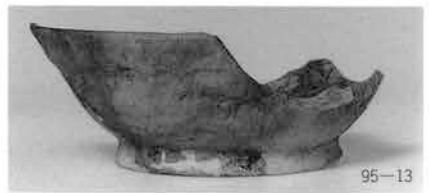
95-11



95-3



95-8



95-13



95-5



95-9



95-14

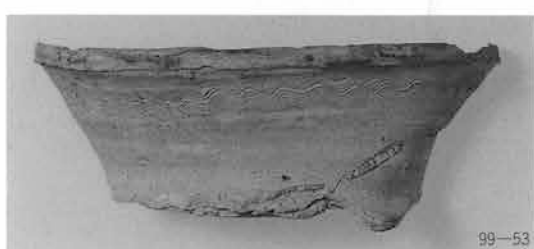
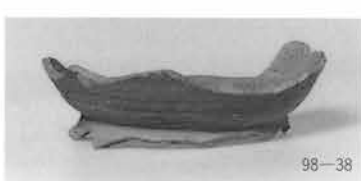
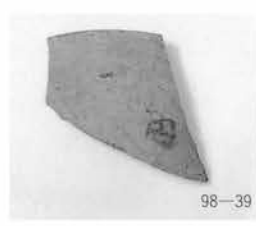


95-15



95-16







103-73



103-74



104-76





105-2



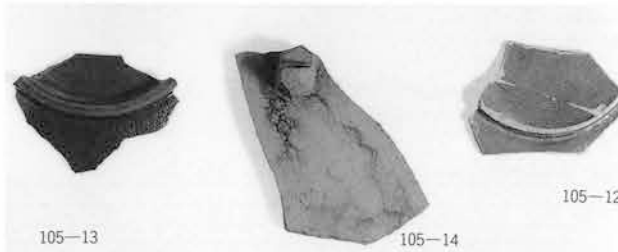
105-24



105-3



105-8



105-12



105-4



105-19



105-13



105-14



105-7



105-26



105-25



105-22



105-1



105-20



105-27



106-1



106-2



106-4



106-10



106-3



106-6



106-5



106-8



106-11



106-14



106-13



106-12



106-16



106-15



106-17



107-3



107-5



107-15



109-1



109-2



107-6



109-4



112-8



112-1



112-2



112-5



112-9



112-3



112-7



112-6



107-11



112-11



112-10



112-14



107-14



112-12



112-15



112-16



112-19



112-17



112-18



113-4



113-5



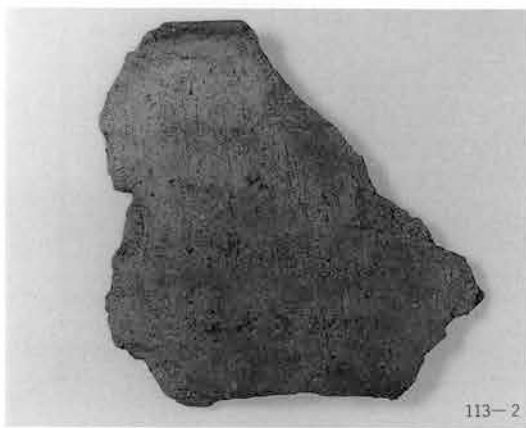
113-3



113-1



115-3



113-2



115-2



116-1



115-1



116-2



116-3



117-1



119-1



119-2



117-2



119-3



119-4



117-3



119-5



119-7



120-1



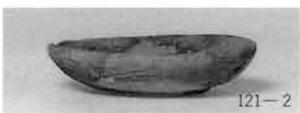
119-6



122-4



121-1



121-2



121-3



121-4



121-5



122-1



122-2



122-5



122-3



123-1

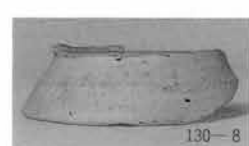
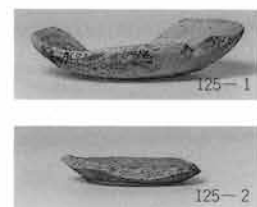


123-2



124-1







132-1



132-3



132-4



132-5



132-6



132-7



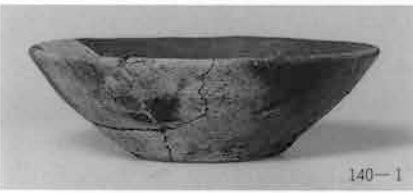
136-2



138-1



136-1



140-1



140-2



140-3



140-4



140-5



140-6



140-7



140-8



140-9



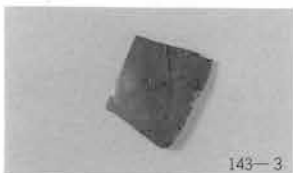
140-10



143-1



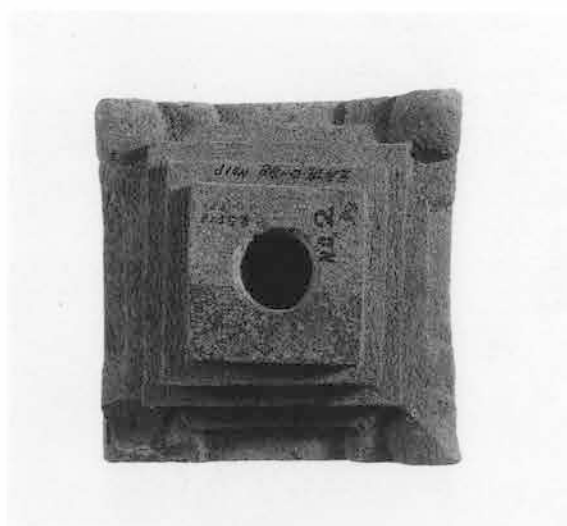
143-2



143-3



134-4



146-1



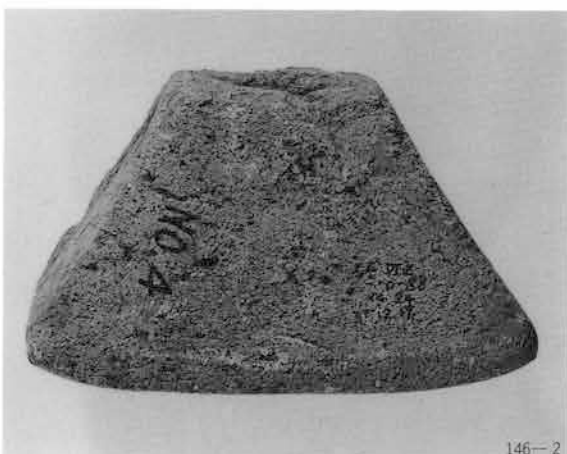
147-3

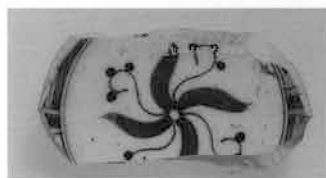
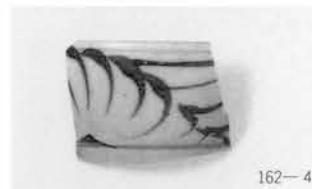


147-4



146-2







164-2

164-1

164-5

164-6

164-7

164-4

164-3

164-8



164-9



172-1



172-3



172-5



172-6



172-2



172-4



174-4



174-1



174-5



174-3

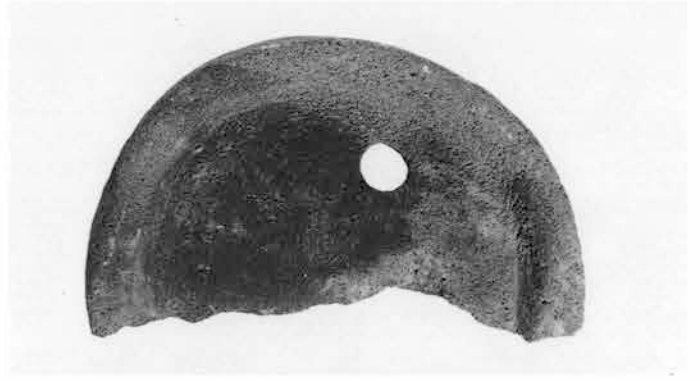


174-2



174-6





173-1



173-2



173-3



177-1



177-4



177-3



177-5



177-6



177-14



177-7



177-2



177-12



177-8





ヒト 頭蓋骨上面



ヒト 下顎骨右側面



ヒト 下顎骨上面



ヒト 頭蓋骨前面



ヒト 頭蓋骨左側面



ヒト 下顎骨側面



ヒト 上腕骨前面



ヒト



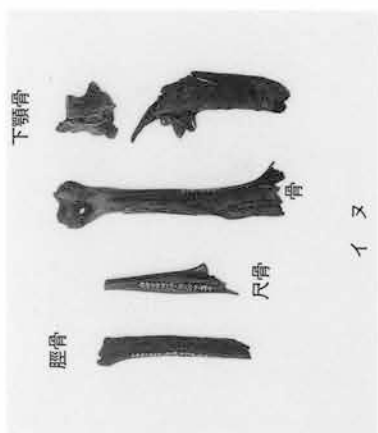
ヒト 上腕骨裏面



ヒト 脛骨



シカ 肩甲骨



下顎骨

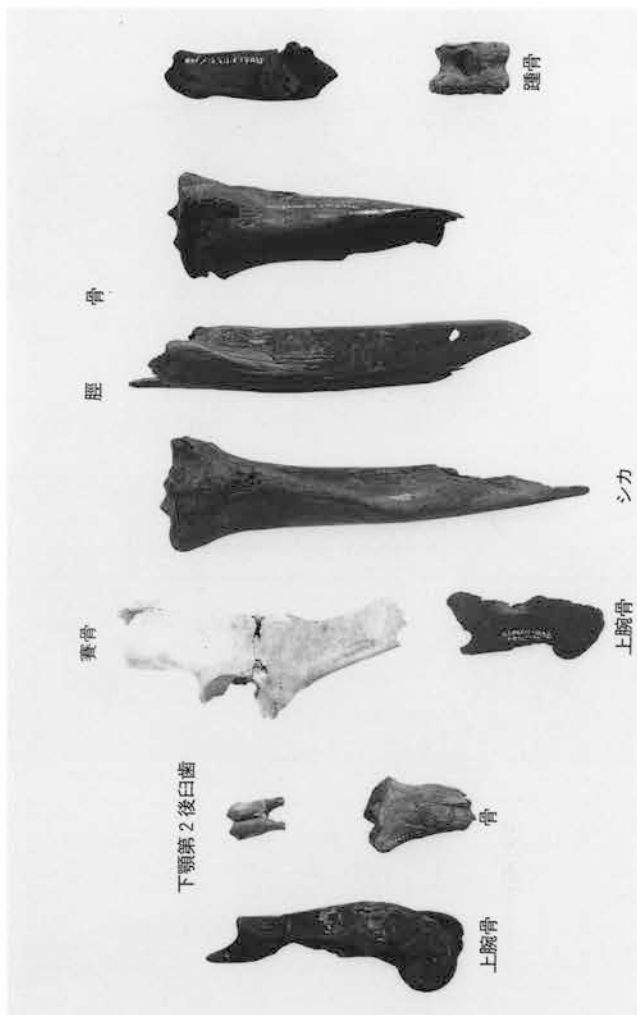
イヌ

尺骨

脛骨



イノシシ 上腕骨



骨

脛

シカ

上腕骨

踵骨

掌骨

下顎第2後臼歯

骨

上腕骨



ヒト 大腿骨



同上



ウマ 左側面

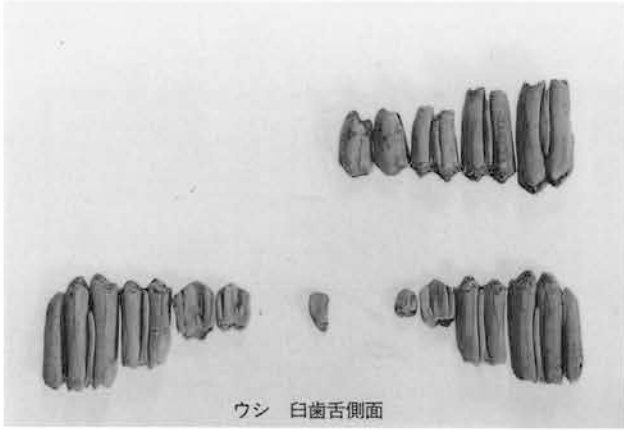


ウマ 上面

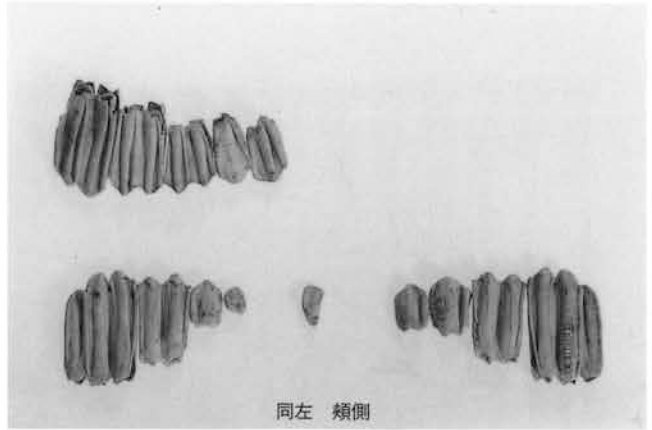


ウマ 右側面





ウシ 白歯舌側面



同左 頬側



ウシ 白歯頬側面



同左 舌側



ウシ



同上



ウマ 切歯



ウマ切歯



ウマ 下顎切歯舌側面



ウマ 上顎白歯頬側面



同左 舌側



ウマ 切歯



ウマ 切歯



ウマ 上顎白歯頬側面



同上 舌側



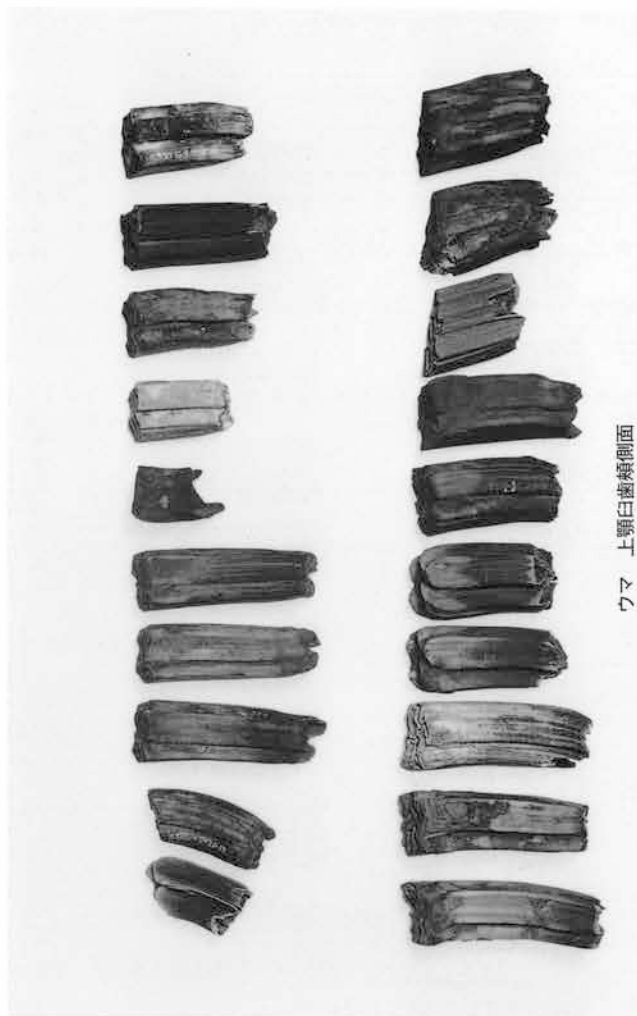
ウマ 上顎白歯頬側面



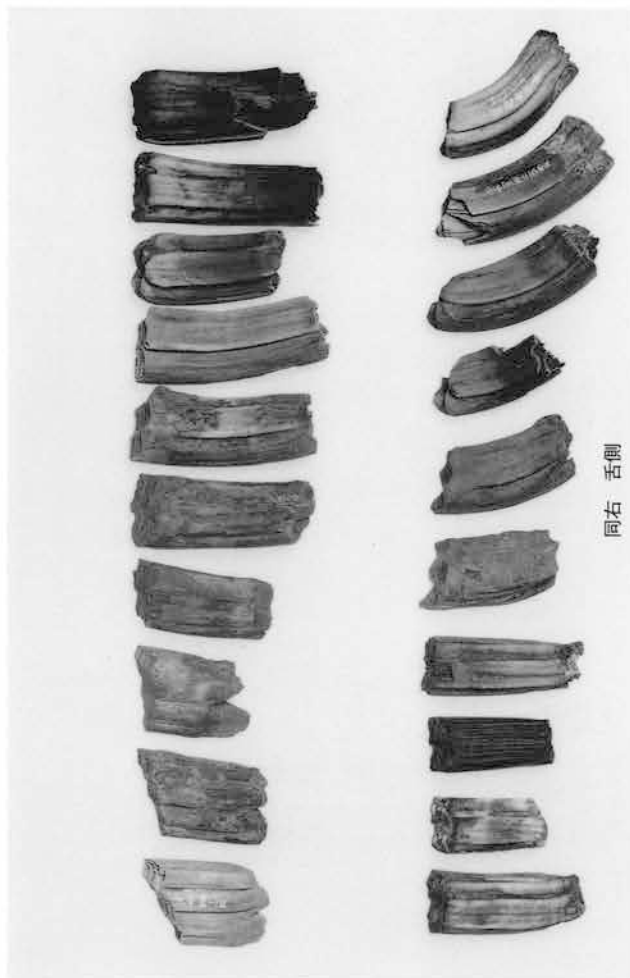
同上 舌側



ウマ 上顎臼歯頰側面



ウマ 上顎臼歯頰側面



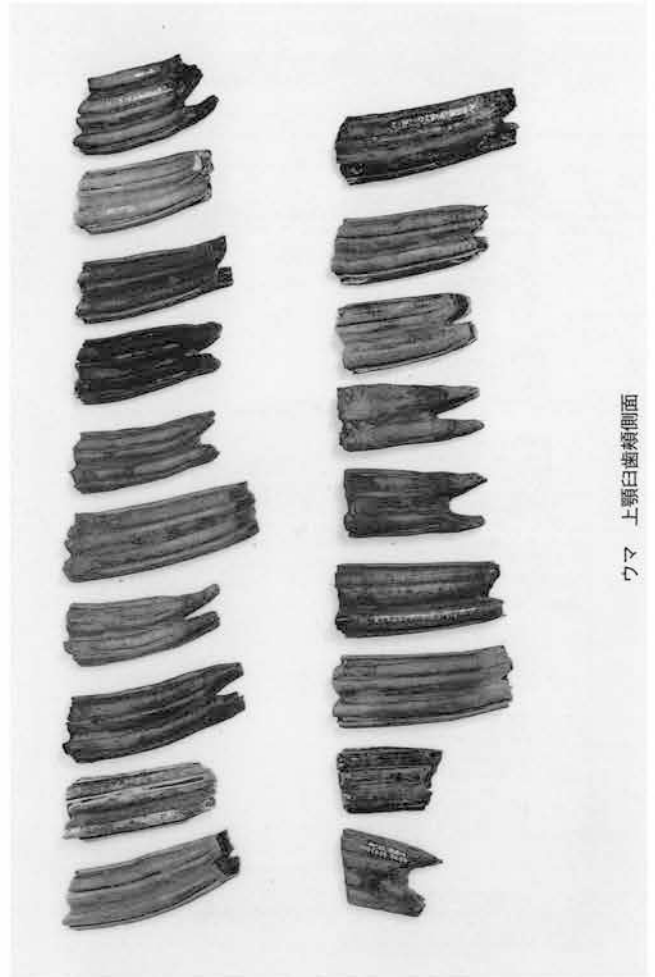
同右 舌側



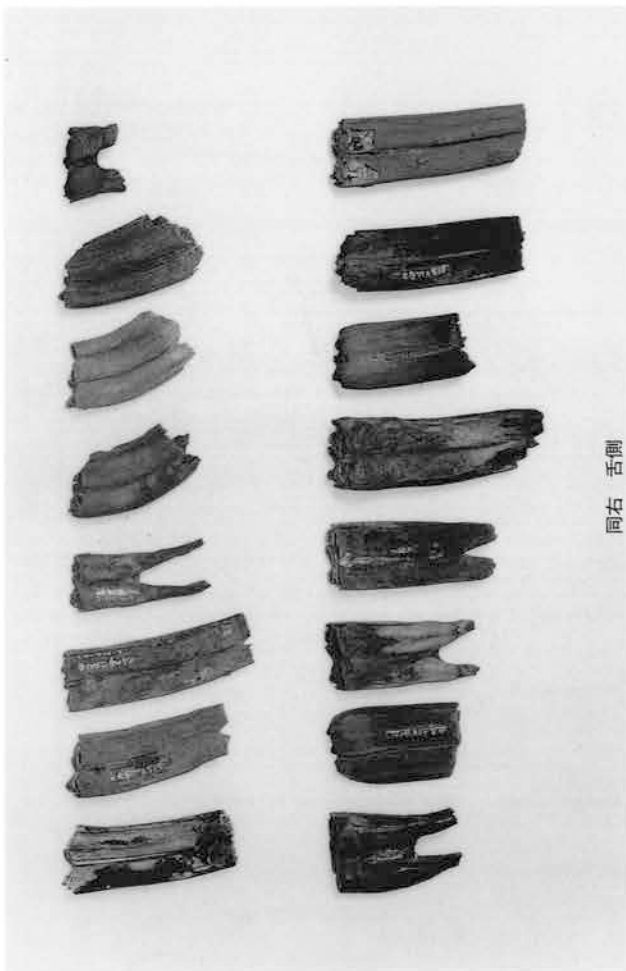
同右 舌側



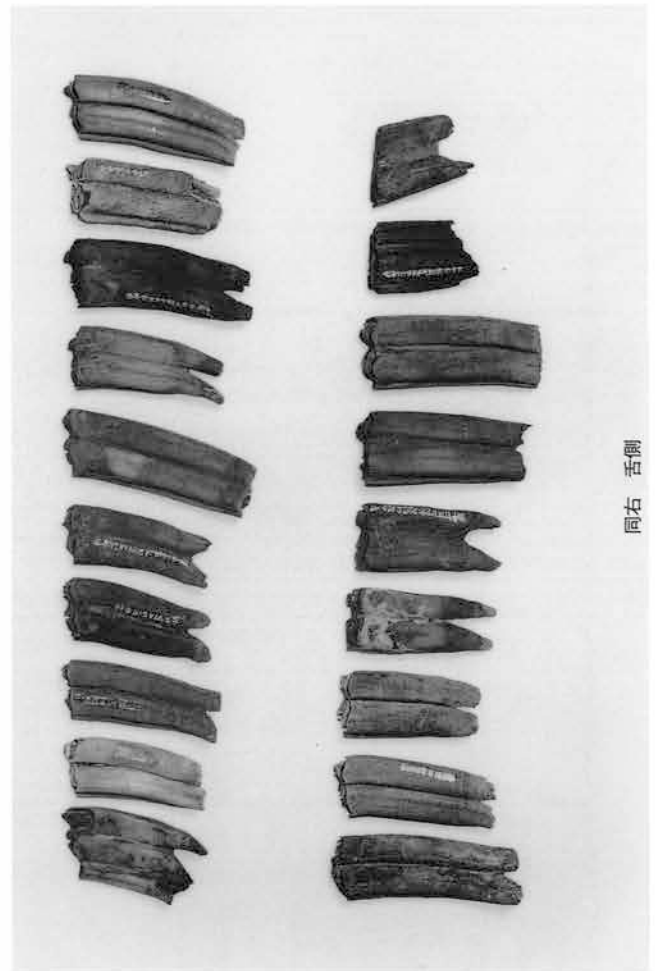
ウマ 上顎臼歯頰側面



ウマ 上顎臼歯頰側面



同右 舌側



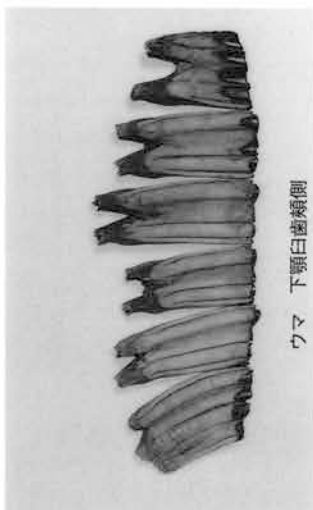
同右 舌側



ウマ 下顎白歯舌側



同右 頬側



ウマ 下顎白歯頬側



同上 舌側



ウマ 足枝骨



ウマ 手枝骨



ウマ 上腕骨



同右 裏面

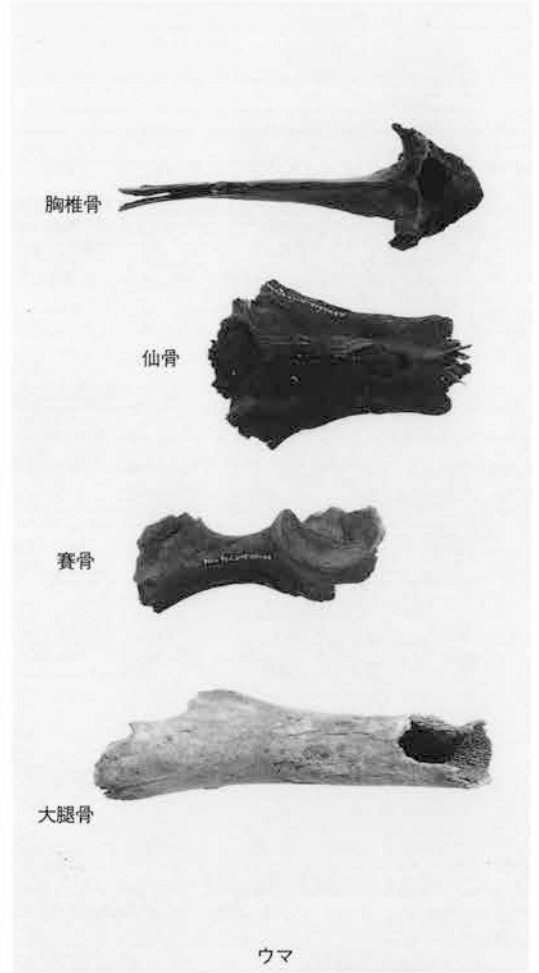


ウマ 基節骨上段と中節骨下段



同上 裏面







ウマ 脛骨



同上 裏面



ウマ 中足骨



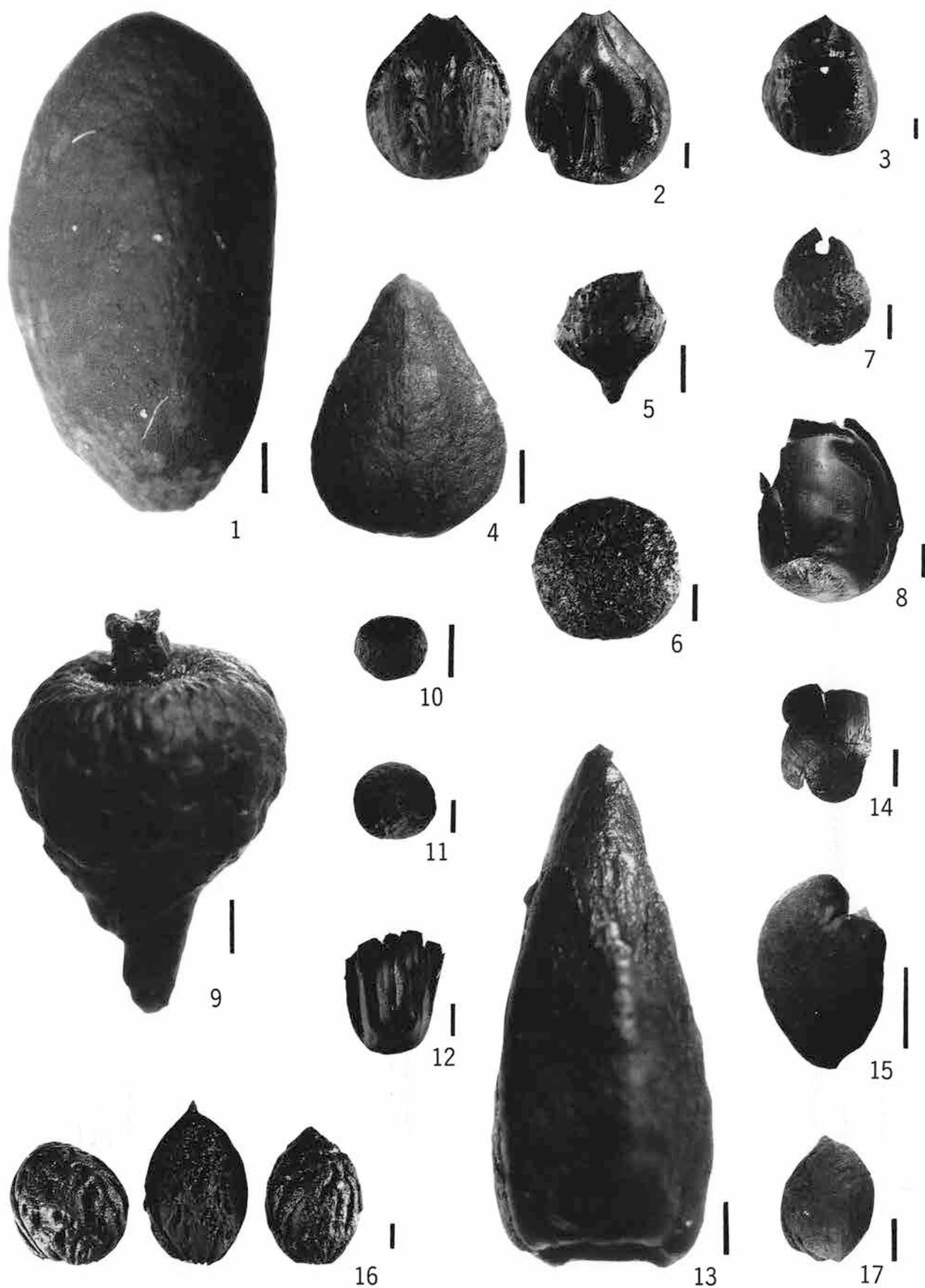
ウマ 中手骨



同右

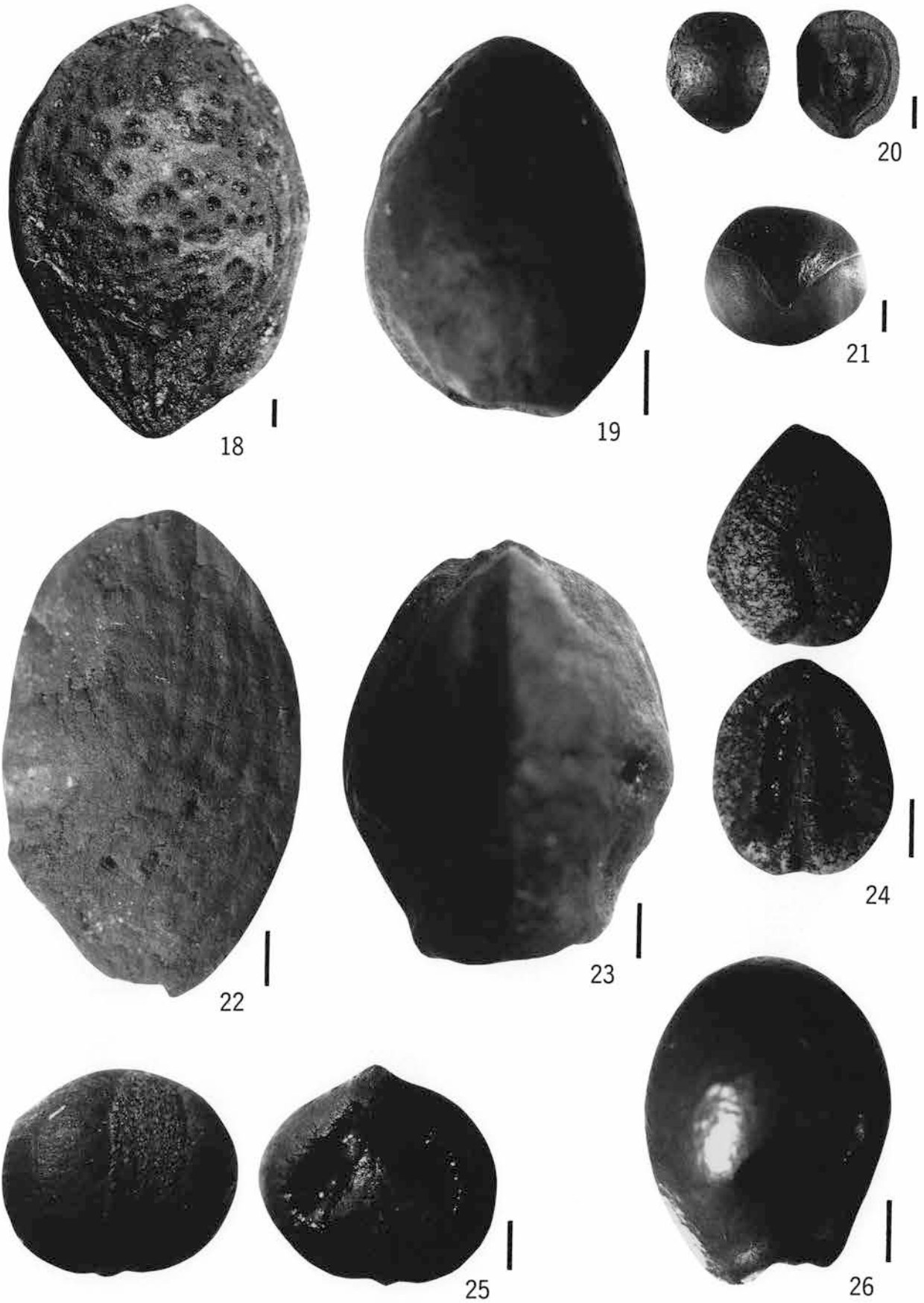


同右



VI・VII区低地出土の大型植物化石 (スケールは1cm、1、4、9、13、15は1mm)

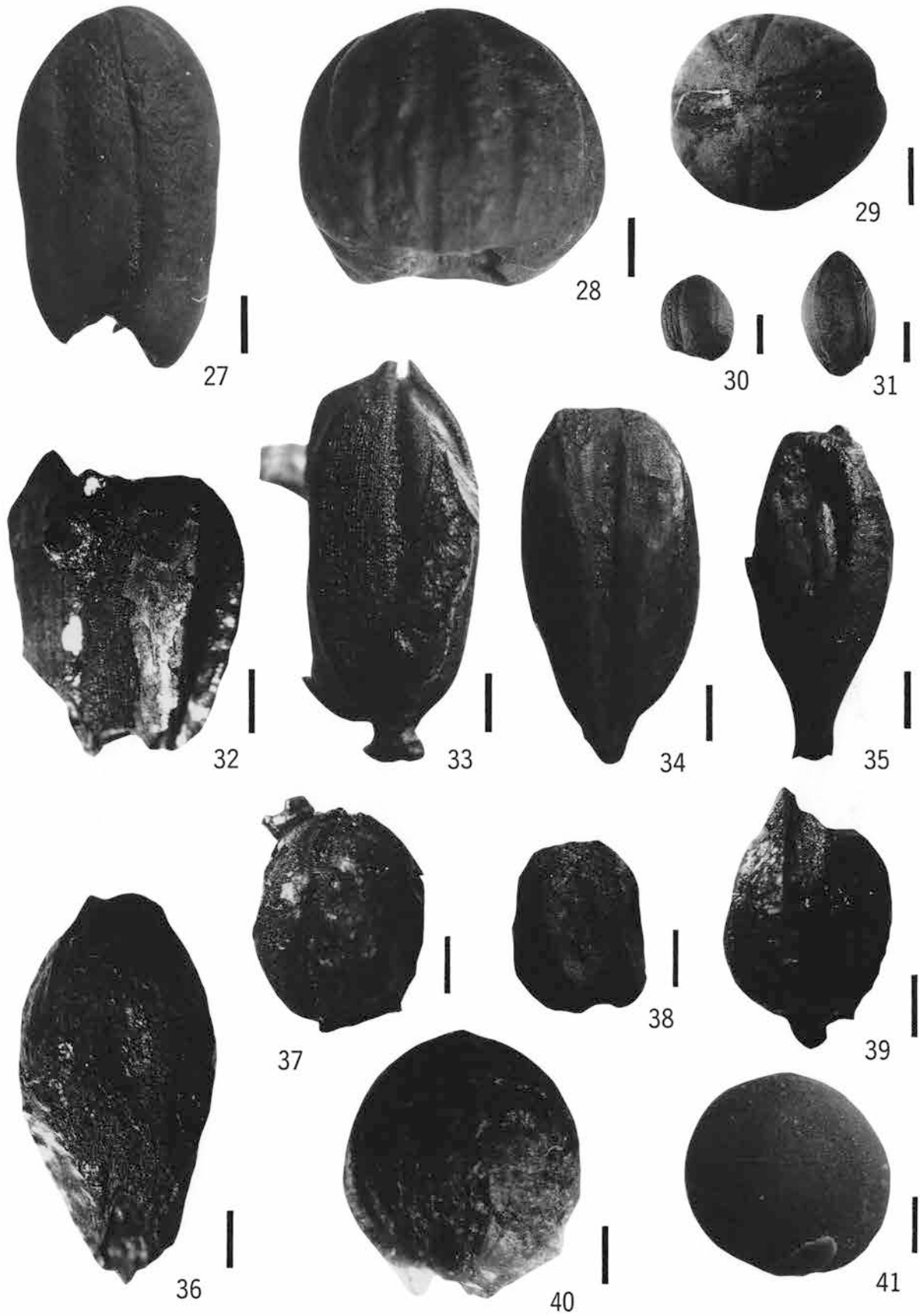
1. マツ属、種子(9) 2. オニグルミ、内果皮半分割跡(4) 3. オニグルミ、完形食痕(22) 4. イヌシデ、果実(9) 5. クヌギまたはアベマキまたはカシワ、幼果(6) 6. ナラガシワ、殻斗(6) 7. ナラガシワ、幼果(6) 8. ナラガシワ、果実(6) 9. コナラ、幼果(7) 10. コナラ、幼果(6) 11. コナラ、殻斗(6) 12. コナラ、果実(6) 13. コナラ属、芽(9) 14. コナラ亜属、果実破片(4) 15. クラ属、種子(1) 16. モモ、核(4) 17. アンズ、核(5)



VI・VII区低地出土の大型植物化石 (スケールは1mm、20、21は1cm)

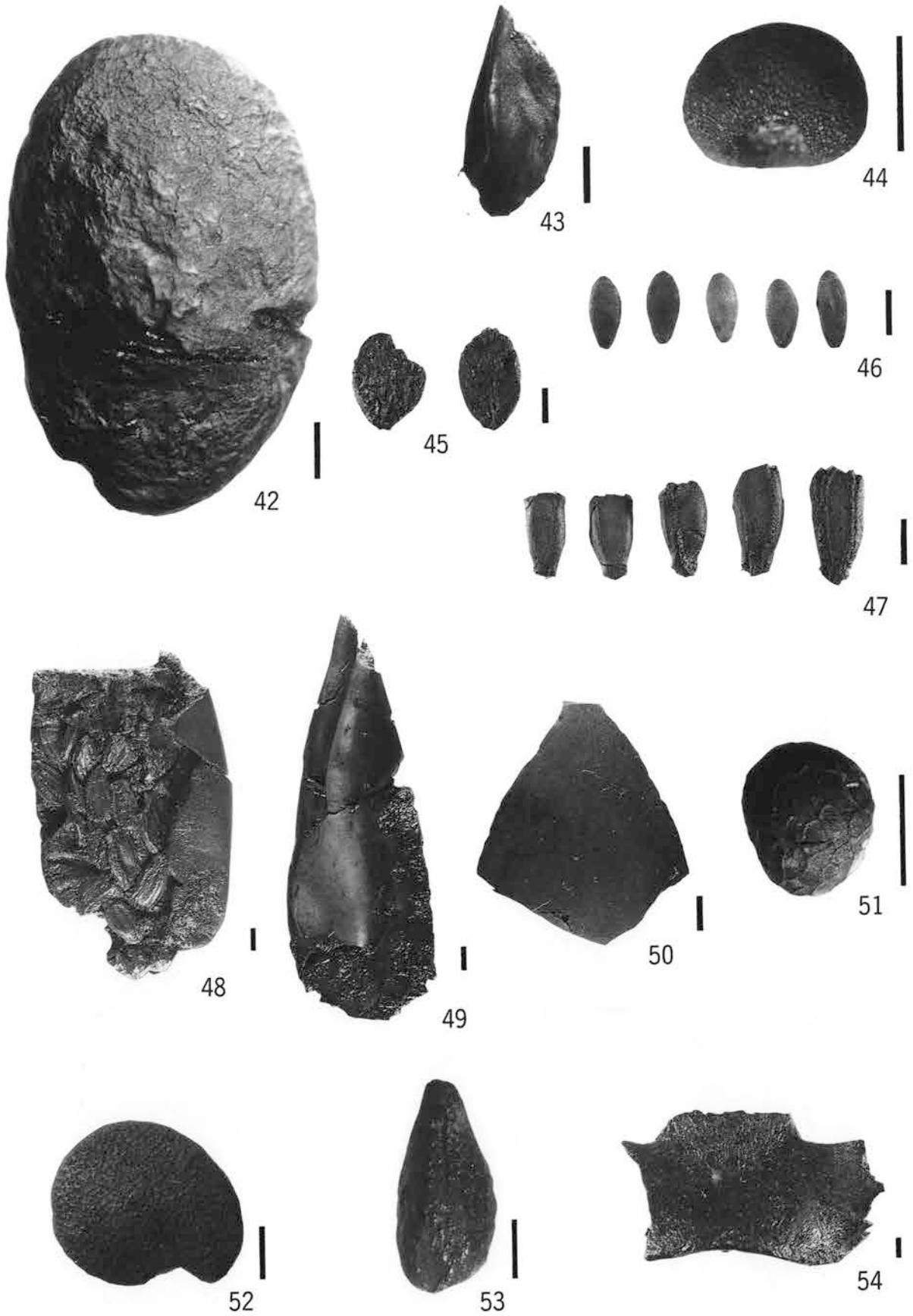
18.ウメ、核(1) 19.サクラ属サクラ節、核(7) 20.トチノキ、果実破片(6) 21.トチノキ、種子(6) 22.イタヤカエデ、果実破片(9) 23.トチノキ、幼果(7) 24.ブドウ属、種子(6) 25.ノブドウ、種子(6) 26.ミツバウツギ、種子(7)





VI・VII区低地出土の大型植物化石 (スケールは1mm、30、31は1cm)

27. クマヤナギ属、内果皮(7) 26. ミズキ、内果皮(7) 29. クマノミズキ、内果皮(7) 30. エゴノキ、内果皮(6) 31. ハクウンボク、内果皮(6) 32. イネ、炭化穎果(1) 34、35、36. オオムギ、炭化穎果(1) 37、38、39. コムギ、炭化胚乳(1) 40. カナムグラ、果実(9) 41. カナムグラ種子(6)

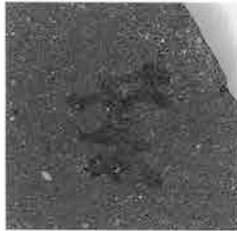


VI・VII区低地出土の大型植物化石 (スケールは1 cm、42. 43. 44. 51. 52. 53は1 mm)

42. マメ科、炭化種子(1) 43. ミゾソバ、果実(1) 44. アカネ科、種子(1) 45. ゴキヅル、種子(2) 46. キュウリ属メロン仲間、種子(5) 47. ヒョウタン、種子(5) 48. ヒョウタン、種子付果実(5) 49. ヒョウタン仲間、果実破片(6) 50. ヒョウタン仲間、果実破片(5) 51. イヌコウジュ属、果実(1) 52. ナス属、種子(1) 53. 不明果皮(3)



VI区5号河道「内」



VI区III層中「葉」



VI区3号河道「殿」カ



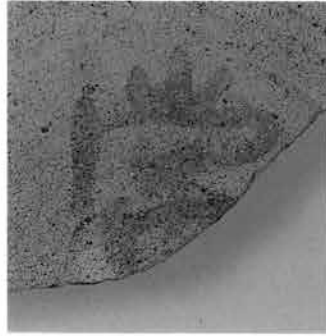
VI区III層中「大」



VI区5号河道「大」



VI区III層中「御」



VI区9号土坑「當」



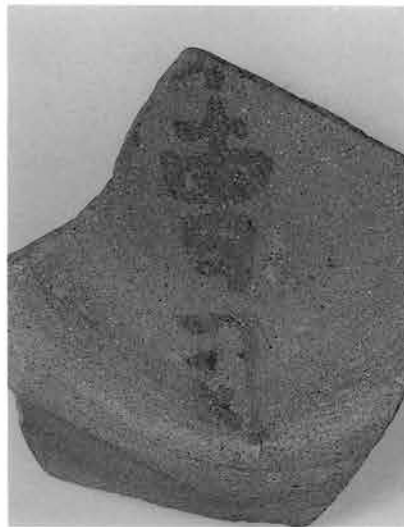
VI区3号河道「国」



VI区3号河道「厨」



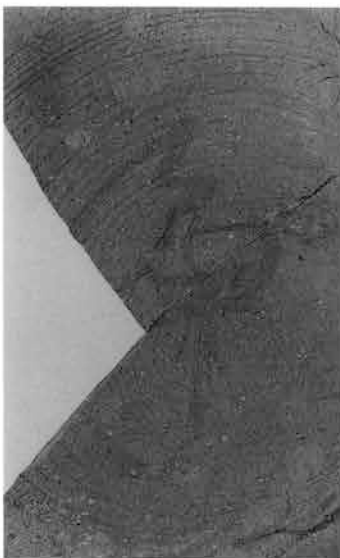
VI区4号河道「国厨」



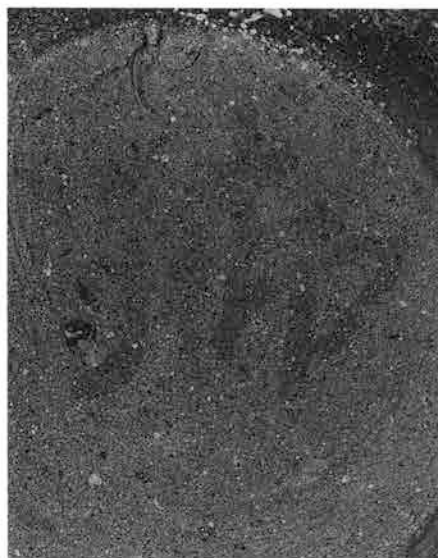
VI区5号河道「二曹司」



VI区3号河道「盛」



VI区III層中「浄」



VI区III層中「御」



VI区5号河道「黒山」と線刻



# 元総社寺田遺跡Ⅲ

《本 編》

一級河川牛池川河川改修工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第3集

平成8年3月20日 印刷

平成8年3月25日 発行

編集／財群馬県埋蔵文化財調査事業団  
勢多郡北橋村大字下箱田784-2  
電話 (0279) 52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会  
勢多郡北橋村大字下箱田784-2  
電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社